

上田市文化財調査報告書第96集

常入遺跡群

# 下町田遺跡 V

信州大学ベンチャービジネスラボラトリー棟の建設工事に伴う  
常入遺跡群下町田遺跡第5次発掘調査報告書

2004.3

信 州 大 学  
上 田 市  
上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第96集

常入遺跡群

# 下町田遺跡 V

信州大学ベンチャービジネスラボラトリー棟の建設工事に伴う  
常入遺跡群下町田遺跡第5次発掘調査報告書

2004.3

信 州 大 学  
上 田 市  
上田市教育委員会

## 序

このたび、信州大学ベンチャービジネスラボラトリー棟の建設工事を実施するにあたって事業地に所在する「下町田遺跡」の一部が失われることがわかり、その部分を調査して写真や図面などに記録することとなりました。その調査内容をここに御報告します。

信州大学繊維学部の前身上田蚕糸専門学校で、明治44（1911）年に開校されました。今日に至るまで世界最先端の研究がここで行われ、優秀な人材をたくさん輩出し続けています。昭和4年に完成した講堂は、現在国の登録文化財となっています。私たちにとって信州大学繊維学部は、近代における蚕糸業の中心地として栄えた「蚕都上田」を象徴する場所でもあるのです。

私たちの郷土には、長い歴史の跡が至るところに残されており、創置の信濃国分寺僧寺・尼寺跡や、国宝安楽寺八角三重塔、史跡上田城、無形文化財岳の轍をはじめとする数々の貴重な文化財があり、今日の上田市の繁栄はたくさんの先人の汗と努力の賜物として築かれたものであることを示しています。

新しい世紀にはいり、現代社会も一段と大きく変化しつつあり、日々、歴史の転換期にあることを実感させられます。まさに、文化や自然の諸相を幅広くとらえ、様々な角度から検証することが必要な時期となっているのです。このような中で、一人一人が歴史に対して主体的な判断力を養うことが大切であると思われまます。現代を生きる私たちの責任を果たすためには、誰かの歴史観をインストールするのではなく、自身の中に歴史を構築することが必要なのです。

身近に存在する文化財は、郷土の歴史と自然を知る上で貴重な情報源であり、将来の上田をつくるための生きた教材となるものです。このかけがえのない財産は一度破壊してしまったら二度と元に戻すことはできません。未来を壊してしまうことのないよう、大切に保存して次の世代に引き継いで行く必要があります。

発掘調査に際して、大学関係者、工事関係者各位ならびに調査に参加された皆様から上田市の文化財保護の理念に対して深い御理解を頂戴しました。おかげさまで、調査は順調に進捗し、弥生時代後期の良好な集落遺跡の一部が確認されました。心から御礼申し上げ、序といたします。

平成16年3月

上田市教育委員会教育長 森 大和

## 例 言

- 1 本書は、長野県上田市常田三丁目15番1号信州大学繊維学部構内における、信州大学ベンチャービジネスラボラトリー棟の建設工事に伴う常入遺跡詳下町田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、信州大学の委託に基づき、上田市（上田市教育委員会事務局生涯学習課）が実施した。
- 3 現地での調査は、平成15年4月21日から7月9日まで実施し、整理作業・報告書作成作業は、平成16年3月まで実施した。
- 4 遺構の実測は、井沢光子、大井敬子、山本万里が行った他、空中写真測量、図化を国際航業株式会社に委託して行った。また、遺構実測の基準となる国家座標によるグリッドの杭打ち、基準点、水準点の設置も同社に委託して実施した。
- 5 現地でのバックホーによる作業は、和濃興に依頼した。
- 6 遺物の整理及び報告書の作成作業は、久保田敦子、市村みつ子、井沢光子、大井敬子、山本万里、丸田由紀子、田村雄二が行った。また、遺物の実測の一部は、小川忠博に写真撮影を委託して、原寸大に焼き付けたものを基礎に図化、トレースした。
- 7 遺構の写真は、久保田敦子が撮影した。航空写真は、国際航業株式会社に委託して撮影した。
- 8 遺物の写真の一部は、小川忠博に委託したほか、久保田敦子が撮影した。
- 9 本調査にかかわる資料は上田市教育委員会が保管している。
- 10 木材の鑑定は信州大学農学部安江恒先生、石材の鑑定は甲田三男先生にお願いした。
- 11 本調査にあたり、五十嵐幹雄、塩入秀敏、次山淳、中本信忠、西香子、林田信明の各先生方、地元自治会、（財）長野県埋蔵文化財センター、長野県教育委員会の皆様をはじめとする多くの方々の御指導をいただいた。感謝の意を表したい。

# 凡 例

## 遺 構

- 1 遺構は、次のように略号で表した。また、番号は1996年の調査からの連番とした。  
    竪穴住居址 (SB- )   ピット (P- )   竪穴住居址内の柱穴 (P ) 土坑 (SK- )
- 2 遺構の実測図については、次のとおりである。
  - (1) 国家座標の北を頁の上とした。例外の場合は、方位を示した。
  - (2) 原図1/20、縮小1/3を原則とした。詳細な図が必要な場合は、原図1/10、縮小1/3とした。
  - (3) 縮尺は、図版に図で表している。
  - (4) 標高の単位はmである。
  - (5) 網点は焼土を、・は土器を表す。
- 3 遺構の記述については次のとおりである。
  - (1) 長さの単位は、mである。
  - (2) 主軸方位は国家座標による北と住居址の軸線との角度で示した。
  - (1) 竪穴住居址の壁高、上抗、ピットの深さは、検出面からの深さを示した。ただし、住居址内の周溝およびピットの深さは住居址の床面からの深さを示した。
- 4 土層の色調は、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1990)を用いた。
- 5 遺構の写真の縮尺は任意である。

## 遺 物

- 1 遺物実測図については、次のとおりである。
  - (1) 原図1/1である。縮小1/3であるが、例外もある。
  - (2) 網点は、赤色塗彩を施した範囲を示す。
- 2 遺物観察表については、次のとおりである。
  - (1) 法量の単位はcm、gである。
  - (2) 「胎」を胎土、「焼」を焼成、「色」を色調とした。
  - (3) ( ) 内の数値は、土器については推定値、石器については残存値を示す。
  - (4) 土器の色調は上記の『新版標準土色帖』を用いた。
- 3 遺物の写真の縮尺は任意である。

# 目次

序	
例言	
凡例	
目次	
第一章 調査の経緯	
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の体制	1
第3節 調査日誌	1
第4節 調査の方法	2
1 遺跡名	2
2 遺跡略号	3
3 座標とグリッドの設定	3
4 調査方法	3
5 遺跡測量	3
第二章 遺跡の環境	
第1節 自然的環境	4
第2節 歴史的環境	8
第3節 遺跡の層序	13
第三章 調査の結果	
第1節 調査の概要	14
第2節 遺構	14
1 竪穴住居址	14
2 溝跡	22
3 井戸跡	22
4 土坑・ピット	23
第3節 遺物	23
1 土器	23
(1) 遺構出土の土器	
(2) 遺構外出土の土器	
2 石器	34
(1) 遺構出土の石器類	
(2) 遺構外出土の石器類	
3 その他の遺物	34
(1) 遺構出土のその他の遺物	
(2) 遺構外出土のその他の遺物	
第4節 まとめ	35
(1) 遺構について	
(2) 遺物について	

## 挿図目次

第1図 地形区分図	5	第29図 S B - 8 6 土器実測図	76
第2図 遺跡周辺の地形図	5	第30図 S B - 8 7 土器実測図	78
第3図 周辺遺跡分布図	10	第31図 S B - 8 8 土器実測図	79
第4図 基本層序	13	第32図 S B - 8 9 土器実測図	80
第5図 調査地位置図	15	第33図 S B - 9 0 土器実測図	81
第6図 遺構配置図	16	第34図 S B - 9 1 土器実測図	82
第7図 調査関連図1~5	38	第35図 S B - 9 2 土器実測図	86
第8図 調査地区周辺地形図	40	第36図 S B - 9 3 土器実測図	87
第9図 S B - 84 実測図	41	第37図 S B - 9 4 土器実測図	89
第10図 S B - 85 実測図	43	第38図 S B - 9 5 土器実測図	96
第11図 S B - 86 実測図	44	第39図 S B - 9 6 土器実測図	97
第12図 S B - 87 実測図	46	第40図 S B - 9 7 土器実測図	97
第13図 S B - 88 実測図	47	第41図 S B - 9 8 土器実測図	98
第14図 S B - 89 実測図	48	第42図 S D - 0 6 土器実測図	98
第15図 S B - 90 実測図	50	第43図 S E - 0 1 土器実測図	99
第16図 S B - 91 実測図	51	第44図 紡錘車・土製円盤実測図	109
第17図 S B - 92 実測図	53	第45図 石器実測図	109
第18図 S B - 93 実測図	54	第46図 井戸木枠実測図	111
第19図 S B - 94 実測図	55		
第20図 S B - 95 実測図	57		
第21図 S B - 96 実測図	58		
第22図 S B - 97 実測図	58		
第23図 S B - 98 実測図	59		
第24図 S D - 0 6 実測図	60		
第25図 S E - 0 1 実測図	61		
第26図 S K ・ピット実測図	63		
第27図 S B - 8 4 土器実測図	72		
第28図 S B - 8 5 土器実測図	74		

## 挿表目次

第1表 上田地域の地層区分表	6
第2表 周辺遺跡一覧表	11
第3表 竪穴住居址観察表(1) (S B - 8 4 ~ 8 7)	66
第4表 竪穴住居址観察表(2) (S B - 8 8 ~ 9 1)	67
第5表 竪穴住居址観察表(3) (S B - 9 2 ~ 9 5)	68
第6表 竪穴住居址観察表(4) (S B - 9 6 ~ 9 8)	69
第7表 井戸跡観察表 (S E - 0 1)	70
第8表 土坑・ピット観察表 (S K - 5 1 ・ P)	71
第9表 土器観察表(1) (S B - 8 4 ・ 8 5)	115
第10表 土器観察表(2) (S B - 8 5 ・ 8 6)	116

第11表 土器観察表 (3) (SB-86・87) 117	写真図版7 遺構 (SB-94~SB-98)
第12表 土器観察表 (4) (SB-87~89) 118	写真図版8 遺構 (SB-98・SK・SD・SE-01)
第13表 土器観察表 (5) (SB-89~91) 119	写真図版9 遺物 (SB-84・SB-85)
第14表 土器観察表 (6) (SB-91) …… 120	写真図版10 遺物 (SB-85・SB-86)
第15表 土器観察表 (7) (SB-91) …… 121	写真図版11 遺物 (SB-86・SB-87)
第16表 土器観察表 (8) (SB-91~93) 122	写真図版12 遺物 (SB-87~SB-89)
第17表 土器観察表 (9) (SB-93・94) 123	写真図版13 遺物 (SB-89・SB-90)
第18表 土器観察表 (10) (SB-94) …… 124	写真図版14 遺物 (SB-90・SB-91)
第19表 土器観察表 (11) (SB-94) …… 125	写真図版15 遺物 (SB-91)
第20表 土器観察表 (12) (SB-94) …… 126	写真図版16 遺物 (SB-91~SB-93)
第21表 土器観察表 (13) (SB-94~96) …… 127	写真図版17 遺物 (SB-93・SB-94)
第22表 土器観察表 (14) (SB-96~98・SD) 128	写真図版18 遺物 (SB-94)
第23表 土器観察表 (15) (SE-01) …… 129	写真図版19 遺物 (SB-94)
第24表 土器観察表 (16) (SE-01) …… 130	写真図版20 遺物 (SB-94)
第25表 土器観察表 (17) (SE-01) …… 131	写真図版21 遺物 (SB-94・SB-95)
第26表 土器観察表 (18) (SE-01) …… 132	写真図版22 遺物 (SB-95~98・SD・SE-01)
第27表 土器観察表 (19) (SE-01) …… 133	写真図版23 遺物 (SE-01)
第28表 土器観察表 (20) (SE-01) …… 134	写真図版24 遺物 (SE-01)
第29表 土器観察表 (21) (SE-01) …… 135	写真図版25 遺物 (SE-01)
第30表 紡錘車・土製円盤観察表…………… 135	写真図版26 遺物 (SE-01)
第31表 石器観察表…………… 136	写真図版27 遺物 (SE-01)
第32表 井戸木枠観察表…………… 136	写真図版28 遺物 (SE-01)・土製品・石器
	写真図版29 遺物 (SE-01出土の木製井戸枠等)

## 写真図版目次

写真図版 1 調査地区全景
写真図版 2 遺構 (SB-84~SB-86)
写真図版 3 遺構 (SB-86~SB-88)
写真図版 4 遺構 (SB-88・SB-89)
写真図版 5 遺構 (SB-89~SB-91)
写真図版 6 遺構 (SB-92~SB-94)



# 第一章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経過

平成14年12月、上田市教育委員会事務局生涯学習課（以下「事務局」という。）に、信州大学施設部企画課（以下「企画課」という。）から、信州大学繊維学部構内にベンチャービジネスラボラトリー棟の建設計画策定にあたり、従前から構内で建物建設の都度実施してきた下町田遺跡の所在と取り扱いについて照会があった。建物は、平成13年に発掘調査を行った「産学官連携支援施設」の東に隣接する土地で、遺跡が照会の土地まで広がっていることは明白であった。事務局と企画課ではさっそく遺跡の保護措置について協議を行ったが、計画建物は鉄筋コンクリート4階建の大規模なもので、遺跡の現状保存は不可能であったため、記録保存を講ずるために、発掘調査の計画と予算措置の策定にかかり、平成15年1月6日に事務局から企画課に宛てて調査見積書を提出した。その後、幾度かの現地協議を経て、平成15年4月8日に発掘調査費7,560,000円をもって、信州大学事務局長と上田市長の間で委託契約書が取り交わされ、調査に着手した。

## 第2節 調査の体制

常田遺跡群下町田遺跡第5次発掘調査に係る体制は、以下のとおりである。調査事務は上田市教育委員会事務局生涯学習課が行った。

教育長	森 大 和
教育次長	内 藤 正 則
文化課長	宮 下 省 二
文化財係長	小 林 浩
主 査	中 沢 徳 士
	尾 見 智 志
	塩 崎 幸 夫
	久 保 田 教 子

調査作業員（順不同、敬称略）

秋山八栄子、新井邦雄、池田一郎、内山仁志、甲田五夫、滝原久夫、田村雄二、溝木重雄、溝木ゆき恵、和田和英、井沢光子、市村みづ子、大井敦子、丸田由紀子、山本万里、饗場奈那江、石合好江、田村まり子

## 第3節 調査日誌（抄）

4月21日 重機による表土剥着手。

5月6日 遺構検出作業を行う。

- 5月12日 SB-91、SB-92等掘り上げ着手。
- 5月13日 メッシュ杭打実施する。
- 5月14日 遺構配置図、SB-91の実測作業を行う。
- 6月5日 SE-01の調査着手。
- 6月10日 SE-01水中ポンプを設置する。
- 6月24日 西香子先生よりSE-01についてご教示いただく。
- 6月30日 測量用航空撮影を行う。
- 7月1日 甲田三男先生より遺跡の地質についてご教示いただく。
- 7月2日 五十嵐幹雄先生よりご教示いただく。
- 7月3日 奈良文化財研究所次山淳先生にご指導をいただく。
- 7月4日 SE-01を重機により半裁して調査する。
- 7月6日 現地見学会を実施する。
- 7月8日 SE-01の井戸枠取り上げ。
- 7月9日 遺構実測。機材を撤収して現地での調査を終了する。

この後、上田市天神二丁目の埋蔵文化財整理室で遺物の洗浄、注記、接合、図化及び現地調査で得た各種資料の整理並びに報告書の作成作業を行い、平成16年3月に報告書を刊行して調査を終了した。

## 第4節 調査の方法

### 1 遺跡名

1977年の長野県教育委員会『長野県市町村遺跡分布地図』及び1979年の上田市教育委員会『上田市文化財分布地図』において、本遺跡名は「常入遺跡群」としている。これは、1977年に刊行された上田市教育委員会『上田市の原始・古代文化』に記載されている堀之内、上町田、西町田、下町田、中村、手筒山、東町

田、藤ノ森遺跡等の範囲を一括したものである。平成8年に実施した大学院棟建設に伴う発掘調査では、「常入遺跡群 下町田遺跡」という名称を使用した。その後今回の5次調査まで、上田市教育委員会はこの名称を継続して使用している。なお、これら以前に「信州大学繊維学部敷地遺跡」として報告・研究が行われており、この名称でも広く認識されている。

## 2 遺跡略号

遺跡略号として、Shimo-machi-daの「S M D」を付し、第5次調査を示すローマ数字「V」を組み合わせて「SMD-V」とした。各種の記号や遺物の注記等にこの略号を用いた。

## 3 座標とグリッドの設定

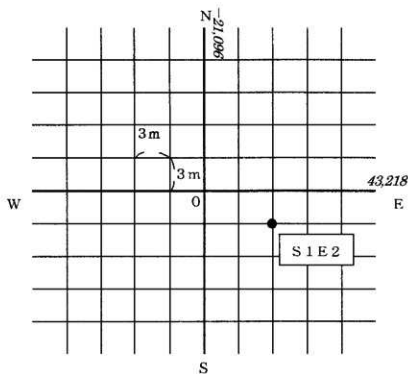
下町田遺跡第1次発掘調査で用いたものと連続したグリッドを設定し、遺物の取り上げと測量等に用いた。これは、国家座標に従い、 $3 \times 3\text{m}$ の方眼をはり、方眼の交点に記号を与えたものである。記号は、任意の地点を原点0とし、そこから方向を示すために東・西・南・北にE・W・S・Nを、距離を示すために3mを1単位とした1・2・3・4…の数字を与え、この両者の組み合わせによって表した。例えば、原点0から南に3m、東に6mの地点のグリッドはS1E2となる。原点0の地点は、国家座標第VIII系の $X=43,218,000$ 、 $Y=-21,096,000$ である。

## 4 調査方法

調査範囲は、これまでの調査の結果に基づき、建物の範囲とした。また、調査に際しては、表土の排除はバックホーを用い、その後の遺構検出、遺構掘り上げはすべて人手によった。

## 5 遺構測量

遺構の平面実測は、上のグリッドを基準に簡易造り方を用いて行った。更に測量用の空中写真の撮影と図化作業を委託して実施した。



## 第二章 遺跡の環境

### 第1節 自然的環境

太郎山や小牧山・城山・独結山・殿城山などの山々に囲まれた上田盆地には、千曲川や依田川・産川・浦野川などが流れ、河岸段丘も発達している。河岸段丘のほかにも断層活動による段丘状の崖地形もみられ、また盆地を囲む山々の谷口や崖地形が発達しているところでは扇状地が広がっている。上田盆地の南では塩田平と呼ばれる平坦な地形が広がっていて、川筋などに湖成層が露出しているところもある。盆地内の地層や地形は、第四紀に湖や川・火山・断層・火砕流・火山泥流などによって形成されたものである。この中で本調査地は、上田原湖成層の堆積物からなる上田原面という地形面に所在する（第1・2図の白が調査地）。

遺跡はこのような環境の中に存在するのであるが、その概要について平成14年に上田市が刊行した「上田市誌自然編（1）上田の地質と土壌」の第1章を参考に以下に述べたいと思う。

#### 1 上田盆地の湖に堆積してできた湖成層

第四紀に上田盆地には大きな湖が3回ほどできたと考えられる。これらに堆積した地層は古い順に古期上小湖成層・新期上小湖成層・上田原湖成層と呼ばれ、時代が古いものほど湖は大きい。古期上小湖成層は標高の高い盆地の周辺に分布しているのに対して、新期上小湖成層はそれより低い場所に分布している。上田原湖成層は千曲川に沿って細長く分布していて、染屋面の断層下にできた小規模な湖であったといえる。千曲川の両岸に分布する染屋面の一部が活断層で大きく沈みそこに湖ができたためと考えられる。

古期上小湖成層はおよそ90万年前に湖に堆積した地層であることがわかっている。新期上小湖成層は、東築地、八木沢及び幸賀から採集された泥岩層や泥炭層に含まれている炭化木により、39,000年、51,000年、61,000年という結果が出ている。上田原湖成層も炭化木の年代測定から28,000年前と報告されている。新期上小湖成層からは、ナウマンゾウやエゾシカ・ウマなどの化石が出ることから、この湖ができたころにはたくさん動物がこの周辺にすんでいたことが分かっている。

また、上田泥流が盆地に流れ込み、太郎山系の河川をせき止めたためにできた、上田湿性土堆積物と呼ばれる湖沼性の堆積物が市街地の部分に分布している。

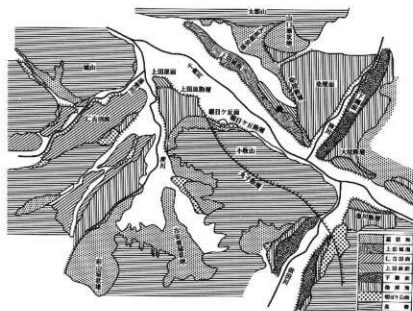
#### 2 上田盆地を覆った火砕流

殿城山の南の鷲場火山から火砕流が発生し、上田盆地全体を火山灰で覆いつくしたことが分かっている。鷲場火山は60万年前から3万年前ごろまで活動した火山で、特に6万年前から4万年前にかけて活動し、新期上小湖成層が堆積した湖に軽石流を出して平井寺軽石層として残っている。また、それとは別に新期上小湖成層が形成された以後にも活動しており、染屋層や新期上小湖成層の上に鷲場火砕流が堆積している。少なくとも二度にわたって火砕流が発生しており、下位を第1鷲場火山灰流、上位を第2鷲場火山灰流と呼んでいる。

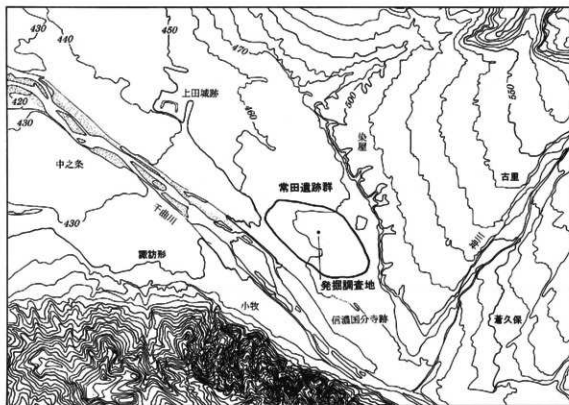
#### 3 台地をつくる河岸段丘と段丘崖地形

**染屋面** 礫岩層を主とする染屋層は千曲川上流や神川・依田川上流になる岩石が川によって運ばれて堆積してできた地層である。この染屋層の堆積物からできている平坦な地形を染屋面という。染屋面は盆地の北東側の大部分を占めて広がっている。染屋層は千曲川左岸地域にも広く分布していて、平坦な地形を形成している。

**上田原面** 上田原湖成層からできている平坦な地形面を上田原面と呼ぶ。この面は染屋面より低く、上田城



第1図 地形区分図



第2図 遺跡周辺の地形図

年代区分		地層区分		主な火成活動	大型動物化石		
1700年前 1370年前 70年前 1700年前 520年前 1100年前 1400年前 1500年前 1700年前 6500年前	新紀	完新世	古代 弥生 縄文	扇状地、崖線堆積物	上田泥流 鶯場火山灰流 潮沼の堆積物 海の堆積物	ナウマンゾウ（下木郷、青木村当郷） アジアノロバ（上室賀）、エゾシカ（神郷）、ヤベオオツノシカ（青木村当郷） アケボノゾウ（丸子町塩川）	
			上田湿地性堆積物				
		更新世	旧石器時代	上田原湖成層 新期上小湖成層 古期上小湖成層			
			鮮新世	大杭層			
	中生代	第三紀	中新世	小川層			半邊岩鼻角閃石石英ひん岩 太郎山天狗岩流紋岩 弘法山石英安山岩
				青木層			小泉凝灰岩
				別所層			独崎山玄武岩貫安山岩 緑色凝灰岩
				内村層			
	第四紀	漸新世					
		始新世					
暁新世							

第1表 上田地域の地層区分表

面より高い。千曲川右岸では国分の国露津徳神社から始まり、国分付近では染屋面の崖下を取り囲むように分布し、向きを変えて、信州大学繊維学部・科野大宮社・口輪寺方面に広がっている。千曲川左岸では、上田原、丸子町の狐塚の地形面が上田原面である。

**上田城面** 上田城面は、千曲川上流から上田盆地に流れ込んだ泥流の堆積物からできている。千曲川左岸は浸食されてしまったので現在は見ることはできない。右岸地域では塩尻の国道18号線と上田バイパスが分離する付近から始まり、上田城・信濃国分寺など千曲川に沿って見られる。千曲川との比高は15～17mもあり、右岸地域はかなり隆起していることを示している。

**下郷面** 下郷面は、隆起する染屋面を神川が浸食した結果できた段丘で、上田盆地では数少ない浸食面である。この面の上には鶯場第2火山灰流が堆積している。

**塩田平の段丘** 産川沿いの左岸下流では比高5mの段丘崖が上田交通別所線大字駅西方から神郷駅西方にかけて連なっている。しかし、追開沢川や尻無川などの川沿いには、歴史時代からの開墾やほ場整備事業などにより段丘崖が壊され、段丘地形が見られない。しかし調査により、ため池や産川の川底からは鶯場火山灰流が観察された。この地域は段丘上にある、下小島方面に半球状に伸びている。

産川のように大きな川が段丘上を流れている例は他にほとんどない。本郷面上を産川が流れるようになったのは、新町から鈴子にかけて走る断層が活動した結果により塩田平側が大きく沈んだためと考えられている。それに加えて神戸川の押し出しにより上本郷の染屋面との段差が無くなり、染屋面下の尻無川に流れていた産川が段丘上を流れるようになったと考えられる。深い谷を染屋面上に形成していないことから、沖積時代にこのようになったものと考えられる。

朝日ヶ丘・国分・大屋等の断層崖 朝日ヶ丘西方には染塵面・上田原面が形成されているのに対して、朝日ヶ丘付近には新期上小湖成層があるだけである。これはこの地域に東西に延びる断層が活動して北側が落ち込んだからである。この西から西北に延びる崖は断層崖と考えられる。

染塵面より下に位置する国分や上田東高等学校、大屋などの平坦面は染塵面が落ち込んで、その上に上田原湖成層が堆積してきたものと考えられている。染塵台地を取り囲む崖は断層崖と考えられ、このほか川辺町の北側の段丘崖も同様な理由から断層崖と考えられている。

仁古田面 浦野川によって形成された段丘面が仁古田面で、仁古田層からできている。この層は、新期上小湖成層の上に堆積している。この層の上には粘土層が重なっているが、鷺場火山灰層に含まれる鉱物が入っていない。このことから、仁古田面は鷺場火山灰流が堆積した後に形成された段丘面といえる。

#### 4 上田をおそった火山泥流

上田泥流は、上田地域に最も厚く広く分布していることからそう呼ばれている。この泥流は千曲川に沿って帯状に分布し、低い段丘を造っている。噴火で火口湖が壊されて泥流となって流れ込んだものと考えられ、含まれている岩石や爆裂口の大きさ等から三方ヶ峰と高峰の間にある馬蹄形をした窪地の深沢爆裂火口が泥流の発生した場所と推測されている。泥流には軽石と赤岩が取り込まれている。軽石流は、小諸懐古園付近にある浅間軽石流といわれるもので、この上部は約11,000年前の噴出物と地質年代が測定されていることから、上田泥流はそれ以後に発生したことになる。また、赤岩は三方ヶ峰の監視小屋付近にも多く転がっており、噴火したときに飛ばされた岩石である。このことから、水ノ登の南側が火山活動を始めて赤岩を噴出し、大爆発により深沢爆裂口ができ、池の平火口湖跡の水が一気に流れ出て、深沢川を流れ下り浅間軽石流を泥流の中に取り込んで、千曲川の流れに沿って上田方面へ流れたものと考えられる。そして、泥流が流れ込んだ千曲川沿いの場所は周囲の土地より標高が高くなり、太郎山系の川が南へ向かって千曲川に流れ込むことができなくなり、風呂川へ注ぐようになったと考えられる。

#### 5 上田ロームのふるさと

上田盆地に分布するローム層は、北アルプスにある古い地質時代に活動した火山や今も活動している御嶽山の噴火によって、火山灰や軽石が地上に降ってできている。これらのローム層は古い方から古期下部ローム層、伊勢山ローム層、曙ローム層、古期上部ローム層、中期ローム層、新期ローム層と区別され、このうち上田市で観察できるのは伊勢山ローム層、古期上部ローム層、中期ローム層、新期ローム層である。

伊勢山ローム層 上田市では伊勢山で見られる。大変硬いローム層で、岩質は流紋岩質であるといえる。降った当時は軽石層があったと考えられる。古期上小湖成層に不整合に重なっている。この火山灰を降らせた火山は約90万年前に北アルプスにあった火山で、現在は浸食されて無い。

古期上部ローム層 黄褐色のローム層に黒雲母軽石層が3層はさまれてできている。南安曇郡三郷村・松本市・長野市・北佐久郡等からさらに関東地方まで分布が広がっていて、上田では古安曇、穴平、長入で見られる。関東地方では多摩ローム層の中にはさまれている。30万年から60万年前に噴火した火山のローム層であることが分かっている。

中期ローム層 別所温泉から野倉へ通じる道路で見られる。黒褐色をしたやや粘り気のある火山灰層である。

新期ローム層 最下位から立山軽石層、御岳第1軽石層、始良火山灰層等が積み重なってできている。

立山軽石層 立山カルデラが造られたときの噴火によって上田まで飛んできたものである。軽石と火山砂からできている。地質年代は、約12万年前とされている。

御岳第1軽石層 御嶽山が7万年前に大噴火し、伊那谷を中心に甲府盆地関東平野の南部まで降らせている。分布範囲の北限に当たるのが上田市で、保福寺峠、別所温泉、独結山、室賀等に見られる。

始良火砕層：鹿兒島湾にかつてあった始良カルデラから約2.2万年前に飛んできた火山灰で、東北地方まで分布している。

上田市では小泉にみられ、白色の火山灰でガラス片がたくさん入っている。

## 6 遺跡の地形・地質環境

常入遺跡群は長野県東部の上田盆地における千曲川右岸に位置し、上田城面と上田原面にまたがって展開する。甲田三男先生のご教示によると、常入遺跡群における下町田遺跡の今回の発掘調査地周辺は上田城面より一段高い地形面を形成しており、上田泥流堆積物と比較すると堆積物に軽石が入っていないことから、調査地の地質は上田原湖成層の泥流質凝灰礫岩であるということである。従って、『下町田遺跡Ⅳ』の第2章第3節の記述もこの点について訂正する必要があると思われる。

## 第2節 歴史的環境

「常入遺跡群」は、上田市の千曲川右岸地域の南東部に位置している。周辺を含めたこの地域の地形は、平坦面である上田城面、上田原面、染屋面のほか、大星及び山口扇状地、千曲川及び神川によって形成された複数の段丘面等によって構成され、複雑な様相を呈している。その中で、この地域にはこの他にも上田・小県地方屈指の大遺跡と呼ばれる幾つかの遺跡が存在する。これらの遺跡は、当地が奈良時代から平安時代にかけて信濃の中心的な役割を果たす地域に発展した基盤として大きく関わっていたものと考えられる。

本遺跡群は上田城面と上田原面にまたがって展開し、その南東に国分遺跡群がある。国分遺跡群の南に隣接して国分寺周辺遺跡群がある。これは千曲川の形成した沖積地に立地し、上田城面より一つ及び二つ下位の平坦面に所在している。国分遺跡群と国分寺周辺遺跡群の範囲にまたがって、国指定史跡の信濃国分寺跡がある。僧寺と尼寺は、上田城面より下位の千曲川形成の沖積地に立地しているが、史跡範囲は、南西側は同じ面の段丘崖上まで、北側は上位上田城面の現国分寺の所在地まで、東は上田城面にある国分八幡神社までとされている。

その他、「常入遺跡群」の北東、一つ高位の染屋面には、染屋台条里水田跡遺跡がある。その北方の山口扇状地の端部には大星西遺跡、雁塚遺跡、西丘遺跡、金井裏遺跡等が存在する。大星扇状地には八幡裏遺跡群がある。第3図及び第2表に本遺跡群とその周辺遺跡を簡単にまとめて示した。

### 〈縄文時代〉

八幡裏遺跡群の思川遺跡は、上田地方を代表する縄文時代の遺跡の一つとして上げられる。昭和27年に病棟の改築に伴って五十嵐幹雄先生によって発掘調査が行われた。調査では明確な遺構は確認されなかったものの、中期から後期にかけての土器や石器とともに、ニホンジカやイノシシを中心とする相当量の動物遺存体が出土した。その後平成6年に国立長野病院の建設工事に伴い約8,000㎡が調査された八幡裏遺跡第2次発掘調査では、柄鉢形敷石住居址を含む住居址7軒と土壇、集石遺構などが検出された。中でも土壇から検出された屈葬人骨は、遺存状態もよく、貴重な調査例となった。出土した遺物は、中期の加曾利E式、後期の称名寺式、堀之内式、加曾利B式などの土器のほか、石器類、土偶、大珠、獣骨などがある。その後、平成8年度に行われた国立長野病院看護婦宿舎建設に伴う同遺跡の第3次発掘調査でも、中期後葉から後期前葉の土器を伴う3軒の敷石住居址が確認されている。そのほか、同年に市道緑ヶ丘1-3・1-4号線道路改良工事に伴って行われた第4次調査でも中期から後期の遺物が僅かに出土した。

大星西遺跡は、中期の加曾利E式土器が表採されている。その他、山口扇状地と染屋面の間に位置する住吉の熱寒寺遺跡では、長島の矢出沢川右岸の畑地から縄文時代の石鏃が採集されている。



また、国分寺周辺遺跡群の浦沖遺跡は、昭和24年に八幡一郎先生の指導によって発掘調査が行われ、中後期に属すると思われる遺物と住居址が検出されている。平成12年度に上田の鉄道国分新橋駅前整備事業に伴って行われた発掘調査では、中期から後期に属する遺物と、中期中葉から後葉の竪穴住居址等を検出している。また、それより段下の西沖遺跡は、(財)長野県埋蔵文化財センターによって平成6年度・7年度に市道踏入大屋線及び北陸新幹線建設に伴って発掘調査が行われ、前期から後期の土器片が多く出土した。

#### 〈弥生時代〉

弥生時代の遺跡としては、上田盆地では前・中期の遺跡は僅かしか確認されていない。八幡裏遺跡は数少ない後期遺跡のひとつで、大正14年に上田温泉電軌北東線の敷設工事が行われた際に、中期栗林Ⅱ式期の壺形土器2点と大型蛤刃石斧が出土している。このように表採や工事中の出土例はあるものの、遺構を伴った例としては確認されていない。また後期では、上田地籍の北小学校の東方、黄金沢駅跡地の副駅に位置する雁堀遺跡から箱清水式土器が表採されている。

昭和60年に国道18号バイパス改築工事に伴って発掘調査された金井裏遺跡からは、箱清水式期の住居址1軒とその直後に属すると見られる土師器の出土する住居址1軒が検出された。平成8年に住宅展示場建設に伴いその北側が調査され、箱清水式土器及びS字口縁付き甕が出土する竪穴住居址2軒が確認された。

国分寺周辺遺跡群の西沖遺跡は、平成6年度と7年度に(財)長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査され、後期箱清水式期から古墳時代前期の集落と溝が確認された。平成9年、築臺上に立地する上沖(大沢)遺跡が国分産業団地造成工事に伴って発掘調査され、箱清水式土器が多く出土している。

今回調査した「常入遺跡群」は、古くから豊富な土器を出土することが知られていた。大正時代から昭和初期には、小山真夫先生や上小教育会によって弥生土器が採集、記録され、『上田市史』、『信濃史料』及び五十嵐幹雄先生による『信州大学繊維学部保存の瀬生式土器』(『信濃』2-12 1950年)に採集された土器が掲載されるなど、上田・小県地方の弥生研究に重要な役割を果たしてきた。下町田遺跡は、施設建築に伴って4回にわたる発掘調査が行われた。平成8年度に信州大学繊維学部構内における研究棟の建設、平成11年には信州大学遺伝子実験施設の建設、12年度に産学官連携支援施設の建設、平成14年度には総合研究棟建設が計画され、これまでに合わせて約3,857㎡の調査が実施され、弥生時代後期と古墳時代前期の竪穴住居址76軒等が検出された。これらの調査により、上田盆地における千曲川流域最大規模の弥生時代後期から古墳時代前期の集落がここに存在していることが裏付けられている。

#### 〈古墳時代〉

古墳時代になると、太郎山麓に前方後円墳の二子塚古墳、方墳の大蔵京古墳が築造されている。二子塚古墳(上田市指定文化財)は、定形化した前方後円墳としては東信地方で唯一の古墳である。墳丘は後世の改変が激しいが、現在の規模は中軸の全長約51m、前方部の長さ約26m、最大幅約25m、高さ約5m、後円部の長さ約25m、最大幅約39m、高さ約6mを測る。古墳の北側には周濠の一部とみられる窪みがあり、墳丘から表採された円筒埴輪片により6世紀前半の築造と推定されている。本古墳の周囲にはかつて4～5基の円墳が存在していたと伝えられるが、現存するのは北西部の円墳1基のみである。これらの古墳は、二子塚古墳の陪塚と言われていたが、時期的に異なるため現在では否定されている。

大蔵京古墳(上田市指定文化財)は、一辺が32～35mの方墳で、高さは5～8mを測る。墳丘上から表採された土師器により、4世紀末から5世紀前半の築造と推定されており、現在確認されている県内最古の方墳で、上小地区では最古の古墳である。

風呂川古墳は、墳丘は失われていたが、平成4年に(財)長野県埋蔵文化財センターによって北側周濠の一部が調査された。周濠の幅は4.0～5.5m、調査面からの深さは約1.5mを測る。北東辺の北隅寄りには、



第3図 周辺遺跡分布図

埋蔵文化財一覧表				
番号	遺跡名	所在地	時代	備考
44	熱泰寺遺跡	住吉字熱泰寺	縄文	
52	染屋台条理遺跡	上野・住吉・古里・国分	平安	1985年から数回にわたる調査
53	向田古墳	古里字向田	古墳	半壊
54	国分遺跡群	国分字古城・堂浦・屋敷	弥生～平安	1997・1999年上田市調査
56	国分寺周辺遺跡群	国分字仁王堂・明神前他	縄文～平安	1994年から県埋文センター調査・2000年上田市調査
⑤7	常入遺跡群	常入字堀之内	縄文～平安	下町田遺跡ほか7遺跡
58	金井裏遺跡	上田字金井裏・蟹原	縄文～平安	1985・1996年上田市調査
60	二子塚古墳	上田市秋葉裏	古墳	
62	雁堀遺跡	上田字雁堀	弥生・平安	
63	西丘遺跡	上田字西丘	平安	
64	八幡裏遺跡群	緑ヶ丘字思川・大星前他	縄文～平安	1994・1996年上田市調査
65	海野遺跡	中央・大手	弥生・平安	
66	上田城跡	中央・中央西・大手・北大手	近世	
84	六句古墳	小牧字六句	近世	
86	初太郎古墳	小牧字花水	近世	
95	渋取田遺跡	諏訪形字渋取田・中堰	縄文	
96	中沢遺跡	諏訪形字中沢	平安	
423	小牧遺跡	小牧字城山	近世	
457	染屋城遺跡	古里字英	近世	
国指定文化財(史跡)				
No	名称	種別	所有者	備考
12	信濃国分寺跡	史跡	上田市・私所有	昭和5年指定・1963～1971年上田市調査
13	上田城跡	史跡	上田市・私所有	昭和9年指定
市指定文化財(史跡)				
No	名称	種別	所有者	備考
9	二子塚古墳	史跡	二子神社	昭和43年市指定

第2表 周辺遺跡一覧表

掘り残しが一箇所設けられ、その西側から石組みとともに多数の土師器が出土した。古墳の規模は、一辺が25～30mの方墳と推定され、築造年代は、一括出土した土師器により5世紀第2四半期と推定されている。

後期古墳についても、この山麓に6基ほど散見できるが、いわゆる群集墳的な古墳群は確認されていない。しかし、1987年の下水道工事中に見えられた豊原古墳のように、墳丘ごと太郎山から押し出した七砂によって埋もれているケースもあり、地表では確認できない古墳の存在も想定できる。

また、神科地区には、染屋面の段丘端に向田古墳がある。これは、半壊しているが、墳丘の径7.5m、高さ1.6mの円墳と思われる。

集落遺跡としては、太郎山麓に多く分布しているが、発掘調査が実施された例は少なく、その様相は明確ではない。平成8年度に発掘調査された八幡裏遺跡群の第4次調査では、該期の住居址が7軒検出されたほか、国立長野病院の敷地の北側にある段丘の上面を調査した平成6年度の第1次調査でも古墳時代後期の住居址が1軒確認されている。

平成6・7年度に(財)長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査された国分寺周辺遺跡群の西沖遺跡からは130軒の中・後期の住居址が検出された。特に5世紀後半から6世紀代の遺構密度は非常に高く、集落分布は短期で変容していることが確認された。平成12年度に調査が行われた浦沖遺跡及び仁天堂遺跡からは、古墳時代後期から奈良時代初めにかけての集落が検出された。

また、国分遺跡群の幾つかの遺跡からもこの期の土器が表採されている。

染屋台条里水田跡遺跡の範囲内に立地する西之手遺跡が平成8年・9年にやおふく新店舗建設に伴って発掘調査され、古墳時代中期と後期の掘立柱建物址38棟と溝址9条等が確認された。同年、この東側に隣接した地域において、市道西野竹14号線代替地取得事業に伴い同遺跡の発掘調査を実施した。掘立柱建物群と溝址等が確認され、遺跡の東側縁辺部が確認された。平成9年上沖(大沢)遺跡の発掘調査において、古墳時代中期の竪穴住居址等が確認された。

また、今回調査した「常入遺跡群」には、この期の大きな集落があることが知られている。昭和41年に上田小黒誌刊行事業推進のため、信州大学繊維学部附属の桑園の一部が発掘調査された。昭和45年の「信大繊維学部敷地内遺跡調査概報」(小林幹男・川上元『長野県考古学会誌』第9号)によると、古墳時代中期・後期に属する竪穴住居址2軒と未確認遺構が検出され、遺物は、18点もの完形品が出土するなど保存状態は良好であった。この地方の標識的土器として今日に至っている。

〈奈良・平安〉

信濃国分寺跡は周知のとおりであるが、国府の所在地は明らかになっていない。信濃国国府が、松本平に移る以前は、国分寺の所在する上田地域であったろうことは推論されてきたが、未だに結論を得られない状況である。本調査地周辺の信州大学繊維学部構内は、染屋台や塩田平と並び有力な候補地として注目を集めており、これまでに奈良、平安の各時代に属する遺物が多く採集されている。しかし過去4回にわたって行われた下町田遺跡における発掘調査では、国府関係の資料は出土しなかった。また、令制東山道も上田盆地を通過し、そのルートについて地名からの研究は深まっているが、考古学的な確証は得られていない。

この時代の集落遺跡については、当地域に広く分布している。これまでの調査結果からはきわめて密度の薄い遺跡しか確認されていなかったが、近年の発掘調査により次第に明瞭となってきた。

染屋台条里水田跡遺跡は、条里水田跡として一括に括られた範囲の中いくつかの集落址が存在していることがこれまでの発掘調査で確認されている。しかし、それらの範囲等については未だ明確ではない。昭和60年国道18号上田バイパス改築工事に伴って、染屋台グラウンド(旧県営上田野球場)の北東において発掘調査が行われたが、遺構及び遺物は検出されなかった。平成8年、上田市立第一中学校建設に伴ない古城

遺跡が発掘調査され、平安時代の竪穴住居址7軒と土坑及びピット群が確認され、黒色土器の坏や長胴甕が検出された。包含層からは、九葉単弁蓮華文軒丸瓦の一部が出土している。これは、『信濃国分寺一本編一』に所収されている現国分寺本堂東南隅から出土したものと同范と考えられている。平成9年上沖（大沢）遺跡の発掘調査で平安時代の竪穴住居址、掘立柱建物址及び土坑墓等が確認された。また、染屋台条里水田跡遺跡が所在する染屋台は、国府跡推定地でもある。昭和57年度から61年度までに創置の信濃国府跡推定地確認調査が古里地区の西之手・東之手地籍を中心とした各所において行われた。しかし、残念ながら明確な手がかりは得られなかった。

八幡裏遺跡群からは、平成6年と8年に実施された調査で15軒の住居址を検出した。また、平成8年に住宅展示場建設に伴って金井裏遺跡が調査され、奈良時代の遺物が僅かに出土している。

平成9年及び11年に市道川辺町国分線建設工事に伴い、国分遺跡群の発掘調査が行われ、現信濃国分寺の北方3ヶ所から道路条遺構、掘立柱建物跡、溝跡等の遺構と奈良時代から平安時代を主体とする土器、瓦、銅杖鉋型等が検出された。（財）長野県埋蔵文化財センターによって平成6・7年度に発掘調査された国分寺周辺遺跡群の西沖遺跡からは、奈良時代の住居址が35軒、平安時代の住居址が27軒検出された。

<中世以降>

現在の市街地の常田付近にあったと推定されている常田荘の名が史料に初めて見えるのは、『山科家古文書』安元二年（1176）の「八乗院額目録」の中であり、文治二年（1186）『吾妻鏡』三月の条「乃具未済の庄々注文」にもその名がみられる。「常入遺跡群」の堀之内遺跡は、創置の信濃国府のほか、中世居館址の推定地となっている。また、嘉暦四年（1329）の『諏訪大社神社文書』の「諏訪上社造宮目録案」に記された上田庄の中心は、矢出沢川上流部の長島とその周辺と推定されている。しかし、残念ながらこれらに関する考古学的資料は今のところ極めて少なく、中心は千曲川左岸の塩田北条氏の仏教文化に移った感がある。

昭和60年に発掘調査された金井裏遺跡からは内耳土器、青磁、近世陶器等が出土しているが、これらは遺構との関連がつかない資料である。平成7年、パチンコ・パゴパゴ店建設に伴い染屋台に立地する大畑遺跡が調査され、竪穴住居址1軒、掘立柱建物址1棟、溝址7条と青磁蓮弁文碗の破片と宋銭「嘉祐通宝」等が検出された。平成9年上沖（大沢）遺跡の発掘調査では、平安時代終末から鎌倉時代初頭の掘立柱建物とこれに伴う土坑等が確認され、土坑及びその周辺から12世紀代を中心にした陶磁器等が出土している。

真田氏によって上田城築城と城下町形成が開始されると、この地域の様相は大きく変貌した。城は関が原合戦後に廃城となり、現在残る上田城は後に城主となった仙石氏によって1626年から1628年に築き直されたものである。近代においては蚕糸業の一大中心地として栄え、「蚕都」と称された。1911年に設立された上田蚕糸専門学校は、今日の信州大学繊維学部の前身である。下町田遺跡は、その敷地内に所在する。

### 第3節 遺跡の層序

標準土層は、次のとおりである。採集地は、第6図に示した。

Gl.	I	470.80 470.60	I 7.5YR3/3 暗褐色砂質土（耕作土）
	II	470.40	II 7.5YR2/1 黒褐色砂質土

第4図 基本層序

## 第三章 調査の結果

### 第1節 調査の概要

本調査で検出された遺構は、第6図の遺構配置図に示したとおり、竪穴住居址が15軒、土坑が1基、溝跡が1条、井戸跡1基であった。このほか、ピットが41基検出された。これら遺構の個々の詳細については、第2節に報告する。なお、土坑及びピットの名称は、機能に基づいた呼称として用いていない。また、大学建設以降に造られたとみられる耕作による掘り込みや攪乱等が多く確認されたが、これら近代に属する遺構の説明は本書では省く。

出土した遺物は、土器、石器、金属品、土製品、木製井戸枠等であった。これらのうち、実測可能な遺物を中心に、遺構の覆土に含まれて出土したものから床面或いは底面に付着した状態で出土したもの等を遺構出土の遺物として、包含層中から出土したものと及び準備段階等で表採されたもの等を遺構外出土の遺物として第3節に報告する。

### 第2節 遺構

#### 1 竪穴住居址

第84号竪穴住居址 (SB-84) (第9図・第3表)

調査地区の南西部S38E66、S39E66、S39E67、S40E66、S40E67、S41E66、S41E67グリッドに位置する。北西部と南は調査地区の外にかかり、この部分は未調査である。上水道溝に覆土と床面を壊されている。第88号竪穴住居址 (SB-88)、第85号竪穴住居址 (SB-85)、第98号竪穴住居址 (SB-98)と重複し、第88号竪穴住居址、第85号竪穴住居址に切られ、第98号竪穴住居址を切ると考えられる。第88号竪穴住居址によって床面が破壊されている。第85号竪穴住居址との新旧関係については、判断の根拠となるものが少なかったため逆の可能性もある。平面形プランは不明だが、隅丸長方形であると推測される。短軸の幅5.45mを測る。検出面から床面までの高さは、およそ30.0cmを測る。主軸方向は、主柱穴の配置から想像してN-35°-Wを指す。覆土は第9図のとおりで、第3層には炭化物が多く含まれていた。また、図に示したように南西の床上に角礫が集中して出土した。北側の壁近くの床上には、図及び写真で示しており炭化した樹木が並んで出土した。炭化材に柱材等を焼いた可能性がある。FPは炉と考えられる。直径約40.0cm、深さ14.0cmに掘りこまれ、その内部に土器の底部が正位に入れられている。覆土は焼土粒を含み、土器の据えてあった位置を除いた底部は被加熱により部分的に橙色に変色していた。

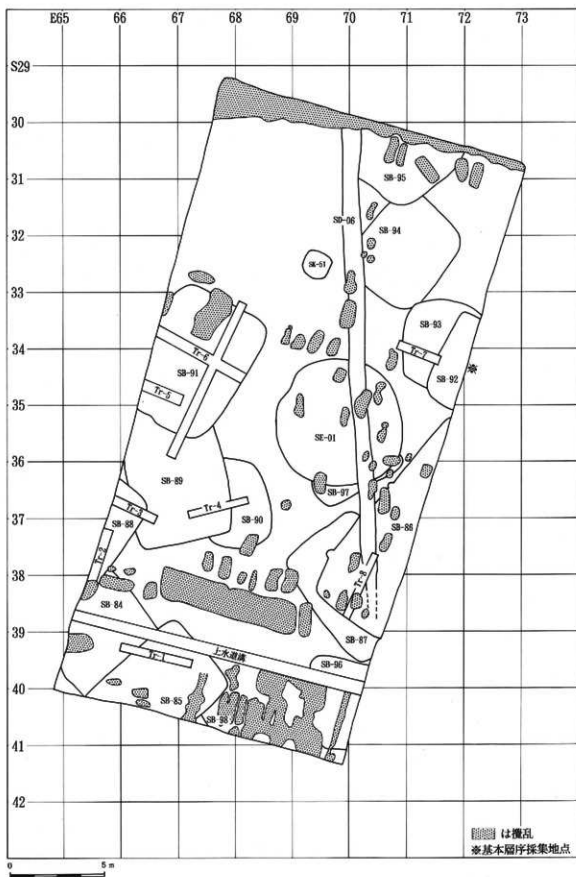
床面は全体的に堅緻である。ピットはP1、P2及びP4が主柱穴と考えられる。これらの平面形は円形を呈している。

遺物は炉と覆土中から出土した。弥生時代後期の甕、甗等が出土した。

第85号竪穴住居址 (SB-85) (第10図・第3表)

調査地区の南西部S39E67、S39E68、S40E66、S40E67、S40E68、S41E68グリッドに位置する。部分的に上水道溝に床まで破壊されている。南側は調査地区の外に及んでいて、この部分は未調査である。第84号竪穴住居址 (SB-84)、第98号竪穴住居址 (SB-98)と重複し、第84号竪穴住居址、第98





第6図 遺構配置図



号竪穴住居址を切ると思われるが、第84号竪穴住居址との新旧関係については逆の可能性もある。平面形は、隅丸長方形を呈していたものと考えられる。規模は、北西壁が4.85mを測る。検出面から床面までの高さは、およそ34.0cmを測る。主軸方向は、 $N-50^{\circ}-E$ を指す。南東壁側の覆土から拳くらの大きさの角礫がまとまって検出された。

床の北側と東半分は堅緻である。P1、P2は主柱穴であると考えられる。これらの中間の床に直径約44.0cmの浅く掘り込んだ炉が確認された。その底面は熱を受けて橙色化している。この掘り込みの上は焼土粒を含んでいる。また、この西側に床面の一部が熱を受けて橙色化しているのが確認された。これは床を掘り込んでいない。

遺物は、覆土中及び床面から壺、深鉢、高坏、鉢及び甕等が出土した。いずれも弥生時代後期のものと考えられる。

#### 第86号竪穴住居址（SB-86）（第11図・第3表）

調査地区の東S36E72、S37E71、S37E72、S38E70、S38E71、S38E72、S39E70、S39E71、S40E71グリッドに位置する。東側は調査地区外まで及んでおり、その部分は未調査である。第87号竪穴住居址（SB-87）を切っている。平面形は、残存している部分から推測して隅丸長方形を呈していたと考えられる。断面形は、北西壁が直立気味に立ち上がるのに対し、南西壁は緩やかにこぼれ上がっている。北西壁は11.7mを測る。検出面から床面までの高さは、およそ30.0cmを測る。主軸方向は、北西壁の向きから推定して $N-45^{\circ}-E$ を指す。覆土は、どの層にも夥しい量の炭化物を含み、部分的に焼土粒を含んでいる。また、図及び写真に示したとおり、炭化した樹木が床面上に並んで出土したり、壁に寄りかかるといった状態で出土しており、廃絶後に柱材などを焼いた可能性がある。図及び写真に示したとおり、S37E71グリッドの床近くの高さから角礫が集中して出土した。

P18は主柱穴の一つと考えられるが、このほかにP1、P7、P8、P9、P11及びP19、P20、P6、P10は軸を同じにして直列していることから、他の住居址とは異なった建物構造をもつ住居であった可能性もある。南側壁近くのP16、P17及びP23からP26は入口施設の柱穴と考えられる。P16とP17は規模及び形状がほぼ同じで、長方形の平面形を呈し、P23からP26は円形或いは半円形の平面形で、これらも規模及び形状がほぼ通っている。これらの配置は、仮に本遺構の主軸と推定される線と平行な線を6つのピットの中心に置くと、線対称に位置している。P17の上部には砂岩の方形の石が乗っていた。方形の砂岩は、このほかにもP15の南西隣、P19の南方に壁によりかかるように出土した。P15は本遺構で検出されたピットの中で比較的大きく、内部には図及び写真で示したように土器と礫石状の石が出土した。ここにも扁平形の砂岩が滑り落ちたような状態で検出された。

炉と推定されるものは、3ヶ所検出された。これらは直径約30.0cm前後で、床を浅く掘り窪め、熱を受けて橙色化している。このうち炉3（FP3）は図と写真で示すとおり土器が底に付着しており、土器敷き炉の可能性もある。この他、床が熱を受けて橙色化している部分がP19、P18、P22、P27の周辺にみられる。

遺物は、覆土中及び床面、P2、P6、P9、P10、P11、P15、P16、P17から出土した。弥生時代後期の壺、高坏、鉢、蓋、甕等が出土した。

#### 第87号竪穴住居址（SB-87）（第12図・第4表）

調査地区の東S37E70、S37E71、S38E70、S38E71、S39E70、S39E71、S40E70、S40E71グリッドに位置する。攪乱を受けて南コーナー近くの床の一部を失っている。第86号竪穴住居址（SB-86）

に切れ、床の大部分と北東壁を失っている。平面形は隅丸長方形を呈している。南東部分は調査区の外まで及んでおりと推定され、その部分は未調査である。北西壁は4.7m、南西壁は6.8mを測る。検出面から床面までの高さは、およそ25.0cmを測る。主軸方向は $N-35^{\circ}-W$ を指す。

床面は堅緻である。P2、P6、P10は主柱穴と考えられる。炉は北西側の奥の主柱穴間に存在する。この炉は第86号住居址に半分は壊されているが、直径約35.0cmの円形で浅く掘りこまれている。炉の覆土には炭化物及び焼土粒が含まれている。底面は部分的に焼けて橙色に変色している。

遺物は覆土中に含まれて出土したものと、床に付着して出土したものがある。弥生時代後期の壺、甕等が出土した。

#### 第88号壑穴住居址（SB-88）（第13図・第4表）

調査地区の西側S37E66、S37E67、S38E66、S38E67、S39E66グリッドに位置する。第84号壑穴住居址（SB-84）と第89号壑穴住居址（SB-89）を切る。本遺構は調査地区外の西側にさらに及んで存在するが、その部分は未調査である。また、攪乱によって壁の一部が壊されている。平面形態は、北東壁と南東壁から推定して隅丸長方形である。検出面から床面までの高さは、およそ40.0cmを測る。主軸方向は南東壁の向きから推定して $N-32^{\circ}-E$ を指す。

床面は堅緻である。ピットは7つ検出され、P1は主柱穴と考えられる。炉はP1の北西隣に確認され、北方の主柱穴間と推定される位置に存在する。直径はおよそ50.0cm、床面からの深さは30.0cmで、内部に土器の底部が正位におさまられている。

遺物は住居及びP1内の覆土中、床面、炉から出土した。弥生時代後期の壺、高坏、甕、蓋、甕等が出土した。

#### 第89号壑穴住居址（SB-89）（第14図・第4表）

調査地区の西側S36E67、S36E68、S37E67、S37E68、S38E67、S38E68グリッドに位置する。西部が調査区の外にあり、この部分は未調査である。第91号壑穴住居址（SB-91）と第88号壑穴住居址（SB-88）に切られて床及び壁の一部が失われている。平面形態は推定して隅丸長方形を呈する。南壁の長さは5.1m、検出面からの壁高は東壁で30.0cmを測る。主軸方向は、 $N-15^{\circ}-W$ を指す。写真で示したとおり、北西コーナー近くの床には角礫が集中して出土した。

床は堅緻である。東壁と南壁及び西壁の際に周溝が掘られている。また、P7とP5の間の床に西壁と平行しておよそ2.8mにわたって浅い溝が掘り込まれる。また、P4の東側に浅い溝が掘りこまれている。ピットはP1からP4が主柱穴であると思われる。炉は3ヶ所確認された。1つは本遺構の北西部のP3の北側に存在し、径36.0cmの楕円形を呈する平面形で、床面を約8.0cm掘り窪め、土器の底部が内部に入っている。底は焼けて、橙色に変色している。もう1つは、P5とP6の間に存在し平面形は径約50.0cmの円形を呈し、10cmほど浅く掘り窪められ、底は焼けて橙色を呈している。もう1つはP4の東側で、第91号壑穴住居址に北半分を壊されている。残存部から推定して径40.0cmで浅く掘り窪められ、底は熱を受けて橙色に変色している。このほか、本遺構の中心部の床には、3ヶ所にわたって焼けて橙色に変色した部分が確認された。南壁近くに存在するP10とP11は人口施設の柱穴の可能性がある。また、P8は径70.0cm、深さ40.0cmと比較的大きいピットである。

これらの中でF P2とF P3及び周溝と周溝状の溝の配置から推測して、本遺構は建て直されて拡張したものと考えられる。当初P5とP6が主柱穴として存在しその間にF P2がつくられていたものが、後に北

側と西側方向に拡張されて、P1とP4及びFP3がつくられたとみることができる。

遺物は、炉（FP1）、床面、覆土中とP3、P4、P11、P13、P8から出土した。高坏、蓋、甕等の弥生時代後期の土器が出土した。

#### 第90号竪穴住居址（SB-90）（第15図・第4表）

調査地区の中央S36E68、S37E68、S37E69、S38E68、S38E69グリッドに位置する。第89号竪穴住居址（SB-89）に切られて壁及び基礎を失っている。また、攪乱により南壁の一部が壊されている。平面形態は、隅丸長方形であったと推定される。規模は、東壁で4.2m、南壁で3.2mである。主軸方位は、N-12°-Wを指す。

床面は堅緻である。北東コーナーと南壁近くの床面に周溝が掘られている。ピットはP1からP6が確認された。このうちP1、P2、P5は主柱穴をなすものと考えられる。P4とP6は浅い。南壁近くに検出されたP3は比較的大きく深い。炉はP1の南西隣に検出された。平面形は約52.0×40.0cmの楕円形を呈し、浅く掘り窪められ、図や写真で示したように内部に土器の破片が埋められて出土した。また、この炉より南側の床面に熱を受けて橙色に変色している部分が確認された。床を掘り窪めた跡はない。

遺物は床面と覆土中と炉から僅かに出土した。弥生時代後期の壺、甕、蓋等が出土した。

#### 第91号竪穴住居址（SB-91）（第16図・第5表）

調査地区の南側S33E68、S34E67、S34E68、S34E69、S35E67、S35E68、S36E67、S36E68グリッドに位置する。北東部が壁から床にかけて攪乱を受けて大きく破壊される。また、北西壁の一部を攪乱により、南西壁の一部をトレンチにより破壊される。第89号竪穴住居址（SB-89）と重複して切る。南西は調査地区の外に及んでいとみられ、その部分は未調査である。平面形態は、隅丸長方形プランを呈す。南東壁は7.1m、北東壁は5.1mを測る。検出面から床面までの高さは、およそ35.0cmを測る。主軸方向はN-28°-Eを指す。覆土は、北西側に地山と同じ土である第1及び第2層が床面にブロック状に広く分布し、その上層の第6層には炭化物が多く含まれている。その上層の第4層は北東部から中央部にかけて分布し、角礫と土器片を集中的に含んでいた。また、床上中央には多くの礫とともに土器が検出された。

床面は堅緻である。ピットは11箇所を検出され、そのうちP1からP4は主柱穴であると考えられる。P7からP9は入口施設のもの可能性がある。P1からは写真のとおり、完形の甕が出土した。P10からは甕が正位に埋置されていた。P5は南西壁の近くに検出され、ピットの中で比較的規模が大きいのである。周溝は北西壁から北東壁、南東壁及び南西壁近くの床に掘り込まれている。南西壁の周溝はP8とP9に連結している。床の中央には熱を受けて橙色に変色している部分が確認された。床を掘り窪めた跡はない。

遺物は床上と覆土中及びピットの中から出土し、弥生時代後期の壺、鉢、甕、高坏、ミニチュア等が出土した。

#### 第92号竪穴住居址（SB-92）（第17図・第5表）

調査区の東側S34E72、S34E73、S35E72、S35E73グリッドに位置する。本遺構は東側の大部分が調査地区外に存在すると考えられ、詳細は不明である。第93号竪穴住居址を切っている。ピットが2基検出され、その間に炉が検出されている。この遺構の平面形態は、隅丸長方形を呈するものと推測される。覆土は、図の第1層に角礫が多く含まれる。また、南側の床直上に炭化物を多く含む第3層が堆積している。床は全体的に堅緻であるが、とくにピット及び炉が存在する位置より東側が著しく硬化している。炉は、径40.0

cmの円形を呈し、僅かに掘り窪められている。内部には安山岩の炉縁石が1つ南東側に配されている。炉床は熱を受けて橙色に変色している。

遺物は、弥生時代後期等に属するとみられる壺、甕等の土器が僅かに覆土やP2から出土した。

#### 第93号竪穴住居址（SB-93）（第18図・第5表）

調査地区の東側S34E71、S34E72、S34E73、S35E71、S35E72グリッドに位置する。第92号竪穴住居址（SB-92）と重複し切られ、東側の床及び壁が破壊されている。また、写真及び図に示したように北側の床上に角礫が集中して出土した。礫の下には炭化物が多く出土した。平面形プランは、隅丸方形或いは隅丸長方形であると思われる。規模は、西壁が4.1m、北壁が3.1mを測る。検出面から床面までの高さは、およそ40.0cmを測る。主軸方向は、N-10°-Eを指す。図のFPは炉と考えられる。直径約40.0cm、深さ10.0cmに掘りこまれ、その内部に土器の底部が正位に入れられている。覆土には焼土粒を含み、土器の据えてあった位置を除いた底部は被加熱により部分的に橙色に変色していた。炉の南側には長径70.0cmの被加熱跡がみられ、橙色に変色している。

床面は全体的に堅緻である。P1、P2は主柱穴の可能性がある。南西壁側には、P3とP5があり、入口施設の柱穴と考えられる。P4は本遺構で確認されたピットの中では比較的規模の大きいものである。西壁に沿って周溝が掘られている。

遺物は、土器、覆土中、P3、P4及び床面上から出土した。弥生時代後期の壺、高坏、鉢等が出土した。

#### 第94号竪穴住居址（SB-94）（第19図・第5表）

調査地区の北側S32E71、S32E72、S33E71、S33E72、S34E71、S34E72グリッドに位置する。深い擾乱により中央部の覆土が失われていた。第93号竪穴住居址（SB-93）と第95号竪穴住居址（SB-95）と重複しているが、これらとの新旧関係は明確にできなかった。第93号竪穴住居址、第95号竪穴住居址の後に本遺構の調査を行ったため、北コーナーと南コーナーが僅かに失われた。また、第6号溝跡とも重複して西コーナーの壁が破壊されている。写真及び図に示したように床上に土器片とともに夥しい量の角礫が集中して出土した。礫の上には炭化物が広く分布していた。平面形プランは隅丸長方形である。規模は、南西壁が3.8m、南東壁が5.0mを測る。検出面から床面までの高さは、およそ44.0cmを測る。主軸方向は、N-42°-Eを指す。

床面は全体的に脆弱である。P1からP4は主柱穴であると考えられる。炉は、北方の主柱穴であるP1とP2の間に確認された。安山岩の細長い川原石を1箇所炉縁石とするもので、ほとんど掘り込みは見られない。径38.0cmにわたって熱を受けて橙色に変色している。

遺物は覆土中及び床面上から出土した。弥生時代後期の壺、深鉢、鉢等が出土した。

#### 第95号竪穴住居址（SB-95）（第20図・第6表）

調査地区の北側S31E70、S31E71、S32E71、S32E72グリッドに位置する。第6号溝跡（SD-06）に切られ南西壁の一部を壊されている。本遺構の北東部は調査地区の外に及んでいると推測され、その部分は未調査である。平面形プランは、隅丸長方形或は隅丸方形であると推測される。壁の断面形は、床より直線的に立ち上がり、上部で大きく反れて広がっている。図に示したように南西コーナー近くの床上に角礫が集中して出土した。規模は、南西壁が5.0mを測る。検出面から床面までの高さは、およそ55.0cmを測る。主軸方向は、N-44°-Eを指す。

床面は堅緻である。P1とP4は主柱穴であると考えられる。周溝が壁際に巡っている。炉は、確認されなかった。P1の北方に径45.0cmにわたって熱を受けて橙色に変色している部分が確認された。これは床を掘り込んでいない。P3とP2は主柱穴より規模が大きく、南西壁の直下に存在する。南西コーナーと南東コーナーの床は、部分的に高まりを持ち、ベッド状を呈している。西側の高まりの上には礫が集中して出土した。

遺物は覆土中及び床土から出土した。弥生時代後期の壺、深鉢、鉢、甌、甕等が出土した。

#### 第96号竪穴住居址〈SB-96〉(第21図・第6表)

調査地区の南東側S40E70、S40E71、S41E70、S41E71、S42E70グリッドに位置する。上水道溝により、床と壁の一部が壊されている。また、攪乱により南壁の一部が壊されている。本遺構の東部は調査地区の外に及んでいてと推測され、その部分は未調査である。平面形プランは、隅丸長方形或は隅丸方形であると推測される。規模は、西壁が4.1mを測る。検出面から床面までの高さは、およそ40.0cmを測る。西壁の方向は、N-15°-Eを指す。ピット及び炉は確認されなかった。本遺構の機能的な性格は不明である。住居址かどうかもわからない。南側の地山には大きな岩石が存在し、その硬い岩石を掘り窪めているため床面及び壁面が著しく歪んで凹凸のある形状を呈している。覆土には、岩石を砕いた滓状のブロックが土器片と共に多く含まれていた。

遺物は覆土から出土した。弥生時代後期の高杯、鉢、蓋等が出土した。

#### 第97号竪穴住居址〈SB-97〉(第22図・第6表)

調査地区の東側S36E71、S37E70、S37E71グリッドに位置する。第6号溝跡〈SD-06〉に南東壁の一部を壊されている。第1号井戸跡〈SE-01〉に切られて壁から床にかけて大きく失っている。平面形プランは、隅丸長方形或は隅丸方形と推測される。規模は、南東壁が4.6mを測る。検出面から床面までの高さは、およそ35.0cmを測る。主軸方向は、南東壁の方位の直角から推定してN-25°-Wを指す。

床面は全体的に堅緻である。ピットはP1が南東壁近くの床に確認され、P2は壁に斜めに掘られていた。

遺物は覆土中及び床土から出土した。弥生時代後期の甕等が出土した。

#### 第98号竪穴住居址〈SB-98〉(第23図・第6表)

調査地区の南側S40E66、S40E67、S40E68、S41E66、S41E67、S41E68グリッドに位置する。上水道溝によって北コーナーが壊されている。第84号竪穴住居址〈SB-84〉と第85号竪穴住居址〈SB-85〉と重複し、壁を失っている。本遺構は、調査地区外の南西方向へ続いて存在すると推定され、その部分は未調査である。第84号竪穴住居址及び第85号竪穴住居址の床より1~8cm下から本遺構の床面が検出された。平面形プランは、隅丸長方形或は隅丸方形であると推測される。規模は、検出面から床面までの高さがおおよそ40.0cmを測る。主軸方向は、推定してN-30°-Wを指す。

床面は堅緻である。P1とP2は主柱穴であると考えられる。P2の断面形は段をもっている。炉は、これら主柱穴の間に確認された。径45.0cm、深さ14.0cmに掘り窪められ、その内部の南東方に安山岩の細長い川原石が炉縁石として配置されている。覆土には炭化物や焼土が含まれていた。炉の底は僅かに橙色に変色している。

遺物は覆土中から出土した。弥生時代後期の蓋、甕等が出土した。

## 2 溝跡

### 第6号溝跡 (SD-06) (第24図)

調査地区の北側から東側にかけてのS31E70、S31E71、S32E70、S32E71、S33E70、S33E71、S34E71、S35E71、S36E71、S37E71、S38E71、S39E71グリッドに位置する。規模は幅約0.8m、長さ24.0m、深さ0.3mを測る。北西から南東にほぼ直線的に伸びている。北西端は擾乱を受けて失われ、南東端は緩やかに底が上がって消滅している。擾乱によって何ヶ所か破壊されている。第95号竪穴住居址 (SB-95)、第86号竪穴住居址 (SB-86)、第87号竪穴住居址 (SB-87)、第97号竪穴住居址 (SB-97) 及び第1号井戸跡 (SE-01) を切っている。断面形は皿状を呈する。底面は南東から北西に若干傾いている。形態等から人為的に掘られたものと推測される。

覆土から弥生時代後期の壺、甌、蓋、甕等の土器が出土した。

## 3 井戸跡

### 第1号井戸跡 (SE-01) (第25図・第7表)

調査地区の中央東寄りにS35E69、S35E70、S35E71、S36E69、S36E70、S36E71、S37E69、S37E70、S37E71に位置する。第6号溝跡に切れ、第97号竪穴住居址を切る。

本遺構は、井戸の直上に土坑状の掘り込み遺構を有する形態のもので、全体の形は上半部が発達した「漏斗」のような形状を呈する。全体の深さは、検出面から底部まで約4.2mの大規模な井戸である。エレベーション図については、危険のため掘形の事前で掘削作業を止めた部分もあるがそのまま図化した。セクションA-A'は、調査の最終段階において重機による半裁によって明らかになった図である。

上半部の掘り込みは、平面形態は円形で、断面形は漏斗状で部分的に底の近くの傾斜が和らいで若干のテラス状を呈する。直径は6.7m～6.9mで、検出面から約2.2mで上半部の底面に至る。南西の傾斜部には径40.0cm深さ36.0cmの横穴が掘られている。上層は、傾斜部に第7層から19層に分層される細かい堆積がみられ、これらの層からは遺物はほとんど出土しなかった。それに対し、第1層から第4層には土器が多く含まれていた。傾斜部にみられる堆積土は、色、質とも地山の上によく似ていることから、下半部を掘った際に出た土ではないかと想像される。また、北西部には巨大な安山岩が地山の中に存在し、本遺構が掘り込まれたことによって表面の一部を覗かせている。

下半部は、上半部の底面の南東に偏って平面形3.2m×2.0mの階円形に掘込まれている。この掘り込みの断面形は、上半部の底面部分から測って0.5mあたり下方で傾斜が緩くなって段を呈して窄まり、そこから下方に筒状の井戸側にあたる部分を構成する。底までの深さは上半部の底面の高さから測って約2.0m(海抜466.1m)で、今も水が湧く。井壁の保護には、石と木が用いられている。井戸側の掘形は上部で径約1.4m、底部は径約0.8mで下へいくに従って小さくなる。底面は全体的に平坦で、湧水層まで達している。また、井戸側の縁にあたる上部には石組みが施されている。石組みの縁は、未加工の安山岩の角礫と円礫が平面1列に環状に配列されて上から4段にわたって粗く積まれている。それより下方には石は積まれていないが、木製の枠と掘形の間を充填したと捉えられる自然石がいくつかみられた。

木製の枠は、石組みの上面から測って約0.4m下のところから掘形の底部直上まで残存している。掘形の底面に直径20cm前後の平石を2ヶ所に配置し、その上に据えられたものとみられる。内径は上部で約0.5m、底部で約0.45mで、下へいくに従って若干小さくなっている。割り木を2枚合わせた円筒形のものと同推察

れ、それらは腐蝕のため総に4つにわかれていた。この木材は、状態が良好な部位では表面に加工痕が残されていた。また、直径10 cm弱の円形或は階円形の孔が4箇所にわたって内側から穿たれている。これ以外にも腐蝕のためはつきりしない孔が1箇所以上存在する。孔が穿たれた位置は、基部から20 cm～30 cmにあるものと70 cm～90 cmにあるものが2～3個ずつ確認され、少なくとも2種類の一定した高さにあるようである。

井戸側の埋土は、湧水により泥濘んでいたため詳細な観察が不可能であった。第6層は、更に細かく分かれていた可能性がある。この第6層からは壺、甕等の土器片を多く出土した。底から30 cm程度のところには泥土が堆積し、その中には壺、甕等の破片の他、加工痕のある針葉樹の枝1本、桃に似た種子と1 cm以下の細かい土器片が多量に含まれていた。底面は、掘形の上に砂利及び細かい土器片を多量に含む非常に堅軟な厚さ数cmの層が水平に堆積していた。

湧水層については、甲田三男先生からご教示頂いた。上田原湖成層を構成する固結度の高い凝灰角礫層に挟まれる間隙の大きい火山砂礫層から地下水が湧出しているということである。

## 4 土坑・ピット

### 第51号土坑（SK-51）（第26図・第8表）

調査地区の北側S33E70グリッドに位置する。平面形態は、径約160 cmの円形を呈している。深さは約16.0 cmで、断面形はたらい状を呈する。本遺構の性格は不明である。

### 第165号ピット～第212号ピット（P-165～P-212）（第26図・第8表）

本調査地区からは、41基のピットが検出された。単独で存在するものがほとんどで、掘立柱を構成するピット群は確認されなかった。平面図は第26図に掲載した。ピット平面図の区割りも同図に示した。観察及び所見等は表に示した。

## 第3節 遺物

### 1 土器

#### （1）遺構出土の土器

##### 第84号整穴住居址（SB-84）出土の土器（第27図・第9表）

1から6は壺である。そのうち1、2、3は口縁部で大きく外反する形態である。1、2は頸部に櫛描T字文が施され、1は赤彩が施される。調整は外面にタテのミガキ、内面にヨコのミガキが施される。3も赤彩が施され、口縁部に山形突起が施されている。4は壺の頸部でT字文が施される。外面にヨコのヘラミガキ、内面に刷毛調整の後タテのヘラミガキを施す。5は胴上半部で、外面に刷毛調整を施した後、粗いタテのヘラミガキが施され、内面に刷毛調整が施される。6は底部で第9図に示したとおり炉に埋設されて出土した。外面に赤彩が施され、内面にヨコ方向の刷毛調整が施される。熱を受けて変化している。

7、8は櫛描波状文を施した甕である。7は口縁部から胴上半部で、口径は胴最大径より若干大きい。頸部に1連止めの簾状文が施される。内面にはヨコのヘラミガキが施される。8は口縁部で、外面の施文は刷毛調整の後波状文を施す。頸部に2連止めの簾状文を施す。内面にヨコのヘラミガキを施す。

第85号竪穴住居址（SB-85）出土の土器（第28図・第9・10表）

1から4は壺である。1と2は第10図で示した地点から出土した。1は底部が欠損しているがほぼ全形を知り得るもので、口縁部が大きく外反し胴下半部にくびれない。外面から内面の口縁部にかけて赤彩が施され、頸部にT字文を施す。外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。2の口縁部は胴部より折れて外反し、外面に赤彩が施される。内面は表面があれていて不明確だが、口縁部に赤彩が施されていたと推測される。頸部にT字文が施される。外面にタテのヘラミガキ、内面の口縁部にヨコのヘラミガキ、胴部に刷毛調整を施す。3は頸部に鏝状の突帯がめぐるので、内外面にナデが施される。4は壺と思われるものの底部である。外面にタテのヘラミガキ、内面に刷毛調整が施され、内面に付着物が見られる。

5は赤彩深鉢で、赤彩が底部外面にまで施される。調整は外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。6、7は赤彩が施された高坏の脚部で、7は第10図に示した場所から出土した。6は三角透かし孔を有する。7の坏部内面の表面は剥落している。8は鉢あるいは深鉢の底部で、内外面に赤彩及びヘラミガキが施されるが、内面の表面の多くは剥落している。9は鉢で体部は逆「ハ」の字状を呈し、内外面に赤彩及びヘラミガキが施される。10は瓶の底部で1孔を穿っている。11は蓋で、外面にタテのヘラミガキ、内面にヘラケズリ、刷毛調整の後ヨコのヘラミガキが施される。

12から17は甕で、13は第10図に示した位置から出土した。12はほぼ全形がわかるもので、胴部の最大径が中位にある。口唇部は受け口状を呈する。外面は剥落が著しいが、櫛描波状文が施される。内面はヨコのヘラミガキを施す。13は口縁から胴上半部にかけての部分で、胴部最大径が口径より大きい。外面に波状文を施し、内面にヨコのヘラミガキが施される。14も口縁から胴上半部にかけての部分で、胴部最大径が口径より大きい。外面に波状文を施し、内面にヨコのヘラミガキが施される。15は口縁部から胴上半部にかけての部分で、外面に波状文、頸部に簾状文を施す。内面はヨコのヘラミガキが施される。16は小型の甕の上半部で、外面に波状文、頸部に簾状文を施す。内面はヘラミガキが施される。17は折り返し口縁の口縁部で、外面に波状文を施し、内面にヨコのヘラミガキを施す。18も折り返し口縁の甕の口縁部で外面に櫛描波状文が施される。内面にはヘラミガキが施される。19は甕の底部と思われる。外面にタテのヘラミガキ、内面にヘラケズリとナデが施される。この他高坏、甕、壺の土器片が出土した。

第86号竪穴住居址（SB-86）出土の土器（第29図・第10・11表）

1から3は壺である。1は大きく外反した口縁部で、外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。第11図に示すとおりピット（P15）から出土した。2は壺の底部と思われる、外面に赤彩が施されている。調整は外面にタテのヘラミガキ、内面に刷毛調整及びナデが施される。3は頸部に鏝状の突帯がめぐるので、外面にタテのヘラミガキ、内面にナデとミガキが施されている。

4は赤彩深鉢で頸部に2つ1組の孔が穿られている。調整は内外面ともヨコのヘラミガキが施されている。

5から8は高坏である。5は坏部で段を持ち、屈折して外反する。赤彩が施され、外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。6は接合部で、外面と坏部内面に赤彩とヘラミガキが施される。7は三角透かし孔を持つ脚部で外面に赤彩及びタテのヘラミガキが施され、内面に刷毛ナデが施される。

9、10は鉢で、9は第11図に示した場所から出土した。9の体部は逆「ハ」の字状に開く。内面から外面底部まで赤彩が施される。内面の表面は剥落している。10は底部で、やや上げ底ぎみである。内外面に赤彩とヘラミガキが施される。11は蓋の抓部である。

12から15は櫛描波状文が施された甕で、12は第11図に示した場所から出土した。12は口縁部から胴上半部で、外面の頸部にT字文が施され、垂下する櫛描文が頸部を6分割している。内面はヨコのヘラミガキ



が施される。13は口縁部から胴上半部である。頸部に等連止めの縞状文が施され、内面にはヨコのヘラミガキが施される。14は口縁部で、外面に波状文が上から下へ施される。内面にはヨコのヘラミガキが施される。15は胴上半部で、内面にヨコのヘラミガキが施される。16は甕の口縁部で折り返し口縁である。

この他、炉（F P 3）の底面に敷かれて出土した壺の胴部は図化が可能でなかった。

#### 第87号竪穴住居址（SB-87）出土の土器（第30図・第11・12表）

1、2は壺である。1は口縁部で、外面調整はヨコナデである。2は頸部でT字文等の施文は見られない。調整は外面に縦方向のヘラミガキが施される。

3、4は鉢と思われるものである。4は底部で、内外面とも磨かれ赤彩が施される。

5から7は櫛状波状文が施された甕で、6は第12図に示した場所から出土した。5は口縁から胴上半部で、口縁は比較的短く、口径は胴最大径より若干大きい。外面の頸部に2連止めの縞状文が施される。内面にはヨコのヘラミガキが施される。6は底部が欠損していて、口径は胴最大径より小さい。内面にヨコのヘラミガキが施される。7は口縁から胴上半部にかかるもので、口縁部の径は胴最大径より小さい。外面に縦な波状文が施され、内面にヨコのヘラミガキが施される。

#### 第88号竪穴住居址（SB-88）出土の土器（第31図・第12表）

1から3は壺で、3は第13図に示した場所から出土した。1は胴部の破片で、T字文及びボタン状貼付文を施す。外面には赤彩が施されている。2、3は底部で刷毛調整とヘラケズリ、ヘラミガキ等が施される。

4から6は高坏で、5は第13図に示した場所から出土した。4は口縁部で内外面に赤彩とヘラミガキが施されている。5は脚部で赤彩が施される。外面はタテのヘラミガキ、内面はナデが施される。6は脚部の裾部で、外面に赤彩及びタテのヘラミガキが施され、内面に刷毛調整、ナデが施される。

7は甕で第13図で示すとおりの炉から出土した。内面にヨコのヘラミガキ、外面にタテのヘラミガキが施される。8は蓋で第13図に示した場所から出土した。ヘラケズリ、ヘラミガキの調整が施される。

9は甕の口縁部で、口縁の先端は外へ折り返されている。外面にはあらい波状文が施され、内面にヨコのヘラミガキが施されている。10、11は甕と思われるものの底部である。

#### 第89号竪穴住居址（SB-89）出土の上器（第32図・第12・13表）

1は壺の頸部で、鐔状の突起がめぐる。2は台付深鉢、3、4は高坏で3は第14図に示した場所から出土した。2の脚高は低く、外反している。外面にヘラミガキと赤彩が施され、脚部内面にヘラケズリと刷毛調整が施される。3は脚部に三角形の透かしを4つ有する。外面と坏部の内面に赤彩とヘラミガキが施されている。坏部の内面は剥落している。4の脚高は極めて低く、大きく開いている。ピット（P8）から出土した。外面と坏部の内面にヘラミガキと赤彩を施し、脚部の内面は刷毛調整の後ナデが施される。5は鉢で、口縁部の先端がやや内湾している。6は蓋で、第14図のとおり炉（F P 1）から出土した。天井部に小さな孔が2つ穿たれている。外面にタテの、内面にヨコのヘラミガキが施される。

7、11、12は甕で、8、9、10の底部も甕或は壺のものと思われる。8、9、11は第14図に示した場所から出土した。7は口縁から胴上半部で、胴最大径は口径より大きい。外面に櫛状波状文、内面にヨコのヘラミガキが施される。8、9は甕の胴部から底部で、外面にタテのヘラミガキ、内面に刷毛調整及びヨコのヘラミガキが施される。10は外面にタテのヘラミガキ、内面にヘラケズリとナデが施される。11は甕の頸部

で外面に簾状文と櫛描直線文が施される。12は胴部が強く張り、口縁は大きく外反している。底部が欠損しているが、形態から台付甕の可能性はある。外面は頸部に等連止めの簾状文が施され、口縁と胴部に粗い櫛描波状文が施される。胴下半部はタテのヘラミガキが施される。内面にはヨコのヘラミガキが施される。

#### 第90号壺穴住居址（SB-90）出土の土器（第33図・第13表）

1は壺の下半部で、炉の内部に設置されていたものである。外面にタテのヘラミガキが施され、内面の調整は剥落が著しく不明である。

2から4は蓋で、3は第15図に示す場所から出土した。抓部から裾部に向かって外反して大きく開くもので、天井部に1孔が穿たれている。4は外面に赤彩及びヘラミガキが施されている。

5は甕の口縁部で波状文が施される。頸部に2連止めの簾状文が施される。内面には刷毛調整の後ヘラミガキが施される。その他甕、壺の破片が出土した。

#### 第91号壺穴住居址（SB-91）出土の土器（第34図・第13・14表）

1から10は壺である。3、5、8、9は第16図に示す場所から出土した。1の口縁は長く、外面にタテのヘラミガキが施される。頸部にはT字文が施される。2も長く大きく開く口縁で、頸部にT字文が施される。刷毛調整の後ヨコのヘラミガキが施される。3は頸部にT字文が施される。外面にタテ、内面にヨコのヘラミガキが施される。4、5は赤色塗彩された口縁部で、大きく外反しヘラミガキが施されている。6、7は口縁部が発達して大きく開く類のものでなく、頸部に文様帯も見られない。口縁から頸部まですなりとした形態を呈し、6の口径は胴回りより小さい。6は内外面にナデが施され、7は刷毛調整の後ヘラミガキが施される。8は胴下半部が若干くびれた形態を呈し、外面にタテのヘラミガキ、内面にヘラケズリ及びナデを施す。9、10は壺の底部と思われるものである。9は外面にヘラ削り、内面に刷毛調整が施される。また、底部外面にはヘラ痕等がよく残る。10は外面に縦のヘラミガキ及び赤色塗彩を施され、内面に刷毛調整とナデが施される。

11、12は赤彩深鉢で、11は第16図のとおりピット（P10）の上から出土した。11は外面の口縁部にヨコのヘラミガキ、胴部にタテのヘラミガキを施し、内面にヨコのヘラミガキが施される。12は外面の胴上半部はヨコ、下半部はタテのヘラミガキが施され、内面は刷毛調整の後にヨコのヘラミガキが施されている。

13から15はミニチュアである。13は鉢形、14は壺形、15は高坏形を呈し、手づくねで成形されナデや指頭痕が見られる。

16、17は高坏で、ヘラミガキ及び赤色塗彩を施してある。16は坏部に段を持ち屈折して口縁部が外反する形態のものである。17は接合部で、坏部を脚部にはめ込んで成形しているものと思われる。脚部の内面はヘラケズリ、ナデが施されている。

18から24は鉢で、逆「ハ」の字状に開くものである。18は第16図に示す場所から出土した。このうち、18、19、20、21、24は赤彩を施す。18は外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施され、内面の表面は剥落しており、底部に焼成後の孔が開けられている。19も全形を知り得るもので、小型で外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。20、21は口縁部で、若干内湾気味に直線的に開いている。21の内面は著しく剥落している。22、23は無彩である。22は体部がやや内湾し、刷毛調整の後ヘラミガキが施される。23は直線的に開く形態で、内外面とも刷毛調整の後ヘラミガキが施されている。24は底部で外面にタテ、内面にヨコのヘラミガキが施されている。

25、26は甕で底部に一孔が穿たれていて、刷毛調整の後ヘラミガキが施される。

27から29は蓋で、27は第16図に示す場所から出土した。27は天井部に1孔が穿たれ、外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。28も天井部に1孔が穿たれ、調整は外面にヘラケズリの後ナデ、内面に刷毛調整の後ヨコのヘラミガキが施される。29も天井部に1孔が穿たれ、外面にタテのヘラミガキ、内面にヘラケズリの後ナデが施される。

30から36は、波状文を施した甕の口縁や胴部である。33は第16図に示す場所から出土したものである。30、31、35、36は口径が胴最大径より大きく、32、33、34は胴最大径より小さい。30の頸部には3連止めの簾状文が施され、内面にヨコのヘラミガキが施される。31は口縁が短く強く外反する。頸部には2連止め又は3連止めの簾状文が施され、内面にヘラミガキが施される。32は頸部に2連止めの簾状文が施され、内面は刷毛調整の後ヨコのヘラミガキが施される。33の口縁は開かず、頸部には3連止めの簾状文が施され、内面にヘラミガキが施される。34は全形を知り得るもので、頸部に簾状文がない。内面にヨコのヘラミガキが施される。35は全形を知り得るもので、小型である。頸部に簾状文がなく、内面にヘラミガキが施される。36も頸部に簾状文がなく、内面にヘラミガキが施される。37は甕の口縁部で、口唇部に刻みが施され、外面に斜位の櫛描文を施している。38は甕または壺の底部で胴部にはヘラケズリの後にタテのヘラミガキが施され、内面にヘラミガキが施される。

39は台付甕でほぼ全形を知り得る。頸部に2連止めの簾状文が施され、内面は刷毛調整の後ヨコのヘラミガキが施される。

#### 第92号壑穴住居址（SB-92）出土の土器（第35図・第16表）

1、2、3は蓋である。1は口縁部で、外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。2は頸部で赤彩が施され、櫛描直線文が施され、外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。3は無彩で頸部に文様帯を持たないもので、内外面に刷毛調整が施される。

4は高坏で、口縁端部は短く外反し、赤彩及びヘラミガキが施される。

5は甕と思われる。内外面に刷毛調整が施され、内面の一部に赤彩の跡が見られる。6、7、8は甕の口縁部で、櫛描波状文や簾状文が施される。このうち6は折り返し口縁である。9、10は甕の底部と思われるもので、外面にヘラミガキ、内面にヘラケズリやナデが施される。

#### 第93号壑穴住居址（SB-93）出土の土器（第36図・第16・17表）

1、2は外面に赤彩が施された壺である。1は胴下半部に緩い稜を持ち、上半部にヨコのヘラミガキ、下半部にタテのヘラミガキが施される。内面に刷毛調整が施される。2は比較的小型のものと思われる。

3は台付深鉢の脚部と思われ、第18図に示した場所から出土した。比較的小型のもので、外面に赤彩及びヘラミガキが施される。脚の内面はヘラケズリ、ナデが施される。4は高坏で、第18図に示す場所から出土した。外面に赤彩、タテのヘラミガキを施し、脚部内面は刷毛調整とナデが施される。

5、8は鉢で、6、7も鉢あるいは深鉢と思われる。5、7、8は第18図に示した場所から出土した。5の体部は逆「ハ」の字状に開き、赤彩が施される。外面の口縁部にヨコのヘラミガキが、体部に斜位のヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。内部の底部の表面は剥落している。6、7は内外両面に赤彩が施された底部である。6は内外両面にヘラミガキが施されるが、底部近くの表面は両面とも著しく剥落している。7も両面にヘラミガキが施されている。8の体部は逆「ハ」の字状に開く。無彩で、外面に刷毛調

整、内面に刷毛調整とナデが施される。9は蓋で、第18図に示した場所から出土した。内外両面に赤彩が施される。掴み部と裾部は欠損している。外面の体部にタテの裾部にヨコのヘラミガキが施され、内面にヘラケズリの後あたりヨコのヘラミガキが施される。

10、11は甕で樹瘤波状文が施されるもので、11は第18図に示した場所から出土した。10は口径と胴最大径はほぼ同じで、胴最大径は上位にある。頸部に3連止めの簾状文が施される。内面にはヨコのヘラミガキが施される。11も口径と胴最大径はほぼ同じで、胴最大径は上位にある。頸部に2連止めの簾状文が施される。内面にはヨコのヘラミガキが施される。12、13は甕と思われるものの胴下半部から底部で、13は第18図に示したとおり炉の中に設置されていたものである。12は外面にタテのヘラミガキ、内面に斜位のヘラミガキが施され、内部底部に付着物が見られる。13は外面にタテ、ヨコのヘラミガキが施され、内面にナデ、ヘラミガキが施される。

14は台付甕で、第18図に示した場所から出土した。頸部に等連止めの簾状文が施される。内面にはヨコのヘラミガキが施される。15は台付甕或は台付深鉢の脚と思われ、第18図に示した場所から出土した。脚部は裾部に向かって直線的に「ハ」の字状に開き、体部にヘラミガキが施される。

#### 第94号壺穴住居址(SB-94)出土の土器(第37図・第17~21表)

たくさんの土器が出土したが、第2節で述べたとおり出土状況はそれらの多くは焼絶時またはそれ以降に埋まったものである可能性を示している。1から10は甕で、1、4、6、10は第19図に示した場所から出土した。1は頸部である。T字文が施され、表面はあれている。内面には刷毛調整が施される。2は胴部であり、胴最大径部分に稜を有する形態のもので、外面は赤彩が施される。整形は外面の上半部はタテのヘラミガキ、下半部はヨコのヘラミガキを施され、内面はほとんどが剥落しているが、部分的に刷毛調整が見られる。3は大形の壺の胴部で、胴下半部に若干の括れがある。外面はミガキが施され、内面にヘラケズリ等が施されている。4は胴下半部が強く張る形態で、内外両面に刷毛調整が施された後、外面はタテのヘラミガキ、内面はナデが施される。5は胴部が丸みを持ち、内外両面に刷毛調整を施す。6から10は壺の下半部で、6は外面に赤彩及びタテのヘラミガキが施される。7、8は外面に赤彩及びタテのヘラミガキ、内面に刷毛調整等を施している。9は外面に赤彩及びタテのヘラミガキを施す。10は外面にタテのヘラミガキ、内面に刷毛調整が施される。

11、12は赤彩深鉢で第19図に示した場所から出土した。11は頸部に2つ1組の孔が2か所穿たれ、外面にタテのヘラミガキ、内面の口縁にヨコ、胴部にタテのヘラミガキが施される。12は全形を知り得るものである。甕形を呈し、頸部に2本の簾状文を施す。外面と内面口縁部に赤彩を施し、内外面ともヨコのヘラミガキが施される。

13はミニチュアの甕で、手づくねである。

14から20は高坏であり、17~19は第19図に示した場所から出土した。14は脚部高は短く、坏部は直線的に開く形態である。内外両面に刷毛調整を施した後、坏部は外面にナデ、内面にヨコのヘラミガキが施される。15は坏部で、鐙状口縁を呈し、内外面ともヨコのヘラミガキと赤彩が施される。16は坏部が碗形を呈する。外面と坏部内面に赤彩及びヨコのヘラミガキが施され、脚部はタテのヘラミガキが施される。17は脚部に三角透かし孔を4か所持つ。外面に赤彩が施され、ヨコのヘラミガキ、脚部はタテのヘラミガキが施される。脚部内面に刷毛調整が施され坏部の内面は剥落しているが、赤彩を施していたと思われる。18の脚部は高く、三角透かし孔を4か所持つ。外面にタテのヘラミガキ及び赤彩を、内面に刷毛調整が施される。19

は外面と坏部内面に赤彩及びヘラミガキが施される。20は外面にタテのヘラミガキ及び赤彩が施され、内面に刷毛調整が施される。

21から24は赤彩の鉢で体部は逆「ハ」の字状に開く形態を呈する。25、26の底部も鉢或は深鉢のものと思われる。21から23、25、26は第19図に示した場所から出土した。これらは内外面にはヨコのヘラミガキが施される。24は小型のもので、外面にタテ、内面にヨコのヘラミガキが施される。25、26は内外両面に赤彩及びヘラミガキが施される。

27は甗で底部に1孔を穿ち、ヘラケズリ、ナデ等の調整が施される。

28から32は蓋で、このうち28、30は天井部に1孔を穿つ。32は比較的小型である。31は蓋の抓部と思われる、外面にタテのヘラミガキ、内面にヘラケズリが施される。

33から43は櫛描波状文を施す甗で、33、35、37、38、40は第19図に示した場所から出土した。33は全形をほぼ知り得るもので、口縁部は長く緩く外反し、胴部は中位で張る。口径は胴最大径より小さい。2連止めが頸部を8分割する簾状文が施され、外面胴部下半と内部口縁部にヘラミガキが施される。34は口縁の反りは緩やかで、胴部にも張りが無い形態である。頸部に簾状文を施し、内面には刷毛調整の後ヨコのヘラミガキが施される。35は口縁から胴上半部で、口縁部は短く強く外反する。頸部に2連止めの簾状文を施す。内面には刷毛調整の後ヘラミガキが施されたと思われる。36は口縁部の破片で、頸部に2連止めの簾状文を施す。内面にヨコのヘラミガキが施される。37は口縁部から胴上半部で、比較的大きなもので、口縁部は長く大きく外反し、胴部は張る。頸部に2連止めの簾状文を施している。内面は表面があれて不明である。38は、口縁部が長く、胴に張りのある形態で、頸部に2連止めの簾状文を施す。内面には刷毛調整、ヘラケズリの後ヘラミガキを施す。39は比較的小さいもので、頸部に2連止めの簾状文が左から右へ施される。40は口縁部が長く、胴部最大径は中位にある。口径は胴最大径より大きい。簾状文は施されない。内面はヘラケズリの後ヨコのヘラミガキを施す。41は口縁部が長く、反りが緩い形態を呈し、簾状文が施されていない。内面に刷毛調整の後ヨコのヘラミガキを施す。42は口縁部から胴上半部で、口縁部は長くゆるく外反する。簾状文は施されず、内面にヨコのヘラミガキが施される。43は折り返し口縁で、内面にヨコのヘラミガキが施される。44から46の底部も甗と思われる。44は外面にヘラケズリの後タテのヘラミガキを施し、内面はヘラケズリの後ヨコのヘラミガキを施す。45、46は甗の底部である。外面にタテのヘラミガキ、内面にヘラケズリ、ヘラミガキが施される。

47は台付甗で、体部は浅く、口縁部は短い。外面の脚部にタテのヘラミガキ、内面の体部にヨコのヘラミガキ、脚部にナデが施される。48、49、50、51、52は台付甗の脚部で、短い脚高で「ハ」の字状に直線的に開くもので、48、49は第19図に示した場所から出土した。脚部外面と体部の内面はヘラミガキ、脚部内面はヘラケズリが施される。

#### 第95号竪穴住居址（SB-95）出土の土器（第38図・第21表）

1は甗で、ピット（P2）から出土した。口縁から胴上半部にかけての部分である。口径は小さく、口縁部は胴部より折れて外反し、短い。胴部には張りがある。外面と内面口縁部に赤彩及びヘラミガキが施され、頸部にT字文が施される。2は頸部に鐙状の突帯がめぐる甗で、第20図に示した場所から出土した。3は赤彩が施された甗の胴部で、胴下半部に括れがない。内外両面にヘラミガキが施される。

4は鉢の体部で、逆「ハ」の字状に開き、口縁端部で小さく内湾する。内外両面ともヘラケズリとヘラミガキが施される。5、6は鉢と思われるものの底部で、内外両面にヘラミガキ及び赤彩が施される。

7、8は甕で底部に1孔を穿たれる。7は内外両面にヘラケズリとヘラミガキが施され、8は内外ともヘラケズリが施される。

9、10は蓋である。9はヘラケズリが施された後外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。10は大井部に1孔を穿たれ、外面にヘラケズリ、ヘラミガキ、内面に刷毛調整、ヘラミガキが施される。

11は甕の口縁の破片で、折り返し口縁である。外面に波状文、内面にヨコのヘラミガキが施される。12、13も甕の口縁の破片で、先端が折り返されている。外面に櫛描波状文、内面にミガキが施されている。

#### 第96号竪穴住居址（SB-96）出土の土器（第39図・第21・22表）

1、2は高坏の接合部で、外面にタテのヘラミガキ及び赤彩が施される。脚部の内面はナデが施され、坏部内面の表面は剥落している。3は高坏の脚部で外面に赤彩及びヘラミガキ、内面に刷毛調整が施される。

4は鉢で、体部は逆「ハ」の字状に開き、口縁端部で折れる。内外両面に赤彩及びヘラミガキが施される。5は蓋で、天井部に1孔を穿っている。6は甕の底部で、外面にタテ、内面にヨコのヘラミガキが施される。

#### 第97号竪穴住居址（SB-97）出土の土器（第40図・第22表）

1、2は櫛描波状文を施す甕の胴部で、第22図に示した場所から出土した。1は胴部に張りがあり、外面胴下半部にタテのヘラミガキ、内面は刷毛調整が施され、口縁部にヨコのヘラミガキが施される。簾状文はない。2も胴部に張りがあり、外面胴下半部にタテのヘラミガキ、内面にヘラケズリの後ナデが施される。頸部に2連止めの簾状文が施された後、波状文が上から下へ施される。

#### 第98号竪穴住居址（SB-98）出土の土器（第41図・第22表）

1は蓋で、内外両面に赤彩を施され、外面にタテの、内面にヨコのヘラミガキが施される。2は甕の底部で、内外面とも煤による黒色を呈する。

#### 第6号溝跡（SD-06）出土の土器（第42図・第22表）

1は蓋の口縁部で、大きく外反し、内外面にヨコのヘラミガキを施し、赤彩を施している。2は甕で、底部に1孔を穿っている。内面にヨコのヘラミガキ、外面にタテのヘラミガキを施している。3、4は蓋の爪部で、4は大井部に1孔が穿たれている。5から7は甕である。5は薄手で、口縁部は短く、直立ぎみである。6は口縁部の先端が折り返されている。7は底部で、表面は荒れて調整は不明である。

遺物はすべて覆土中から出土した。その他、壺、甕、高坏の破片等が出土した。

#### 第1号井戸（SE-01）出土の土器（第43図・第23～29表）

たくさんの土器が出土した。極めて困難な調査状況であったため、出土地点を詳細に記録して採集することができなかったが、大雑把な出土位置は個々に第23表から第29表に示した。ちなみに、井戸側の底部近くから出土したものは3、6、9、12、19、20、22、25、30から34、36、38から41、51、53から55、59、80、90、99、102である。

1から58は甕と思われるものである。1はほぼ全形を知り得るもので、口縁部は大きく外反し、胴下半部に若干の括れがみられる。赤彩を施し、頸部は櫛描T字文が施される。外面の調整は、口縁部にはタテ、胴

部は外面にヨコ、胴下半部から底部にかけてタテのヘラミガキが施される。内面は、口縁部にヨコのヘラミガキが施され、胴部の内面に刷毛調整が施される。2は口縁から胴部で、口縁部は比較的短く開きも小さい。胴下半部にはくびれを持たないものと思われる。外面と内面口縁に赤彩が施される。ヘラミガキは口縁部にタテ、胴部はヨコに施される。3は口縁から胴上半部にかけての部分で、口縁部は短く胴は張る。赤彩を施し、頸部に2条の櫛描文が垂下するT字文を施す。外面の口縁部にタテ、胴部にヨコのヘラミガキを、内面の口縁部にヨコのヘラミガキを施す。4は口縁部で、内外面に赤彩が施される。外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施され、頸部に櫛描T字文が施される。5は頸部で、口縁部の内外面に赤彩が施される。頸部に4単位のT字文が施される。6は頸部から胴上半部にかけての部分で、胴部は丸く張り、下半部に若干の括れがあると思われる。頸部にT字文、赤彩を施す。外面にタテのヘラミガキ、内面にナデ、刷毛調整等が施される。7は頸部から胴部にかけての部分で、外面に赤彩及びヨコのヘラミガキが施される。頸部に櫛描T字文が施され、内面に刷毛調整が施される。8は胴最大径が他と比べて若干高い位置にあり、下半部に括れはない。外面に赤彩が施され、頸部にT字文が施される。外面にタテのヘラミガキ、内面にヘラケズリとナデが施される。9は全形を知り得るもので、比較的小さな壺である。口縁は短く、胴上半部はやや張り、胴下半部は緩いくびれを持つ。垂下する2条の櫛描文が頸部を4分割するT字文が施される。外面にはタテのヘラミガキ、内面には口縁部にヨコのヘラミガキ、胴部に刷毛調整が施される。胴部に焼成後に径2.5cmほどの孔が穿たれる。部分的に大きなコグがある。10は頸部から胴上半部にかけての部分で、16と同一個体の可能性がある。内外両面に赤彩とヨコのヘラミガキが施される。頸部には3連止めの櫛描痕状文が施される。11はナデ肩を呈し、胴下半部に括れがないものと思われる。頸部に櫛描直線文が施される。外面にヘラミガキ、内面にヘラケズリ、刷毛調整が施される。12は頸部から胴上半部にかけての部分で、張りのある胴部から折れて口縁部となる。頸部に櫛描直線文が施す。外面と内面の口縁部にヨコのヘラミガキが施される。13は赤彩の壺の頸部で、器厚は薄く、頸部に文様帯をもたない。内外面にヨコのヘラミガキが施される。14は胴部の最大径が下半部にある形態を呈し、頸部に文様帯を持たない。胴部外面はタテのヘラミガキ、内面はナデを施す。15は外面に赤彩があり、胴最大径を下位にもつ形態を呈し、頸部に文様帯を持たない。頸部外面はヨコのヘラミガキ、胴部はタテのヘラミガキを施す。内面は胴上半部に刷毛調整、下半部はヨコのヘラミガキを施し内外両面に付着物が見られる。16は胴下半部で、10と同一個体の可能性がある。外面に赤彩とタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。17は外面にタテのヘラミガキと赤彩が施され、内面に刷毛調整とヘラケズリが施される。外面に付着物が見られる。18は胴下半部から底部にかけての部分で、外面に赤彩及びタテのヘラミガキ、内面に刷毛調整が施される。19は胴下半部から底部にかけての部分で、胴下半部がわずかにくびれる形態である。外面にタテのヘラミガキと赤彩が施され、内面に刷毛調整が施される。20は胴下半部から底部にかけての部分で、外面に赤彩が施されている。調整は外面の上部にヨコ、下部にタテのヘラミガキ、内面にはナデ、ヘラケズリ、刷毛調整が施される。21は底部で、赤彩が施され、外面はタテのヘラミガキ、内面はヘラケズリが施される。22は底部で、外面に赤彩とタテのヘラミガキが施され、内面にヘラケズリと刷毛調整が施される。23は壺の底部で、外面に赤彩とタテのヘラミガキ、内面に刷毛調整とヘラケズリが施されている。24は小型の壺の底部で、外面に赤彩とヘラミガキが、内面にナデが施されている。25は底部で、外面に赤彩とタテのヘラミガキが施され、内面に刷毛調整とナデが施される。割れ口が粗く研磨され、二次使用が行われた可能性がある。26は底部で、外面にタテのヘラミガキ、内面に刷毛調整、ヘラケズリ、ナデが施される。27は胴部から底部で、外面にヘラミガキを施され、内面はナデが施される。28は胴下半部から底部にかけての部分で、外面にタテのヘラミガキ、内面にヘラケ

ズリと刷毛調整が施される。外面に煤が着く。29は外面から内面の底部まで精緻なヘラミガキが施される。30は胴下半部から底部にかけての部分で、くびれず、直線的な形態である。外面にタテのヘラミガキ、内面にヘラミガキと刷毛調整が施される。31も胴下半部から底部にかけての部分で、直線的でほっそりした形態である。外面にタテのヘラミガキ、内面に刷毛調整とナデが施される。32は胴部から底部にかけての部分で、偏平で肩部に張りがある形態である。外面に赤彩とタテのヘラミガキが施され、内面に刷毛調整とヘラケズリが施される。33は小型の壺の体部で、偏平ぎみで上げ底の形態である。外面にヘラミガキが施され、赤彩が施された可能性が見られる。内面は刷毛ナデが施される。34は小型の壺の口縁部と思われ、口縁先端は折れて受け口状を呈する。内外両面に赤彩とヘラミガキが施される。35は頸部の破片で、ヘラ描き羽状文が施される。36は壺の口縁部と思われ、先端が折れて立つ形態のものである。ヘラ描きによる沈線文と櫛描波状文が施される。37は体部の下半部に張りがあり、口縁部が短く「く」の字状に屈曲する形態で、外面と内面口縁部に赤彩及びヨコのヘラミガキが施される。内面は刷毛調整とヘラケズリが施される。38は壺形を呈し、外面にタテのヘラミガキ、内面は口縁部を除いて磨かれておらず、ナデが施される。39は壺の口縁部から胴上半部で、口縁部は強く外反し、胴の肩部は張っている。外面にタテのヘラミガキ、内面の口縁部はヨコのヘラミガキ、胴部は斜位のヘラミガキが施される。40は口縁部が長く、開きが小さい。外面にタテのヘラミガキ、内面の口縁部にヨコのヘラミガキが施される。41は口径が小さく、外面と内面の口縁部にヨコのヘラミガキが施される。42は口縁部で、外面にタテ、内面にヨコのヘラミガキが施される。43、44は口縁部の開きが小さく、先端が外に折り返された形態のものである。43の調整は内外両面に刷毛調整が施される。44の調整は外面にタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。45は張りのない壺形を呈し、外面にヘラケズリの後にタテのヘラミガキが施される。内面の上半部はヨコのヘラミガキ、下半部はナデが施される。内面に赤彩の痕が見られる。46は頸部に6か所孔が穿たれている。外面はタテのヘラミガキ、内面は刷毛調整の後ヨコのヘラミガキが施される。47は胴部にやや張りのある形態で、外面に刷毛調整、内面に刷毛調整とヘラケズリが施される。48は頸部から胴部にかけての部分で、胴部が張る形態である。外面にヘラケズリの後ミガキ、内面にナデが施される。49は口縁部から頸部が長くすなりし、胴部がそろばんの玉状に屈曲する形態を呈する。内外両面に刷毛調整とヘラケズリを施す。50は胴部には張りがなく、頸部も比較的すばまらない形態で、外面にタテのヘラミガキ、内面にケズリ、ナデが施される。51は胴下半部に最大径を持つが、くびれはない。外面にタテのヘラミガキ、内面に刷毛調整とナデが施される。52は比較的上位に最大径をもつ胴部で、外面にタテのヘラミガキ、内面に刷毛調整、ナデが施される。53から56は頸部に鐮状の突帯を付す形態である。53は胴部には精緻な斜位のヘラミガキが施され、頸部には刷毛調整が見られる。内面は頸部にヨコのヘラミガキ、胴部にナデが施される。54の外面はタテのヘラミガキ、内面にヨコのヘラミガキが施される。56は非常にあいつくりである。外面に刷毛調整、内面にヘラミガキが施される。57は小型壺である。体部は偏平の球形を呈し、外面の肩部に櫛描波状文が施される。調整は外面にヨコのヘラミガキ、内面にナデが施される。58は粗いつくりで、いびつな形態である。体部は球形で、内外面にヘラケズリが施されている。

59から65までは深鉢と思われるものである。59は壺形を呈する。外面と内面の口縁部に赤色塗彩が施され、頸部に等連止めの簾状文を施す。外面にヨコのヘラミガキを、内面にヘラケズリ、刷毛調整を、内面の口縁部にヨコのヘラミガキと赤彩を施す。60は頸部に櫛描文による直線文が施される。内面はヨコのヘラミガキが施され、外面と内面の口縁部に赤彩が施される。61は比較的小型で、内外両面に赤彩が施され、壺形を呈する。外面は口縁部にヨコのヘラミガキ、体部にタテのヘラミガキが施される。内面はヨコのヘラミガキ



キが施され、内面に付着物が見られる。62は口縁部の開きが小さく、胴部が長く、外面にタテのヘラミガキ及び赤彩が施される。内面は口縁部にヨコのヘラミガキと赤彩が施され、体部にはナデが施される。63は外面に赤彩を施され、口縁部にタテ、体部にヨコのヘラミガキが施される。内面は口縁部にヨコのヘラミガキと赤彩、体部にヨコのヘラミガキが施される。64、65は赤彩深鉢の口縁部と思われる。内外両面に赤彩とヘラミガキが施される。

66はミニチュアで、鉢型を呈する。器厚は厚く、手づくねで作られている。67は高坏の接合部である。外面と坏部の内面にヘラミガキが施される。

68から74は鉢である。68は口縁から体部にかけての部分で、逆「ハ」の字状を呈する。内外面に赤彩が施され、外面にタテのヘラミガキ、内面はヨコのヘラミガキが施される。内面は剥落している。69は鉢の口縁部で比較的小型で、口縁部の先端は内湾する。70は小型の鉢で、壺形を呈するものと思われる。内外面に赤彩及びヘラミガキが施される。71は小型の鉢の底部である。内外面に赤彩及び外面にタテの、内面にヨコのヘラミガキが施される。72は底部で、内外両面に赤彩とヘラミガキが施される。内面の底部は剥落している。73、74は口縁から体部にかけての部分で、逆「ハ」の字状を呈する。73は外面にはヘラミガキが施されていたと思われる。内面にはタテのヘラミガキが見られる。74は外面にタテ、内面にヨコのヘラミガキが施される。75、76は瓶で、底部に1孔を穿つもので、内外面にヘラミガキが施される。75の内外両面に付着物が見られる。77、78、79は蓋の爪部である。77の天井部には穿孔が施されている。

80から89は櫛描波状文を施す甕である。80は口縁が胴部より折れる形態を呈し、頸部に簾状文を施し、内面にヨコのヘラミガキが施される。81、82は口縁部で頸部に簾状文が施される。内面はヨコのヘラミガキが施される。83は全形を知り得るもので、口縁は比較的短く強く外反する。胴最大径はほぼ中位にある。櫛描波状文を下から上へ施し、簾状文がない。外面の胴下半部と内面に精緻なヘラミガキが施される。84は口縁から胴上半部で、口縁は比較的短く大きく外反する。簾状文はなく、内面にヨコのヘラミガキが施される。85は胴上半部で、頸部に簾状文はなく、内面にヘラミガキが施される。86は口縁部で、粗い櫛描波状文が施される。87は口縁部から頸部で、頸部に簾状文が施される。内面にヨコのヘラミガキが施される。88は口縁部で内面はヨコのヘラミガキが施される。89は折り返し口縁の口縁部で、櫛描波状文が施される。

90は無文の甕で、全体的に外面に煤が付着している。胴下半部は熱を受けて著しく剥落している。調整はよく解らないが、外面の口縁部にヨコナデ、内面にはナデ、刷毛調整が施される。

91から102は甕あるいは壺の胴下半部から底部である。91は甕胴下半部であると思われる。外面にタテ、内面にヨコのヘラミガキが施され、内面に付着物が見られる。92、93、94、97、98、101には外面あるいは内面、両面に付着物が見られる。すべて外面にはタテのヘラミガキが施され、内面に刷毛調整、ヘラケズリ、ナデ、ヘラミガキが施される。

## ピット出土の土器

検出されたピットのうちいくつかのピットの覆土から土器等の遺物が出土した。破片が小さく、また磨耗が著しいため種類及び器種等が不明なものもあるが、ほとんどは、弥生時代後期に属するものであるとみられる。

## (2) 遺構外出土の土器

耕作土等の遺構以外の場所から検出された土器はごく僅かで、図化または復元が可能なものはなかった。

め、本書に掲載しない。

## 2 石器

石材は、甲田三男先生に鑑定をお願いした。出土した石器類のほとんどは遺跡周辺によくみられる石材で、特に築屋台を形成する層に多く含まれているものであるが、角閃石安山岩はこの地域には存在せず、最も近い産出地は東部町の湯の丸であるというご教示をいただいた。

### (1) 遺構出土の石器類 (第45図・第31表)

1は石包丁で、第95号竪穴住居址(SB-95)の覆土中から出土した。素材は流紋岩で一部が欠損している。1孔が一方から穿たれている。横の長さは約8.1cm、縦の幅は4.3cm、厚さ0.6cm、重さは25.1gである。片面は全体的に擦って成形されているが、もう片面は端部を除いて無加工である。2も第91号竪穴住居址の覆土中から出土した擦り石で、長さ11.0cm、幅8.1cm、厚さ3.9cm、重さ529.0gで素材は角閃石安山岩である。擦痕は両面の平坦な面に多方向にみられる。3は安山岩の擦り石で、第93号竪穴住居址(SB-93)の覆土中から出土した。長さ10.4cm、幅7.5cm、厚さ4.0cm、重さ464.0gで、ほぼ全面に擦り痕がみられる。4は擦り石で、第1号井戸跡(SE-1)の覆土上層中から出土した。素材は安山岩で欠損しており、長さは残存した部分で11.2cm、幅は5.4cm、厚さ3.9cm、重さ354.0gで、ほぼ全面に擦痕がみられる。5は安山岩の擦・敲石で、第95号竪穴住居址(SB-95)の覆土中から出土した。長さ11.2cm、幅5.9cm、厚さ3.7cm、重さ419.0gで、擦痕の方向は多方向で、長軸の両端に敲痕がある。6の凹石は第85号竪穴住居址(SB-85)の覆土中出土の安山岩で、長さ7.9cm、幅6.7cm、厚さ3.7cm、重さ250.0gで、両面に窪みを持つ。7と8は第91号竪穴住居址(SB-91)覆土中出土の凹石である。7は安山岩で長さ7.3cm、幅6.6cm、厚さ3.6cm、重さ198.0gで、両面に窪みを持つ。8は安山岩で長さ8.6cm、幅8.1cm、厚さ3.5cm、重さ339.0gで、片面に窪みを持つ。9は砥石で、第87号竪穴住居址(SB-87)の覆土中から出土し、材質は安山岩で、長さ13.7cm、幅7.5cm、厚さ3.1cm、重さ462.0gである。砥面は滑らかで3面にわたって砥がれ、砥ぎの方向は多方向である。

### (2) 遺構外出土の石器

耕作土等の遺構以外の場所から、報告可能な石器等は出土しなかった。

## 3 その他の遺物

### (1) 遺構出土のその他の遺物

#### 紡錘車及び土製円盤 (第44図・第30表)

1は紡錘車の破片で、厚さは1.6cm、径は推定7.4cm、重さは24.7gで、第96号竪穴住居址から出土した。2は紡錘車の破片で第1号井戸跡から出土した。この直径は推定で6.0cm、重量は36.0gである。3は第85号竪穴住居址から出土した土製円盤で、赤彩土器片を再加工したものと思われる。4は土製円盤で、土器片を再加工したものと思われる。表面に櫛櫛文が見られる。第86号竪穴住居址から出土した。5、6は土製円盤で第88号竪穴住居址から出土し、表面に赤彩、裏面に刷毛調整が施され、土器片を再加工したものと

思われる。

#### 金属製品・鉄滓

第91号竪穴住居址（SB-91）の覆土中から鉄製品或は鉄滓が合計40.0g程出土した。腐蝕が著しく原形は不明で、完形の姿を復元できない。

#### 第1号井戸跡出土の木製井戸枠等（第46図・第32表）

割り木を2枚合わせた円筒形のものと同様と推測され、それらは腐蝕のため縦に4つにわかれていた。素材は、安江恒先生の鑑定によりナラであることがわかった。井戸の底部に接する部分は平坦に調整されているが、上部は腐蝕のため丸みをもった不定形を呈している。内外面の状態が良好な部位では、手斧のようなものによる加工痕が残され、直径10cm程度の円形或は楕円形の孔が全部で4箇所以上わたって内側から穿たれている。出土状況は第46図の下に示したとおりで、1から4は1→2→3→4の順に並んでいた。1は長さ137cm、幅は47cm、厚さは最大で4.8cmである。底辺から22cmのところにて径約8cmの孔が穿たれている。また、もう一つ所、底辺から75cmのところと同様のものと推定される孔があったと思われる痕跡がみられる。2は長さ107cm、幅は27cm、厚さは最大で6cmである。底辺から24cmのところにて径約8cmの孔が穿たれている。また、もう一つ所、底辺から75cmのところにて1で推定されたものと同じ孔があったと思われる痕跡がみられる。3は長さ109cm、幅は38cm、厚さは最大で8cmである。底辺から27cmのところにて径約8cmの孔が穿たれている。4は長さ117cm、幅は38cm、厚さは最大で9cmである。底辺から85cmのところにて径約12cmの孔が穿たれている。

このほか、井戸の最下部の土層から加工痕のある針葉樹の枝1本、桃に似た果核類の種子が3コが出土した。枝は、長さ37.1cm、厚さ2.5cmで、5.5cmにわたって基部近くが粗く削られている。種子は1つが長さ2.6cm、幅2.1cm、厚さ1.5cmで、もう1つが長さ2.5cm、幅1.5cm、厚さ1.3cmである。もう1つは破片で、残存する部分の大きさは長さ2.1cm、幅1.4cm、厚さ0.6cmである。これらは図化しなかったが、写真図版29で示した。

#### (2) 遺構外出土その他の遺物

表土の耕作土から第2次世界大戦中に米軍によって落とされたと思われる焼夷弾の一部が1点出土した。また、ガラス製の目録の容器等、近代の遺物が数点出土した。

## 第4節 まとめ

#### (1) 遺構について

本調査で検出された遺構群は、竪穴住居址、土坑、井戸跡、溝跡、ピットであった。

（竪穴住居址群） 出土遺物からこれらは弥生時代後期に属するものと考えられる。

調査対象となる面積は1,000㎡にも至らない狭いものであるが、遺構は集中して検出されている。そのため、すべての竪穴住居址が切り合によって破壊されたり、調査地区の外に及んでいて未調査部分を残すものであり、まる一軒を掘り上げられたものは無い。そのため、床面積や長軸・短軸等の規模は具体的な数字をあげて比較することはできない。しかし、客観的にみて第90号竪穴住居址はこの中で最も小さいものと考えられ、床面積は推定して13.5㎡程であろう。第91号竪穴住居址は大型に属するものと思われ、36.0㎡程と

推定される。その中間の大きさのものとしては第94号竪穴住居址等が上げられ、これは20.4㎡程度のものと推定される。本調査で検出された竪穴住居址は、長軸をみるかぎり異例の規模であったことを示す第86号竪穴住居址を除いて、だいたいこれら3つの大きさのものに分類されるものと思われる。

主軸方位は、大きく分けて北東を向くものが6軒、北を向くものが4軒、北西を向くものが5軒である。

平面形態は、全体が明らかでないものを除けば、隅丸長方形を呈し、床には4ヶ所の支柱の跡と推定される穴が確認されている。このうち、柱穴の平面形態は円形を呈するものと極めて細長い楕円形を呈しているものがある。

主柱穴以外のものと思われるピットを有する住居もある。第86、89～91、93、95号竪穴住居址の南側壁近くには入口施設の跡の可能性が考えられるピットが検出された。また、南側壁近くの東寄りの床に比較的大きなピットが掘り込まれているという特徴のあるものがいくつかみられる。第86、89、90、91、94、97号竪穴住居址がそれである。この位置にこの種のピットが存在する竪穴住居址は、平成12年度に実施された第3次調査でも報告されている。

周溝は、5軒の竪穴住居址に掘られている。第89号竪穴住居址は、周溝の存在によって拡張が行われたことが推測される。

炉は第91、95～97号竪穴住居址の4軒を除いて確認され、第86号竪穴住居址を除いてすべて北方の2本の主柱穴間に位置する。このうち、第89号竪穴住居址にはこのような位置にあるもの以外にも地床炉と土器敷き炉を有している。第85、87、89号竪穴住居址の炉は、床を掘り窪めた地床炉である。第84、88、90、93号竪穴住居址には土器の底部が炉に埋置されて、第92、94、98号竪穴住居址には地床炉に炉縁石が1つ覆われたものであった。第86号竪穴住居址には複数の炉が確認されており、地床炉と推測されるものが2基と土器敷き炉と思われるものが1基確認されている。また、第85、89～91、93、95号竪穴住居址には、このような炉のほか、床面の中央部分に掘形のない被熱面を有している。

炭化物や礫が覆土から出土したのも多くみられる。7軒の住居址から炭化物が検出され、特に第84号竪穴住居址と第86号竪穴住居址からは柱材と推定される炭化物が出土した。また、このように炭化物を出土する住居からは、礫が部分的に集中して出土するものが多くみられ、意図的に埋め戻す際に火が焚かれる場合があったものと推測される。

なお、第86号竪穴住居址は、壁の長さからみて他の竪穴住居址と比較して大形であることがわかる。しかも、柱穴等の配置から推測して縦軸と横軸の比率が偏った極めて細長の形態であると思われる。また、建物構造及び覆土の様相等においても特殊な要素を多く持っている。このことから、居住以外の別の利用がなされていた可能性があり、集落内の特殊な施設であったかもしれない遺構として留意する必要がある。

(溝跡) 第6号溝跡は北から南にほぼ直線的に伸びている。北端は擾乱を受けて失われ、南端は緩やかに底が上がって消滅している。断面形は皿状を呈する。底面は南東から北西に若干傾いている。形態等から人為的に掘られたものと推測される。覆土からは弥生時代後期の土器片を出土している。時期は、少なくとも第86、87、94、96号竪穴住居址及び第1号井戸跡を切っていることからこれより新しいものと考えられる。

(井戸跡) 本遺構の深さは、検出面から底部まで約4.2mの大規模な井戸である。出土した遺物により、本遺構が弥生時代後期のものである可能性を示す。弥生時代の井戸の構造がわかる検出例は長野県内において極めて稀であったが、ここ近年に(財)長野県埋蔵文化財センターによる調査で榎田遺跡、春山B遺跡、力石糸里遺跡などから丸太割り抜き井戸等が確認されている。しかし、一部であれ本遺構のように石組みが併用されている例はこの時代のものとしては他に類例を見出すことは今のところ困難である。

宇野隆夫氏は1989年発行の『弥生文化の研究』第7巻の「3 井戸」等において、井戸側の有無と構造を

基準として井戸の分類を行っている。本遺構の場合井戸側の主体となる素材が判り木の部分と考えられるので、本組井戸に分類されるものといえよう。

この井戸の上半部は、井戸側の径に比べてかなり大きい掘形をもっている。調査の当初は土坑として掘り下げ、その結果井戸と確認された。調査者の経験不足によるところが大きいのだが、早い段階で井戸と認識できなかったのは本遺構の形態がとても独特であることも一因である。この形態は、強いていうなら久世康博氏の「井戸検出に伴う土坑の検討」(2002 『研究紀要』8 (財)京都市埋蔵文化財研究所)の「掘鉢型」として示している形態のものに近い。または鈴木孝之氏の「古代～中近世の井戸跡について(1)」(1990 『研究紀要』7 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業刊)等における「ロート状の断面形」、中野雅美氏の「弥生・古墳時代初期の井戸」(1988 『考古学と関連科学』鎌木義昌先生古希記念論文集刊行会)における「上部が掘鉢状に開くタイプ」の上部が発達したものとして捉えられることも可能であろう。

この上半部の掘り込みが下半部の井戸本体との関係においてどのように利用されたものかを考察するには、これが鑿井時から使用中・埋井までのどの時点でつくられたかを知る必要があるが、本調査ではそれを明らかにすることができなかった。久世氏が論考の中で例をあげたものの中から推察すると、鑿井の足場、水汲みの足場、井戸枠抜取坑等とみるのがこの場合適当であると思われる。このうち、下半部を掘り出した土を盛って上半部の底を平坦にしていることが土層の堆積状況等から推察できることから、足場として利用した可能性が大きいと思われる。また、中野氏は「井戸の下部を掘り下げる際のより安易な効果的労働の問題」に言及しており、この点にも同じく注目する必要があると思われる。4mもの掘削は大変な労働力を必要としたことは想像に難くなく、足場がなくては掘り上げることは困難であったと思われる。このことから、上半部の主たる利用は鑿井時の足場であったといえるのではないだろうか。

井戸側の木材には、既述したとおり内側から円形或は階円形の孔が4ヶ所以上わたって穿たれていた。この孔は、通水孔と考えられる。しかし、掘形底面が湧水層に達し底面にも何ら施設が存在しないことからことさら取水施設を設ける必要性は認められないとも言える。これに類似したケースとして、池上曾根遺跡史跡指定20周年記念事業実行委員会が1996年に発行した『弥生の環濠都市と巨大神殿』の「6. 大形判り抜き井戸」では、孔は「井戸内に対流を作り、井戸水が淀むことを防ぐ施設であったと捉えることもできる」としている。本遺構でもこれと同様に、調査中に十分な水位を得た状態において孔から地下水が流入して渦を巻く様が観察されたことから、この孔は対流を作る目的のものであったと考えることができる。

本遺構からは多量の土器が出土した。土器は、上半部の傾斜部に堆積した一部の層を除いて下から下までの層を問わず認められる。これらの内、上半部から出土した土器群と下半部の石組みから下の井戸本体から出土した土器群とに分けてみると、この2ヶ所の間で接合関係がある破片はごく僅かであり、土器の出土状況にも違いが認められる。このことから、両者から出土した土器群は、異なる時期に埋没したか、上半部と下半部の利用のされ方が異なると理解することが可能である。下半部の井戸内で出土したものには、半完形の土器が多く認められ、意図的に放置されたものか、或は埋土の途中で投入されたものと考えられる。これらの土器は、傾向として壺、甕が多く、本報告掲載の壺の半分以上がこの遺構から出土したものである。その中には第43図9の胴部に穿孔がみられるものも含まれる。また、壺は箱清水式様式の主体となる類の典型的なものではないもの等の出土数が比較的多く、本報告掲載のもので約4割を占める。1981年発行の『神道考古学講座』第1巻の「弥生時代の遺物にあらわれた信仰の形態」で森貞次郎氏は、多くの事例から「井戸の使用時に呪術的意味をもって土器が沈められ」、「廃棄にあたっては日常その祭祀に使用されてきた土器が投棄されつつ埋め戻された」と考えている。これらの土器群もその論考に示された状況と思わせる点があることから、井戸を対象とした祭祀や呪術的儀礼が行われていた可能性がある。このように考える

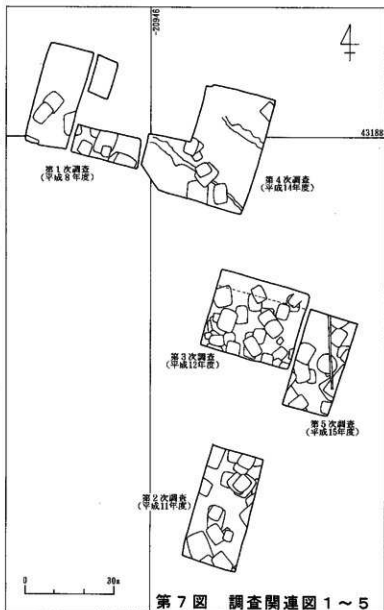
ならば、桃に似た種子が出土している点についても、供物として捧げられた可能性を示すものとして留意されるものである。

また、宇野氏は先の論考の中で、弥生時代のほとんどは集落の井戸であるとし、井戸の配置の型を集落付属型と建物付属型の2つに大別している。本遺構が集落の中のどのような位置に存在しているかをこれまでの本遺跡における5回にわたる調査の結果をもとにしてみると、以下のようなことが推測できる。宇野氏は、集落付属型井戸は「住居からやや離れた集落のはずれの地点に設けられていることが多い」と述べている。第7図のとおり、本調査地の竪穴住居址の検出状況はその密度が最も高く検出された西隣の第3次調査地区と比較すれば少なくとも少ないとはいえ集落のはずれとは言えない場所であり、このタイプに属するものとは考えにくい。一方、建物付属型井戸の中の竪穴住居付属型については、「1軒ないしごく数件の竪穴住居に近接して設置される井戸」であるとされ、本例では第86号竪穴住居址をあげる事が可能である。この住居址は本遺構に極めて隣接した場所に位置する。既述したとおり、第86号竪穴住居址は、規模や形態、建物構造、検出状況等において他の竪穴住居址と異なった特殊な要素ももっている。或は、ミニチュア土器が出土している第91号竪穴住居址および第94号竪穴住居址も何らかの関係があったのではないかという気になってくる。これらも同じく本遺構に隣接している。

以上の記述は、客観性に欠けた部分が多いばかりでなく調査における良好なデータの提示の乏しい、報告として逸脱した嫌いのある内容であるかもしれない。しかし、本遺構には他に同様の例を見出すことができない要素が多く、且つ当地域における弥生社会を考える上で少なからぬ意義をもつ資料となる可能性があるものである。このような想像の部分が多い記述も今のうちには必要の範囲かと思う。いずれにせよ、様々な方向からの検討と今後の類例を待ちたい。

#### (土坑及びピット群)

土坑及びピットの性格及び時期が分かったものは無かった。個々については前説の文章及び表で述べたとおりである。土坑とピットから出土した土器のうち、属する時期が推定できるもの多くが弥生時代後期のものである。



## (2) 遺物について

出土した遺物のうち主に報告書に掲載した土器について器種ごとの特徴をみると以下ようになる。

〈甕〉 大きく分けて平底甕と台付き甕が出土した。このうち、台付き甕は第34図の39(第91号壑穴住居址)、第37図の47(第94号壑穴住居址)等の僅か、平底甕が大部分を占める。平底甕は、ほとんどのものの外面に櫛描波状文が施される。波状文以外の文様では、櫛描直線文が施されているものが第89号壑穴住居址や第91号壑穴住居址から僅かに出土している(第32図の11、第34図の37)が、小片なので詳細は不明である。また、第92号壑穴住居址と第1号井戸跡出土の土器(第35の図5、第43図の90)にみられるように外面に文様が施されていないものもある。

頸部に簾状文が施されるものと施されないのがみられる。本報告掲載の中では、施されているものの割合が6割ほどである。静止回数は等連止、2~4連止等のほか直線のものがあり、2連止めが最も多い。第86号壑穴住居址からは、頸部にT字文が施されている甕が出土している(第29図の12)。

全体の形態が分かるもののうち、小さいものは第34図の35(第91号壑穴住居址)の器高8.5cmで、大きいものは第37図の33(第94号壑穴住居址)の器高31.7cmである。第28図の12(第85号壑穴住居址)、第34図の34(第91号壑穴住居址)、第43図の83(第1号井戸跡)は、口径と胴部最大径がほぼ同じ大きさで、胴部最大径が中位にある。第34図の35(第91号壑穴住居址)、第37図の40(第94号壑穴住居址)は、口径が胴部最大径より大きく、胴部最大径は中位にある。また、第36図の10(第93号壑穴住居址)、第37図の33(第94号壑穴住居址)は、口径が胴部最大径と比べて小さく、胴部最大径の位置が前者は上位に、後者は中位にある。

この他、口縁部の先端が外側に折り返されている甕も第38図の11(第95号壑穴住居址)等にみられるが、全形が分かるものはない。また、口唇部に連続した刻みが施されているもの(第34図の37)もある。

〈甗〉 赤彩を施すものと無彩のものがある。箱清水式様式の主体となる類は、本調査で出土した壺の多くを占める。全形を知り得るものは、第1号井戸跡の2点(第43図の1と9)である。第43図の1は口縁部が大きく発達して外反し、肩部は「なで肩」状を呈し、胴部最大径を下位に持ち下腹状を成すものである。これらのうちには、胴下半部の形状が第43図の9(第1号井戸跡)にみられるように胴下半部が括れるものと、第43図の8(第1号井戸跡)にみられるように屈折せず強く張るものと、第28図の1(第85号壑穴住居址)にみられるように丸く張るものがある。胴下半が明瞭に括れるものは、全体的に少ない。また、第38図の1(第95号壑穴住居址)、第43図の12(第1号井戸跡)等にみられるように肩に張りがあり頸部の括れが明瞭なものと、第34図の1(第91号壑穴住居址)のように頸部の括れが緩やかなのがみられる。

頸部の文様帯については、これを施すものが多くみられるが、第30図の2(第87号壑穴住居址)と第43図の13(第1号井戸跡)等のように施さないものがある。文様はT字文がほとんどを占め、2条1組のものと1条1組のものがある。第1号井戸跡出土の櫛描直線文とヘラ描き羽状文(第43図の11、35)の破片も僅かだがみられる。また、ボタン状貼付け文が施されているものもある。

箱清水式様式の主体となる類の典型的なものにはみられない特徴を持つ壺も多く出土している。これらの中には器種の分類に悩むものが多く、便宜上壺に分類したものもある。第34図の7(第91号壑穴住居址)と第43図の40(第1号井戸跡)の口縁部は長く発達しているが開きが小さい。第34図の6(第91号壑穴住居址)、第43図の39、41(第1号井戸跡)は口縁部が短く胴部径に比べて口径が小さい。第43図の37(第1号井戸跡)は、口縁部は短く頸部は折れて括れる。また、第43図の53(第1号井戸跡)のように頸部に突帯がめぐるものが数点出土している。第43図の43、44(第1号井戸跡)は口縁部の先端が外側に折り返されたものである。第43図の57(第1号井戸跡)は体部が扁平気味の球形を呈している。第43図の32(第

1号井戸跡)は肩部が強く張っている。第43図の33(第1号井戸跡)は下臑れの形態を呈しているが、胴の長さが短く扁平である。第43図の45(第1号井戸跡)は口縁が短く胴部に張りが無い形態である。第35図の3(第92号竪穴住居址)、第43図の47(第1号井戸跡)等は胴部の外面に刷毛調整が施されている。

(高坏) 全形を知り得るものは、第37図の14(第94号竪穴住居址)のみである。これは坏部が碗形を呈し内湾気味にあり、脚部高が坏部に対して短いものである。坏部の形態がこれと同じ類のものは、第37図の16(同)である。脚部の形態がこれと同じ類のものは、第32図の4(第89号竪穴住居址)である。

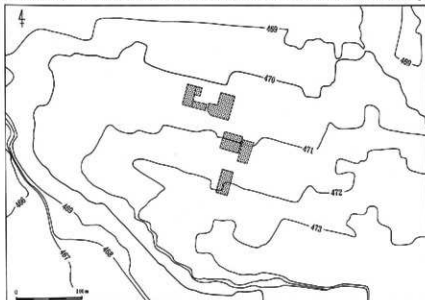
この他に、坏部の形態は第37図の15(第94号竪穴住居址)等にみられるように口縁端部で水平に外反するものと、第34図の16(第91号竪穴住居址)等にみられるように段を持ち屈折して口縁部が外反するものがある。

この他に、脚部の形態は第37図の17、20(第94号竪穴住居址)等にみられるように、脚部高が坏部高と比べて長いと推定される類のものがある。これらの中には三角透し孔があるものといえないものがある。

(鉢、深鉢、甌、蓋、ミニチュア) 鉢は赤彩を施すものと無彩のものがみられる。形態は逆ハの字状を呈する。口縁部が内湾するものと、直線的なものがある。また、片口をもつものがある。深鉢は赤彩で、口縁部に小孔を穿つもの、頸部に簾状文がみられるものもある。甌は全形がわかるものが1点出土した。これらの体部は内湾気味の逆ハの字状で、底部に孔を穿つ形態を呈する。蓋も全形がわかるものは、体部はハの字状で裾部が外反する。天井部に孔を持つものや赤彩が施されるものもある。ミニチュア土器は手握ね土器で、範型が壺、高坏、鉢のものがある。

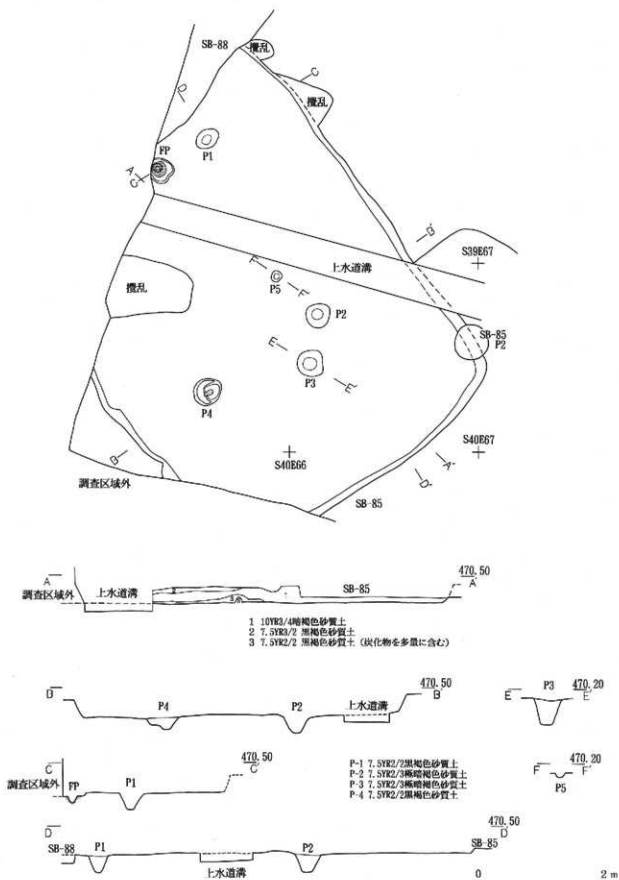
### (3) 竪穴住居址の分布状況について

第7図は、第1次から本調査までに明らかになった遺構の配置図である。弥生時代後期の竪穴住居址の分布密度は、第3次の調査地点が最も濃くみられ、第1次と第4次調査地区ではそれと比べて薄く、北へ向かうほど少なくなっている傾向がみられる。第4次調査地区の北隣は、平成11年度に福利厚生施設建設工事建設の事前の試掘調査により竪穴住居等の遺構が存在しないことが確認されている。第8図のとおり、地形的変化等も含めて考えると集落域の主体となる部分の北限がこのあたりに想定される。また、南の第2次調査地点は、弥生時代後期集落域と重なって、外来土器群の流入によって箱清水式土器群が解体を始める段階からそれらが消滅する段階と考えられる土器群を出土する竪穴住居址群の分布がみられる。



第8図 調査地区周辺地形図





第9図 SB-84実測図(1)

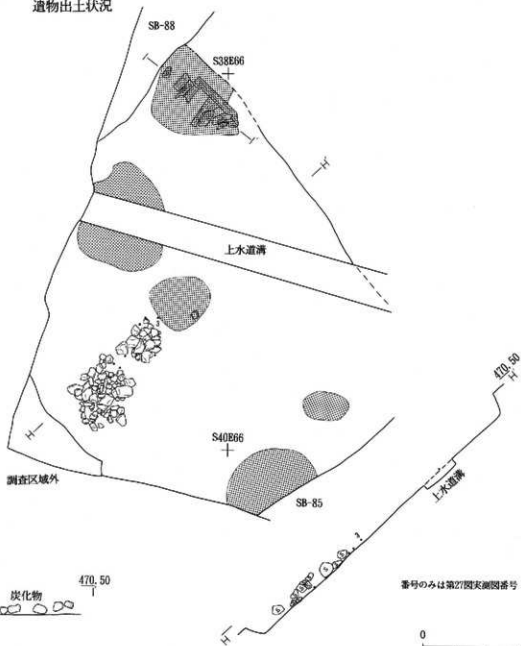
炉実測図



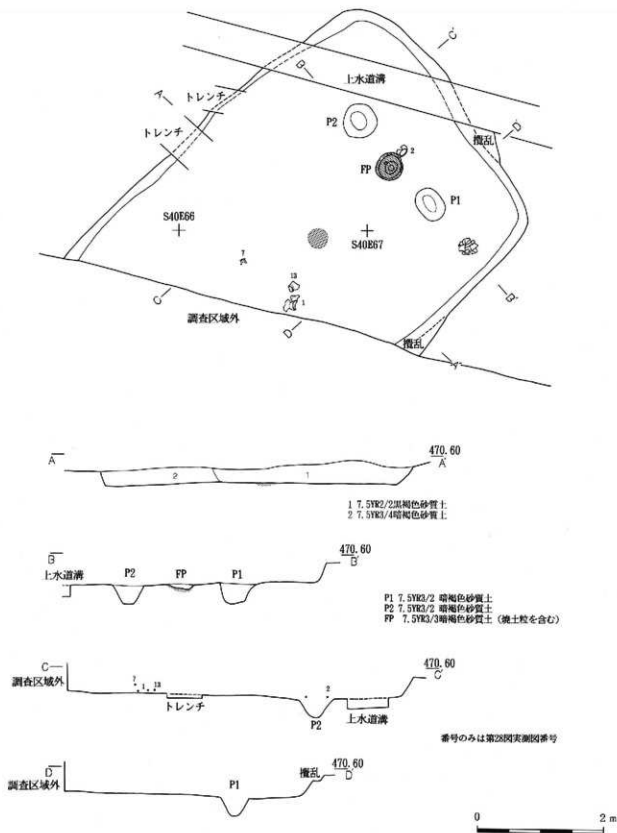
FP 7.5YR2/2黒褐色砂質土（焼土粒を含む）



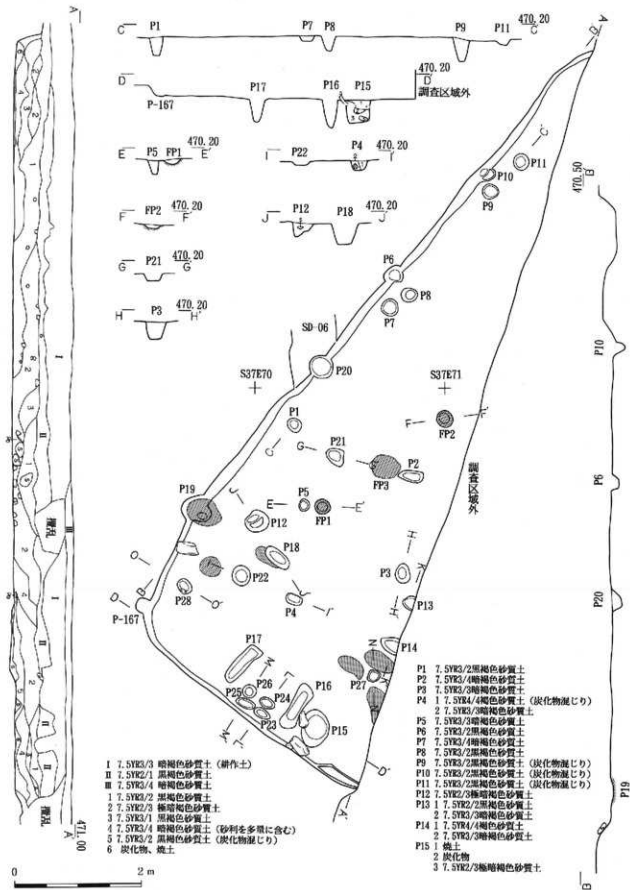
遺物出土状況



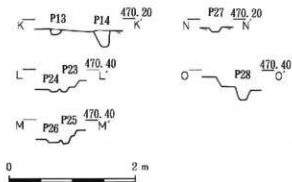
第9図 SB-84実測図(2)



第10図 SB-85実測図



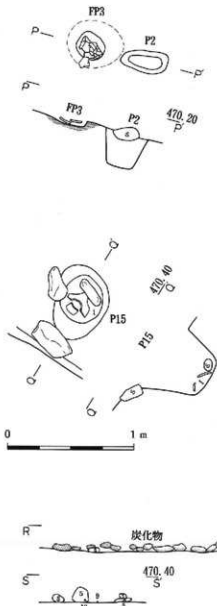
第11図 SB-86実測図(1)



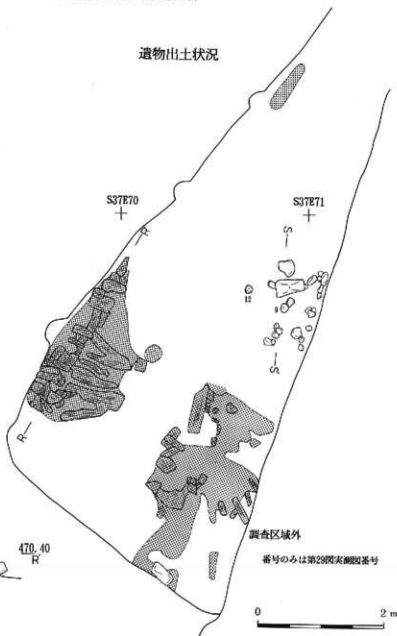
- P16 7.5YR3/2黒褐色砂質土 (炭化物混じり)
- P17 7.5YR3/2黒褐色砂質土 (炭化物混じり)
- P18 7.5YR3/2黒褐色砂質土 (炭化物混じり)
- P19 7.5YR3/2黒褐色砂質土 (炭化物混じり)
- P20 7.5YR3/2黒褐色砂質土
- P21 7.5YR3/2黒褐色砂質土
- P22 7.5YR3/2黒褐色砂質土 (炭化物混じり)
- P23 7.5YR3/2黒褐色砂質土
- P24 7.5YR3/2黒褐色砂質土
- P25 7.5YR3/2黒褐色砂質土
- P26 7.5YR3/2黒褐色砂質土 (炭化物混じり)
- P27 7.5YR3/2黒褐色砂質土 (炭化物混じり)
- P28 7.5YR3/2黒褐色砂質土 (炭化物混じり)

- FP1 7.5YR2/2黒褐色砂質土 (炭化物混じり)
- FP2 7.5YR3/4暗褐色砂質土 (黄土、炭化物混じり)
- FP3 7.5YR3/4暗褐色砂質土 (黄土、炭化物混じり)

が実測図



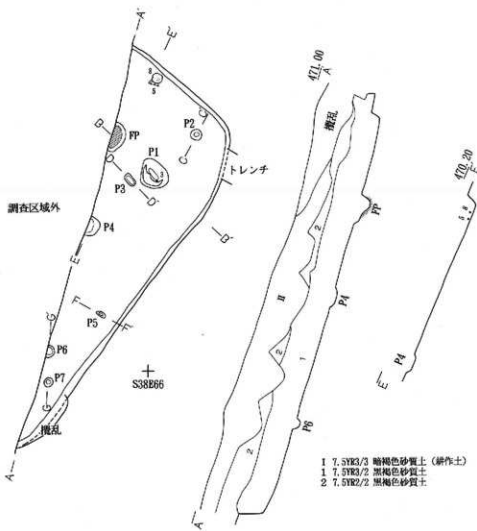
遺物出土状況



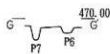
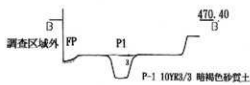
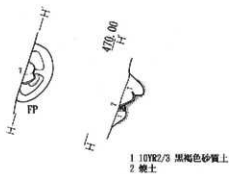
番号のみは第29図実測図番号

第11図 SB-86実測図(2)





が実測図



番号のみは第31図実測図番号

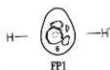


第13図 SB-88実測図





炉実測図



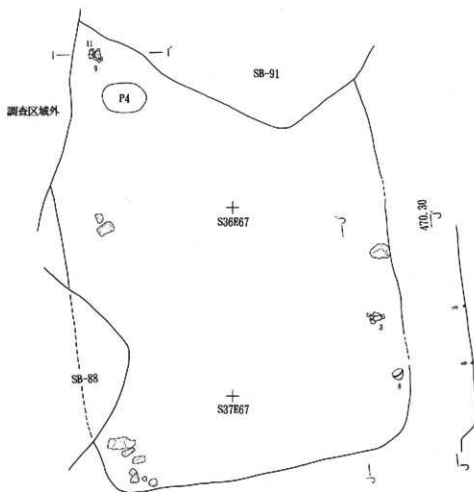
FP1



10YR2/3 黒褐色砂質土

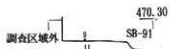


遺物出土状況

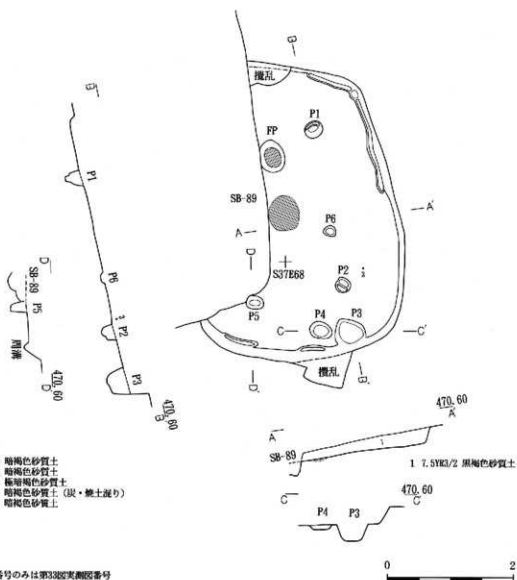


470.30

番号のみは第32期実測図番号



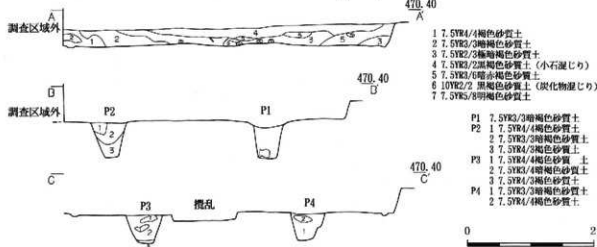
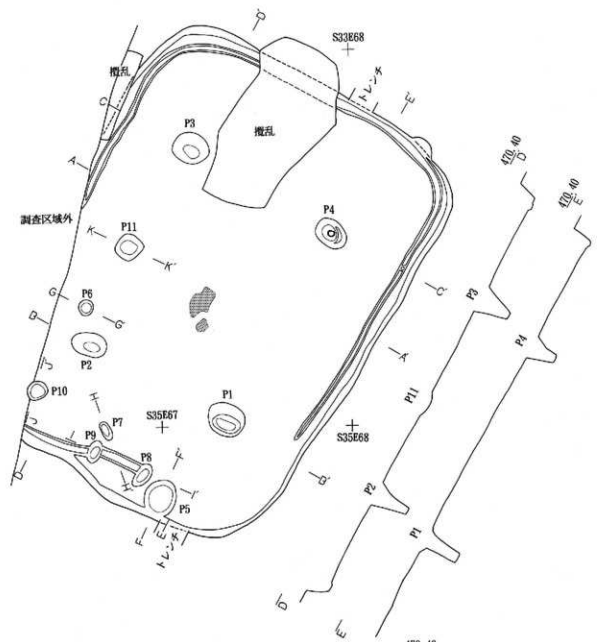
第14図 SB-89実測図(2)



が実測図



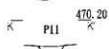
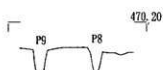
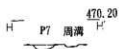
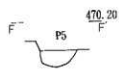
第15図 SB-90実測図



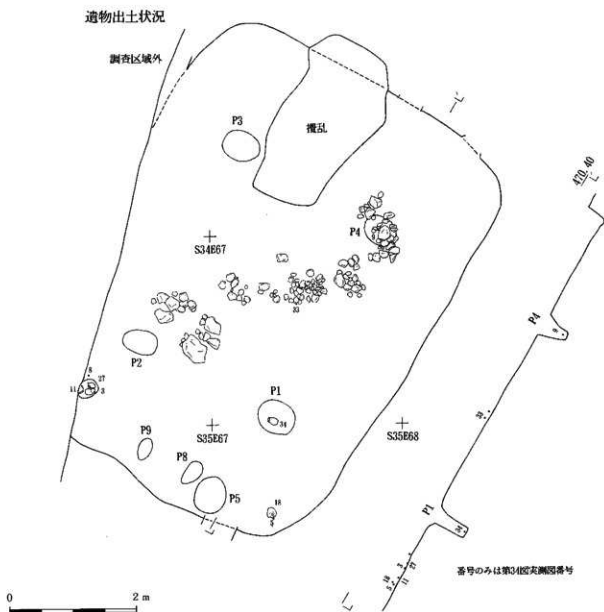
- 1 7.5YR4/4褐色砂質土
  - 2 7.5YR3/3暗褐色砂質土
  - 3 7.5YR2/3暗褐色砂質土 (小石混じり)
  - 4 7.5YR4/3褐色砂質土
  - 5 7.5YR3/6暗赤褐色砂質土
  - 6 10YR2/2 黒褐色砂質土 (炭化物混じり)
  - 7 7.5YR3/8明褐色砂質土
- P1 7.5YR3/3暗褐色砂質土
  - P2 1 7.5YR4/4褐色砂質土  
2 7.5YR3/3暗褐色砂質土  
3 7.5YR4/3褐色砂質土
  - P3 1 7.5YR4/4褐色砂質土  
2 7.5YR3/4暗褐色砂質土  
3 7.5YR4/3褐色砂質土
  - P4 1 7.5YR3/3暗褐色砂質土  
2 7.5YR4/4褐色砂質土



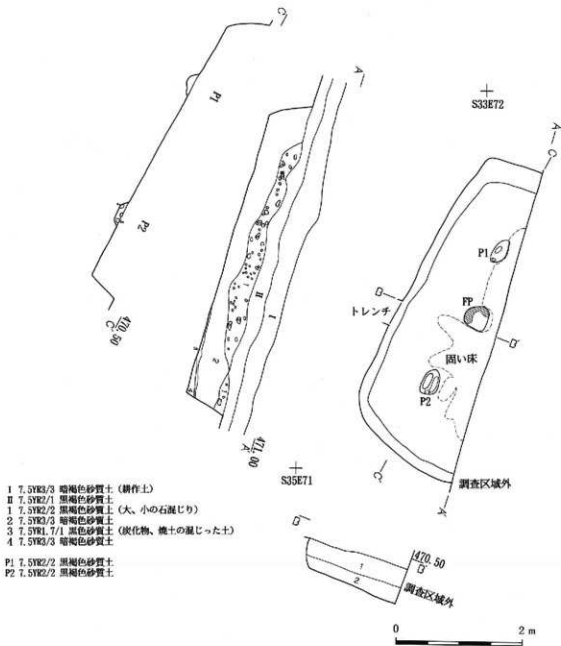
第16図 SB-91実測図(1)



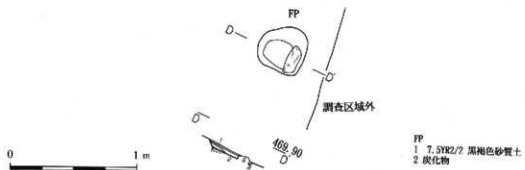
- P5 7.5YR3/3暗褐色砂質土
- P6 7.5YR3/3暗褐色砂質土
- P7 7.5YR3/3暗褐色砂質土
- P8 7.5YR3/3暗褐色砂質土
- P9 7.5YR3/3暗褐色砂質土
- P10 7.5YR3/3暗褐色砂質土
- P11 7.5YR2/2黒褐色砂質土



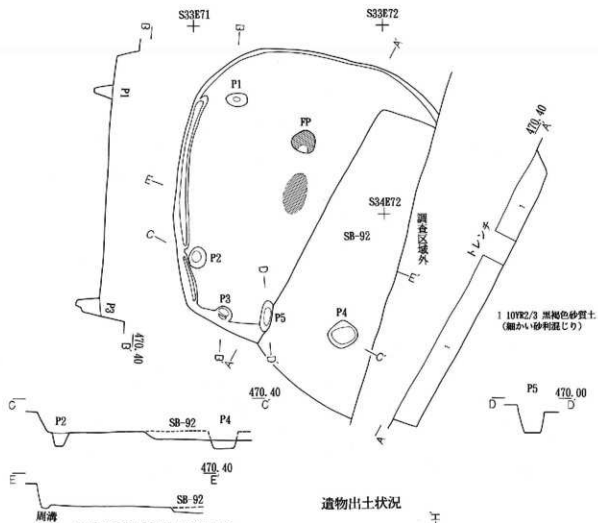
第16図 SB-91実測図(2)



炉実測図

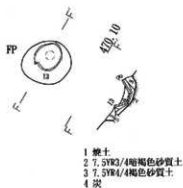


第17図 SB-92実測図

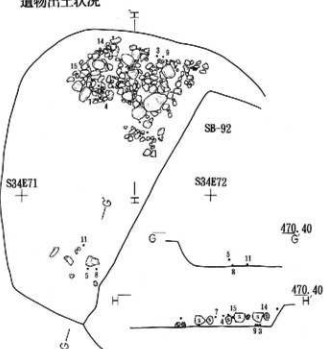


- P-1 7.5YR3/2 黒褐色砂質土 (皮混じり)  
 P-2 7.5YR3/2 黒褐色砂質土  
 P-3 7.5YR2/2 黒褐色砂質土  
 P-4 7.5YR2/3 黒褐色砂質土

炉実測図



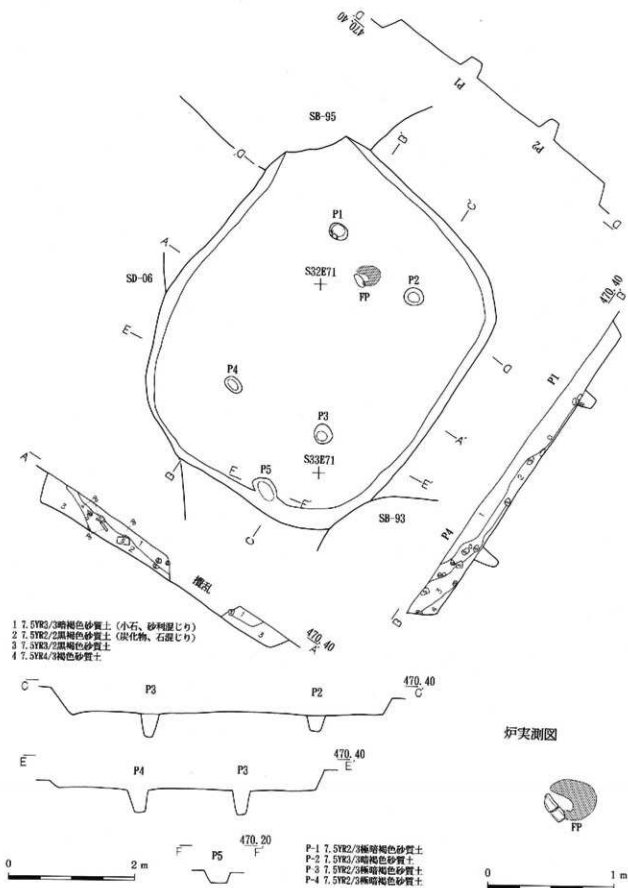
遺物出土状況



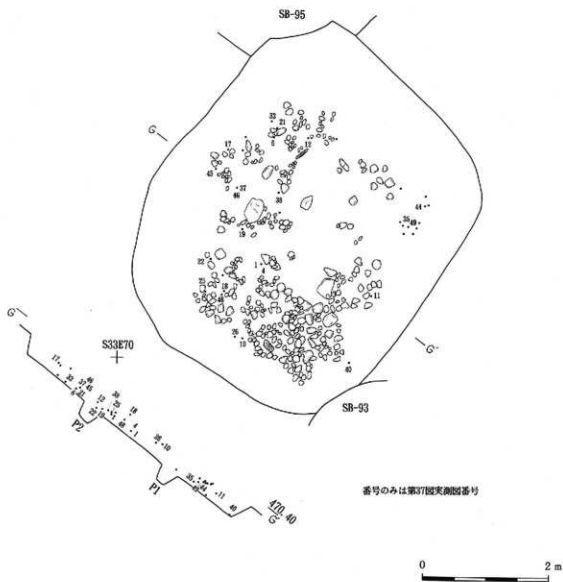
番号のみは第36図実測図番号



第18図 SB-93実測図

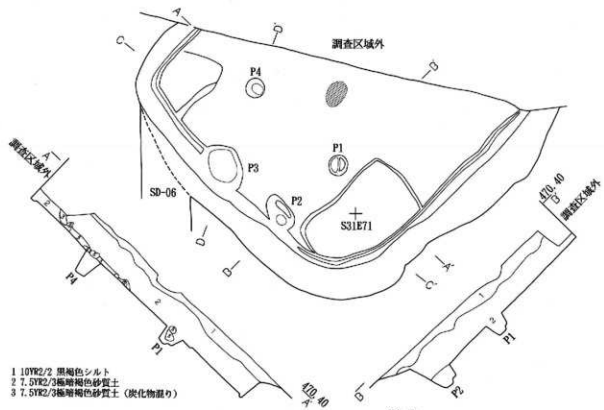


遺物出土状況

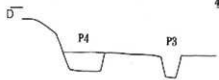


第19図 SB-94実測図(2)





- 1 10YR2/2 黒褐色シルト
- 2 7.5YR2/3 極暗褐色砂質土
- 3 7.5YR2/3 極暗褐色砂質土 (炭化物混り)



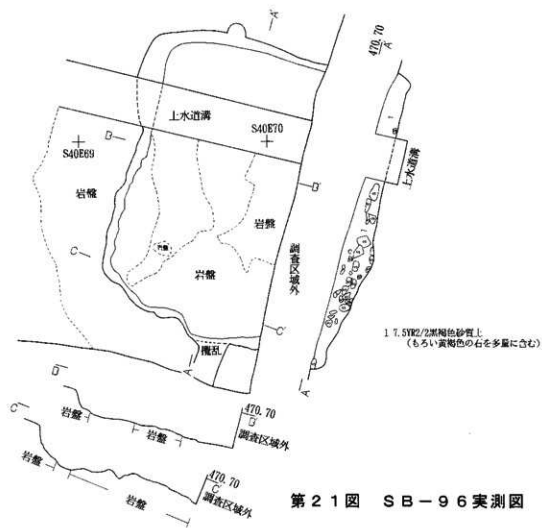
- P1 7.5YR2/3 極暗褐色砂質土  
 P2 7.5YR2/2 黒褐色砂質土  
 P3 7.5YR2/3 極暗褐色砂質土  
 P4 7.5YR2/3 極暗褐色砂質土

番号のみは第388号実測図番号

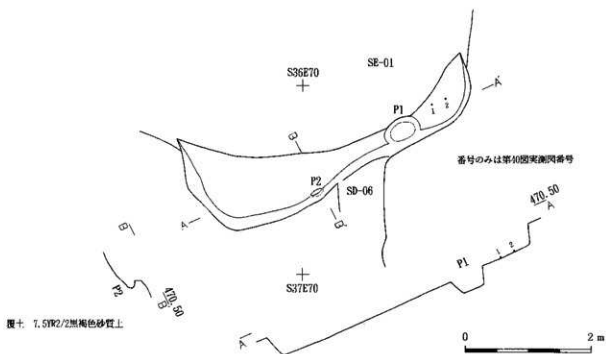
遺物出土状況



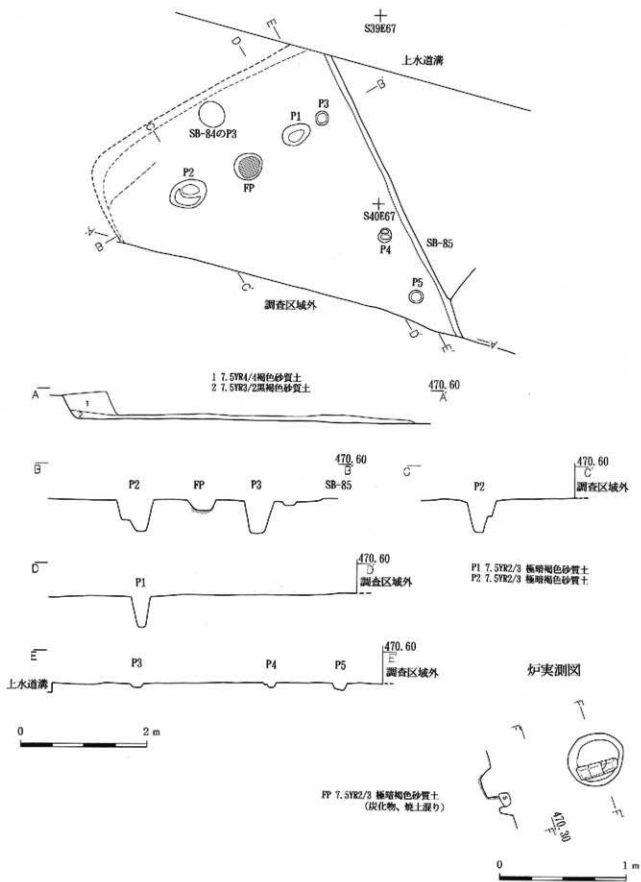
第20図 SB-95実測図



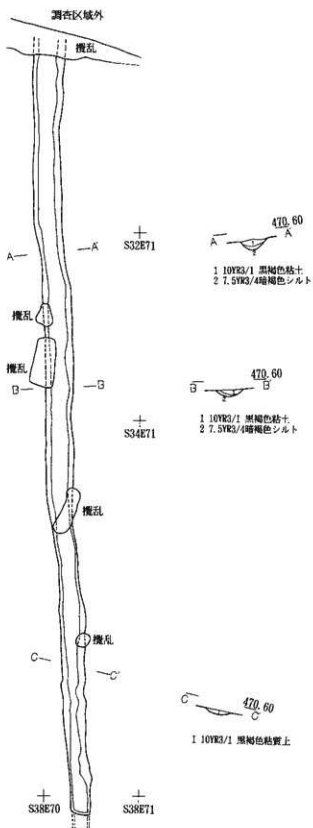
第 21 図 SB-96 実測図



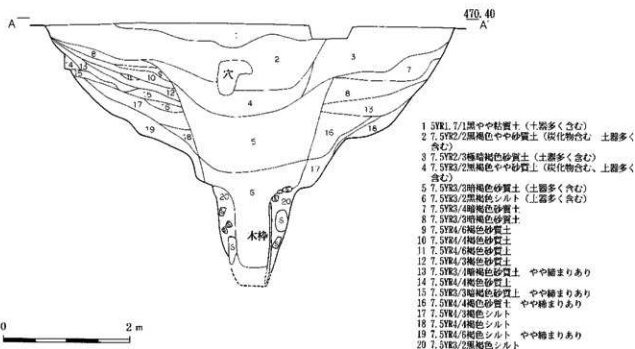
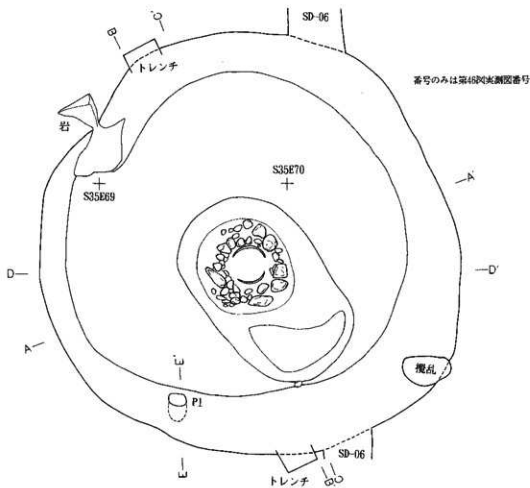
第 22 図 SB-97 実測図



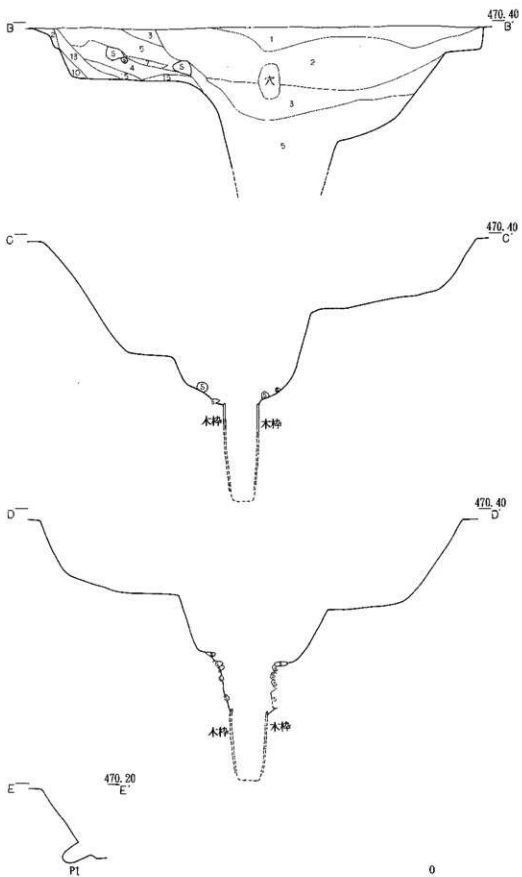
第 2 3 図 SB-98 実測図



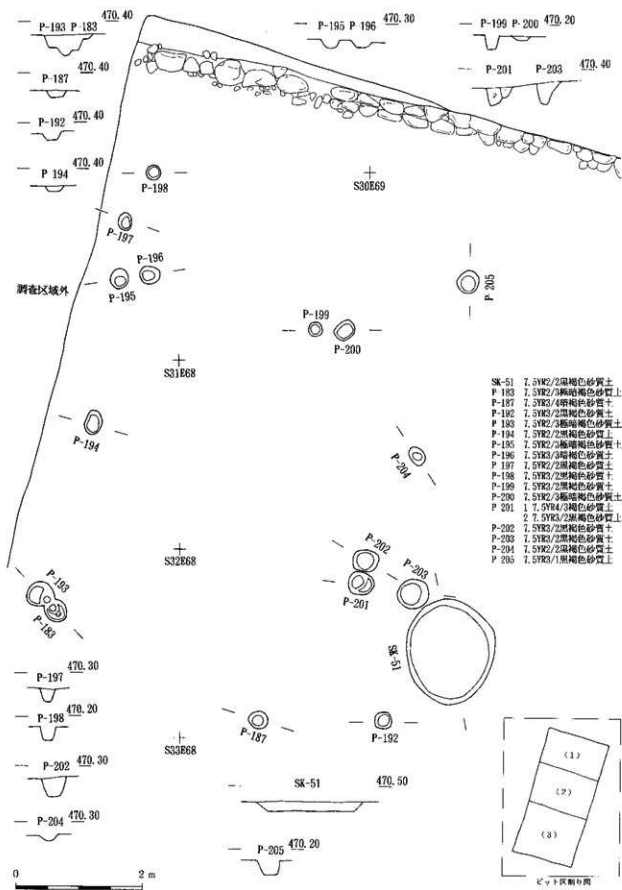
第 2 4 図 SD - 0 6 実測図



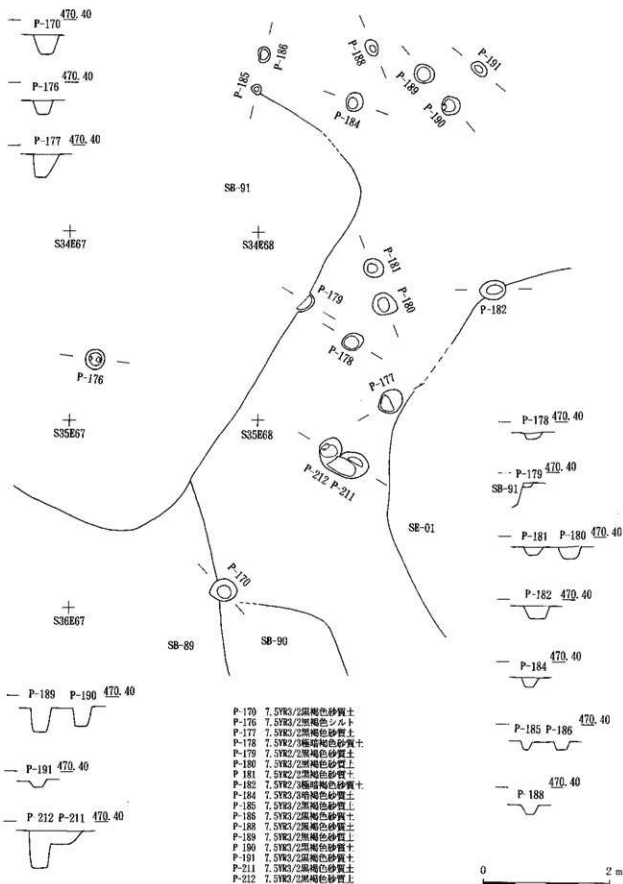
第25図 SE-01実測図(1)



第25図 SE-01実測図(2)

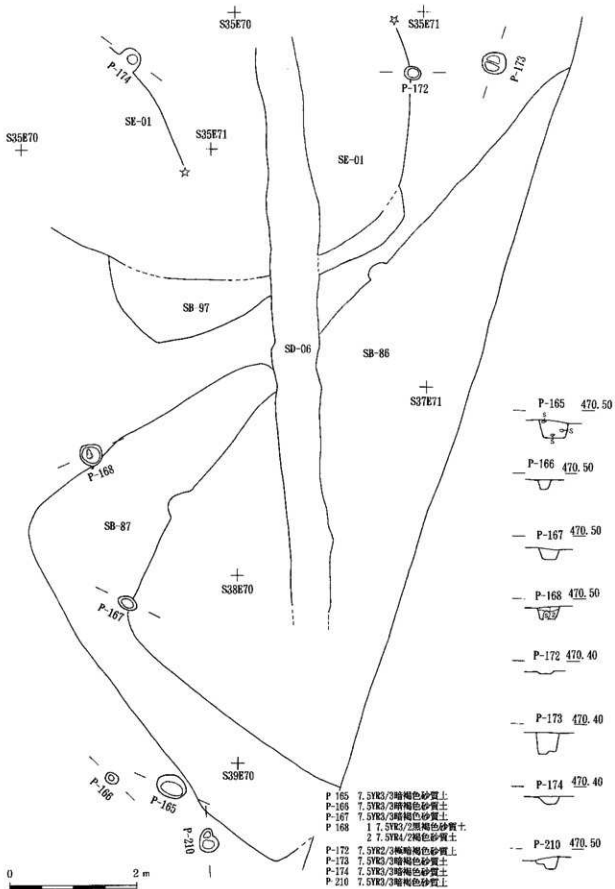


第26図 SK・ピット実測図(1)



第26図 SK・ピット実測図(2)





第26図 SK・ピット実測図(3)

第84号住居跡 遺構実測図(第9図) 遺物実測図(第27図)

位	グリッド	S38E66, S39E66, S39E67, S40E66, S40E67, S41E66, S41E67	そ	柱	P1 (0.38×0.30×0.24) P2(0.40×0.38×0.28) P3 (0.44×0.44×0.42) P4(0.48×0.42×0.18) P5 (0.18×0.14×0.12)
置	標高	470.00~470.10	の	位置	北西側の主柱穴間 規模 0.40×0.40×0.14
規	規模	?×5.45	床面積	不明	
横	壁高	東北壁0.30 西南壁0.26	他	炉	覆土 7.5YR2/2黒褐色砂質土(焼土粒を含む) 形態 土器の底部が入っている
覆	土	1 10YR3/4 暗褐色砂質土 2 7.5YR3/2黒褐色砂質土 3 7.5YR2/2黒褐色砂質土(炭化物を多量に含む)	備	西と南側一部は調査区域外 上水道溝に床の一部が破壊される SB-85と重複し、SB-88に切られ、SB-98を切る 炭化した榎木出土、角礫が集中出土	
形	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-35°-W	
態	その他		考		

第85号住居跡 遺構実測図(第10図) 遺物実測図(第28図)

位	グリッド	S39E67, S39E68, S40E66, S40E67, S40E68, S41E66, S41E67, S41E68	そ	柱	P1(0.54×0.40×0.36) P2(0.56×0.54×0.32)
置	標高	470.10~470.15	の	位置	北東主柱穴の間 規模 0.44×0.41×0.08
規	規模	?×48.5	床面積	不明	
横	壁高	北東壁0.34 北西壁0.24	他	炉	覆土 7.5YR3/3暗褐色砂質土(焼土粒を含む) 形態 浅い掘り窪み
覆	土	1 7.5YR2/2黒褐色砂質土 2 7.5YR3/4暗褐色砂質土	備	南側は調査区域外 上水道溝に床の一部が破壊されている SB-84と重複し、SB-98を切る	
形	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-50°-E	
態	その他		考		

第86号住居跡 遺構実測図(第11図) 遺物実測図(第29図)

位	グリッド	S36E72, S37E71, S37E72, S38E70, S38E71, S38E72, S39E70, S39E71, S40E71	そ	柱	P1 (0.24×0.24×0.30) P2(0.40×0.16×0.30) P3 (0.30×0.26×0.28) P4(0.27×0.16×0.15) P5 (0.18×0.15×0.22) P6(0.32×0.28×0.15) P7 (0.28×0.26×0.10) P8(0.26×0.22×0.22) P9 (0.26×0.23×0.38) P10(0.25×0.23×0.23) P11(0.26×0.23×0.08) P12(0.40×0.37×0.23) P13(?×0.20×0.08) P14(?×0.25×0.27) P15(0.60×0.45×0.38) P16(0.78×0.26×0.45) P17(0.72×0.22×0.40) P18(0.44×0.21×0.33) P19(0.50×0.48×0.08) P20(0.38×0.36×0.15) P21(0.28×0.28×0.10) P22(0.30×0.30×0.07) P23(0.28×0.13×0.07) P24(0.26×0.13×0.06) P25(0.32×0.12×0.13) P26(0.23×0.22×0.06) P27(0.20×0.18×0.06) P28(0.28×0.18×0.20)
置	標高	469.80~470.15	の	位置	南西からFP1, FP3, FP2
規	規模	11.7×?	床面積	不明	
横	壁高	北壁0.30 南壁0.12	他	炉	規模 FP1(0.25×0.24×0.08) FP2(0.30×0.26×0.06) FP3(0.44×0.38×0.06) 覆土 FP1 7.5YR2/2黒褐色砂質土(炭化物混り) FP2, FP3 7.5YR3/4暗褐色砂質土(焼土、炭化物混り)
覆	土	1 7.5YR3/2黒褐色砂質土 2 7.5YR2/3暗褐色砂質土 3 7.5YR3/1黒褐色砂質土 4 7.5YR3/4暗褐色砂質土(砂利を多量に含む) 5 7.5YR3/2黒褐色砂質土(炭化物を含む) 6 炭化物、焼土	備	東側は調査区域外 SB-87を切る 炭化した榎木が多量に出土 角礫が集中出土	
形	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-45°-E	
態	その他		考	形態 FP1, 2, 3とも浅い掘り窪み FP3は土器が付着	

第3表 竪穴住居址観察表(1)

第87号住居跡 遺構実測図(第12図) 遺物実測図(第30図)

位	グリッド	S37E70, S37E71, S38E70, S38E71, S39E70, S39E71, S40E70, S40E71		そ	柱	P1(0.28×0.25×0.28) P2(0.38×0.28×0.31)			
置	標高	470.10~470.16				P3(0.38×0.25×0.20) P4(0.25×0.24×0.25)			
規	規模	6.90×4.80	床面積	不明	の	位置	北西主柱穴の間	規模	0.35×0.35×0.09
模	壁高	北西壁0.25	南西壁0.16				の	覆土	7.5YR2/2黒褐色砂質土(炭化物、焼土含む)
覆	土	7.5YR3/2黒褐色砂質土			他	形態			浅い掘り窪み
形	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-35°-W			備	東側は調査区域外 SB-86 に切られる	
態	その他				考				

第88号住居跡 遺構実測図(第13図) 遺物実測図(第31図)

位	グリッド	S37E66, S37E67, S38E66, S38E67, S39E66		そ	柱	P1(0.52×0.42×0.37) P2(0.18×0.18×0.07)			
置	標高	469.80~469.85				P3(0.20×0.10×0.08) P4(0.22×?×0.06)			
規	規模	不明	床面積	不明	の	位置	北東の主柱穴の間	規模	0.50×?×0.30
模	壁高	南東壁0.40	北東壁0.20				の	覆土	10YR2/3 黒褐色砂質土
覆	土	1 7.5YR3/2黒褐色砂質土 2 7.5YR2/2黒褐色砂質土			他	形態			土器の底部が入っている
形	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-32°-E			備	西側は調査区域外 SB-84, SB-89 を切る	
態	その他				考				

第89号住居跡 遺構実測図(第14図) 遺物実測図(第32図)

位	グリッド	S36E67, S36E68, S37E67, S37E68		そ	柱	P1(0.56×0.36×0.42) P2(0.50×0.38×0.48)		
置	標高	469.92~469.95				P3(0.66×0.50×0.43) P4(0.70×0.48×0.48)		
規	規模	?×5.10	床面積	不明	の	位置	FP1 南西寄り FP2 中央やや東寄り FP3 北寄り	
模	壁高	東壁0.30	南壁0.22				の	規模
覆	土	7.5YR3/3暗褐色砂質土			他	覆土		
形	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-15°-W			備	形態
態	その他				考	西側一部は調査区域外 SB-88, SB-91 に切られる 東壁、南壁、西壁の際に周溝が掘られている 他に浅い溝が2筋掘られている		

第90号住居跡 遺構実測図(第15図) 遺物実測図(第33図)

位	グリッド	S36E68, S37E68, S37E69, S38E68, S38E69		そ	柱	P1(0.30×0.28×0.26) P2(0.24×0.22×0.18)			
置	標高	470.08~470.12				P3(0.50×0.45×0.30) P4(0.27×0.25×0.08)			
規	規模	4.80×3.20	床面積	不明	の	位置	中央北寄り	規模	0.52×0.40×0.10
模	壁高	東壁0.25	北壁0.10				の	覆土	7.5YR2/3極暗褐色砂質土(焼土混り)
覆	土	7.5YR3/2黒褐色砂質土			他	形態			浅い掘り窪み、土器の破片が敷かれている
形	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-12°-W			備	SB-89 に切られる 北東コーナーと南壁際に周溝が掘られている	
態	その他				考				

第4表 竪穴住居址観察表(2)

第91号住居跡 遺構実測図(第16図) 遺物実測図(第34図)

位	グリッド	S33E68, S34E67, S34E68, S34E69, S35E67 S35E68, S36E67, S36E68	そ	柱	P1 (0.62×0.50×0.60) P2(0.56×0.40×0.56) P3 (0.60×0.48×0.51) P4(0.55×0.40×0.42) P5 (0.58×0.52×0.26) P6(0.24×0.24×0.06) P7 (0.32×0.16×0.09) P8(0.41×0.24×0.34) P9 (0.37×0.20×0.38) P10(0.34×0.30×0.24) P11(0.47×0.42×0.22)	
置	標高	469.75~469.85	の	穴		
規	規模	7.50×5.40	床面積	推定36.0		
横	壁高	東壁0.38 北壁0.32	不明	規模		
覆	土	1 7.5YR4/4褐色砂質土 2 7.5YR3/3暗褐色砂質土 3 7.5YR2/3暗褐色砂質土 4 7.5YR3/2黒褐色砂質土 (小石混り) 5 7.5YR3/6暗赤褐色砂質土 6 10YR2/2 黒褐色砂質土 (炭化物混り) 7 7.5YR5/8暗褐色砂質土	他	炉	覆土 形態	
形	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-28°-E	備	南西隅は調査区域外 北東部、北西部の一部横品を受けている SB-93 を切る 北西壁から北東壁、南東壁及び南西壁の際に周溝が掘られている
態	その他		考			

第92号住居跡 遺構実測図(第17図) 遺物実測図(第35図)

位	グリッド	S34E72, S34E73, S35E72, S35E73	そ	柱	P1 (0.43×0.20×0.12) P2(0.42×0.26×0.10)	
置	標高	469.75~469.80	の	穴		
規	規模	?×5.00	床面積	不明		
横	壁高	北東壁0.62 北西壁0.40	不明	規模	0.40×0.38×0.07	
覆	土	1 7.5YR2/2黒褐色砂質土 (大小の石混り) 2 7.5YR3/3暗褐色砂質土 3 7.5YR1/7黒炭化物、黄土の混った土 4 7.5YR3/3暗褐色砂質土	他	炉	覆土 1 7.5YR2/2黒褐色砂質土 2 炭化物 形態 浅い掘り窪み 炉縁石が配される	
形	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-62°-W	備	東側は調査区域外 SB-93 を切る
態	その他		考			

第93号住居跡 遺構実測図(第18図) 遺物実測図(第36図)

位	グリッド	S34E71, S34E72, S34E73, S35E71, S35E72	そ	柱	P1 (0.34×0.20×0.30) P2(0.34×0.26×0.21) P3 (0.28×0.20×0.38) P4(0.42×0.40×0.32) P5 (0.50×0.20×0.32)	
置	標高	469.85~469.88	の	穴		
規	規模	4.80×3.10	床面積	不明		
横	壁高	北壁0.40 西壁0.36	不明	規模	0.40×0.36×0.10	
覆	土	10YR2/3 黒褐色砂質土 (細かい砂利混り)	他	炉	覆土 1 焼土 2 7.5YR3/4暗褐色砂質土 3 7.5YR4/4褐色砂質土 4 炭 形態 浅い掘り窪み 土器の底部が掘えられる	
形	平面形態	隅丸(長)方形	主軸方位	N-10°-E	備	SB-92 に切られる SB-94 と重複する 暗渠等に準、床面を部分的に據されている 北側の床上に角礫が集中出土
態	その他		考			

第94号住居跡 遺構実測図(第19図) 遺物実測図(第37図)

位	グリッド	S32E71, S32E72, S33E71, S33E72, S34E71 S34E72	そ	柱	P1 (0.30×0.27×0.21) P2(0.30×0.28×0.27) P3 (0.31×0.29×0.39) P4(0.30×0.20×0.35) P5 (0.46×0.30×0.20)	
置	標高	469.80~469.92	の	穴		
規	規模	5.50×4.70	床面積	推定20.4		
横	壁高	南西壁0.42 北東壁0.26	不明	規模	0.40×0.35	
覆	土	1 7.5YR3/3暗褐色砂質土 (小石、砂利混り) 2 7.5YR2/2黒褐色砂質土 (炭化物、石混り) 3 7.5YR2/2黒褐色砂質土 4 7.5YR4/3褐色砂質土	他	炉	覆土 形態 掘り窪みはほとんどない 炉縁石が配される	
形	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-34°-E	備	SB-93, SB-95 と重複 SB-06 に切られる 中央部の覆土を攪乱により失う 床上に土器と多量の角礫出土
態	その他		考			

第5表 竪穴住居址観察表(3)

第95号住居跡 遺構実測図(第20図) 遺物実測図(第38図)

位置	グリッド	S31E70, S31E71, S32E71, S32E72			その他	柱穴	P1 (0.34×0.30×0.27) P2 (0.60×0.38×0.27) P3 (0.80×0.60×0.38) P4 (0.32×0.30×0.35)		
標高	469.64~469.68			の			位置	不明	
規模	規模	5.30×?	床面積		不明	他		覆土	
模	壁高	南西壁0.55 南東壁0.40			備		形態		
覆土	1 10YR2/2 黒褐色シルト 2 7.5YR2/3 暗褐色砂質土 3 7.5YR2/3 暗褐色砂質土(炭化物混り)					考		北側部分は調査区域外 SD-06 に切られる 壁際に周溝が通っている 南西コーナー近くの床上に角礫が集中出土	
形	平面形態	隅丸(長)方形	主軸方位	N-44°-E					
態	その他								

第96号住居跡 遺構実測図(第21図) 遺物実測図(第39図)

位置	グリッド	S40E70, S40E71, S41E71, S42E70			その他	柱穴	不明		
標高	470.05~470.30			の			位置	不明	
規模	規模	4.80×?	床面積		不明	他		覆土	
模	壁高	西壁0.42 北壁0.24			備		形態		
覆土	7.5YR2/2 黒褐色砂質土(もろい黄褐色の石を多量に含む)					考		東側調査区域外 上水道溝に切られる 南側は岩盤を掘り窪んで作られている	
形	平面形態	隅丸(長)方形	主軸方位	N-15°-E					
態	その他								

第97号住居跡 遺構実測図(第22図) 遺物実測図(第40図)

位置	グリッド	S36E71, S37E70, S37E71			その他	柱穴	P1 (0.60×0.40×0.25) P2 (0.20×0.13×0.18)		
標高	469.92~469.96			の			位置		
規模	規模	?	4.80		床面積	不明		他	覆土
模	壁高	南壁0.36 北壁0.33			備	形態			
覆土	7.5YR2/2 黒褐色砂質土						考	SE-01, SD-06 に切られる	
形	平面形態	隅丸(長)方形	主軸方位	N-25°-W					
態	その他								

第98号住居跡 遺構実測図(第23図) 遺物実測図(第41図)

位置	グリッド	S40E66, S40E67, S40E68, S41E66, S41E67 S41E68			その他	柱穴	P1 (0.48×0.33×0.50) P2 (0.62×0.44×0.50) P3 (0.22×0.20×0.06) P4 (0.23×0.20×0.06) P5 (0.22×0.20×0.10)		
標高	470.06~470.10			の			位置	北側の主柱穴間 規模 0.44×0.42×0.14	
規模	規模	不明	床面積		不明	他		覆土	7.5YR2/3 暗褐色砂質土(炭、黄土混り)
模	壁高	東壁0.40			備		形態		掘り窪み 炉縁石が配される
覆土	1 7.5YR4/4 褐色砂質土 2 7.5YR3/2 黒褐色砂質土					考		南側は調査区域外 SB-84, SB-85 に切られる	
形	平面形態	隅丸(長)方形	主軸方位	N-30°-W					
態	その他								

(規模の単位はmで最大値を示している)

第6表 竪穴住居址観察表(4)

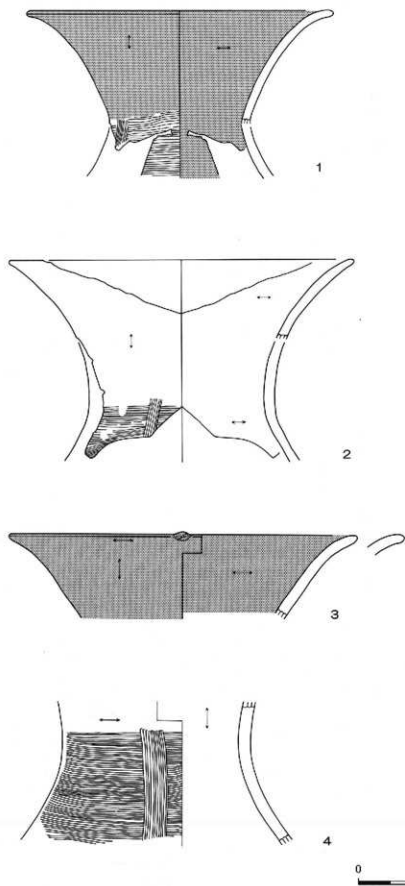
第1号井戸跡 遺構実測図(第25図) 遺物実測図(第43,46図)

位置	グリッド	S35E69, S35E70, S35E71, S36E69, S36E70, S36E71, S37E69, S37E70, S37E71		
	標高	466.10 (井戸の底)		
規模	長径 6.9	短径 6.7	深さ 4.2	木枠内径 上部 0.5 下部 0.45
形態	全体 漏斗状 井戸部 筒状			
覆土	1 5YR1.7/1黒 やや粘質土(土器多く含む) 2 7.5YR2/2黒褐色 やや砂質土(炭化物含む 土器多く含む) 3 7.5YR2/3極暗褐色 砂質土(土器多く含む) 4 7.5YR3/2黒褐色 やや砂質土(炭化物含む、土器多く含む) 5 7.5YR3/3暗褐色 砂質土(土器多く含む) 6 7.5YR3/2黒褐色 シルト(土器多く含む) 7 7.5YR3/4暗褐色 砂質土 8 7.5YR3/3暗褐色 砂質土 9 7.5YR4/6褐色 砂質土 10 7.5YR4/4褐色 砂質土 11 7.5YR4/6褐色 砂質土 12 7.5YR4/3褐色 砂質土 13 7.5YR3/4暗褐色 砂質土 やや締まりあり 14 7.5YR4/4褐色 砂質土 15 7.5YR3/3暗褐色 砂質土 やや締まりあり 16 7.5YR4/4褐色 砂質土 やや締まりあり 17 7.5YR4/3褐色 シルト 18 7.5YR4/4褐色 シルト 19 7.5YR4/6褐色 シルト やや締まりあり 20 7.5YR3/2黒褐色 シルト			
備考	SB-97 を切り、SD-06 に切られる			

第7表 井戸観察表

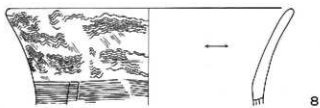
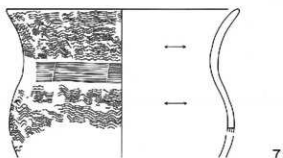
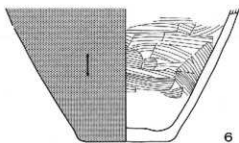
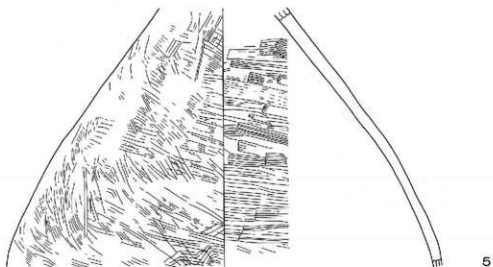
遺構No.	層No.	長軸	短軸	深さ	覆	土	遺	物	等
SK-51	26-1	1.68	1.40	0.16	7.5YR2/2黒褐色砂質土				
P-165	26-3	0.48	0.37	0.30	7.5YR3/3暗褐色砂質土				
P-166	26-3	0.20	0.18	0.16	7.5YR3/3暗褐色砂質土				
P-167	26-3	0.32	0.22	0.20	7.5YR3/3暗褐色砂質土			土器片	
P-168	26-3	0.38	0.34	0.20	1 7.5YR3/2黒褐色砂質土 2 7.5YR4/2褐色砂質土				
P-170	26-2	0.38	0.38	0.30	7.5YR3/2黒褐色砂質土			壺、甕等の破片	
P-172	26-3	0.28	0.22	0.05	7.5YR2/3極暗褐色砂質土				
P-173	26-3	0.40	0.36	0.34	7.5YR3/3暗褐色砂質土				
P-174	26-3	0.40	0.36	0.12	7.5YR2/3極暗褐色砂質土				
P-176	26-2	0.33	0.30	0.22	7.5YR3/2黒褐色シルト			土器片	
P-177	26-2	0.40	0.35	0.36	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-178	26-2	0.32	0.28	0.10	7.5YR2/3極暗褐色砂質土				
P-179	26-2	0.33	?	0.07	7.5YR2/2黒褐色砂質土				
P-180	26-2	0.38	0.33	0.20	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-181	26-2	0.30	0.30	0.15	7.5YR2/2黒褐色砂質土				
P-182	26-2	0.42	0.32	0.19	7.5YR2/3極暗褐色砂質土				
P-183	26-1	0.38	0.38	0.08	7.5YR2/3極暗褐色砂質土				
P-184	26-2	0.28	0.26	0.13	7.5YR3/3暗褐色砂質土			土器片	
P-185	26-2	0.17	0.14	0.15	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-186	26-2	0.24	0.19	0.13	7.5YR3/2黒褐色砂質土			壺破片	
P-187	26-1	0.32	0.29	0.12	7.5YR3/4暗褐色砂質土				
P-188	26-2	0.25	0.18	0.16	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-189	26-2	0.32	0.32	0.37	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-190	26-2	0.32	0.31	0.30	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-191	26-2	0.28	0.18	0.10	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-192	26-1	0.26	0.24	0.12	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-193	26-1	0.40	0.40	0.32	7.5YR2/3極暗褐色砂質土				
P-194	26-1	0.38	0.25	0.10	7.5YR2/2黒褐色砂質土				
P-195	26-1	0.32	0.28	0.12	7.5YR2/3極暗褐色砂質土				
P-196	26-1	0.32	0.28	0.12	7.5YR3/3暗褐色砂質土				
P-197	26-1	0.30	0.20	0.21	7.5YR2/2黒褐色砂質土				
P-198	26-1	0.23	0.21	0.22	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-199	26-1	0.24	0.22	0.27	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-200	26-1	0.34	0.24	0.07	7.5YR2/3極暗褐色砂質土				
P-201	26-1	0.40	0.37	0.28	1 7.5YR4/3褐色砂質土 2 7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-202	26-1	0.42	0.33	0.30	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-203	26-1	0.50	0.48	0.34	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-204	26-1	0.32	0.21	0.10	7.5YR2/2黒褐色砂質土				
P-205	26-1	0.35	0.33	0.23	7.5YR3/1黒褐色砂質土				
P-210	26-3	0.38	0.30	0.20	7.5YR3/3暗褐色砂質土				
P-211	26-2	0.60	0.40	0.22	7.5YR3/2黒褐色砂質土				
P-212	26-2	0.40	0.30	0.60	7.5YR3/2黒褐色砂質土			壺、甕、高坏等の破片	軽石

第8表 土坑・ピット観察表



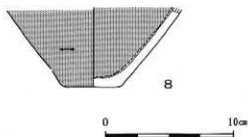
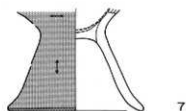
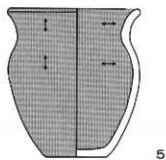
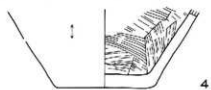
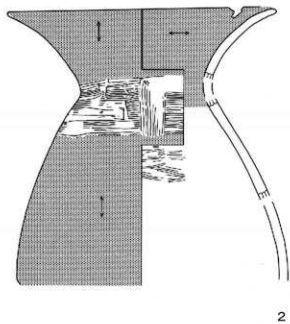
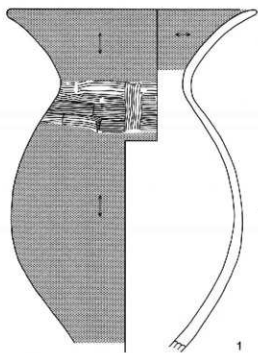
第27图 SB-84土器实测图(1)





0 10cm

第 27 图 SB-84 土器实测图 (2)



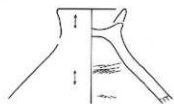
第28图 SB-85土器实测图(1)



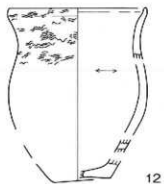
9



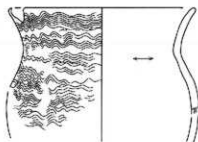
10



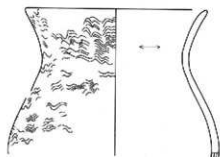
11



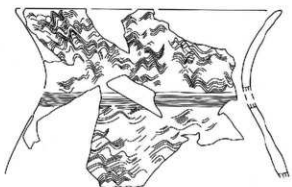
12



13



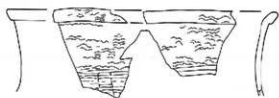
14



15



16



17



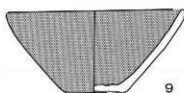
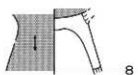
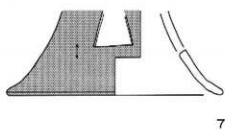
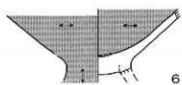
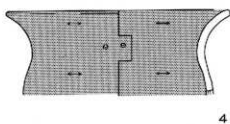
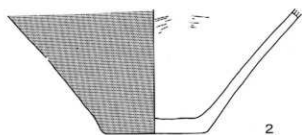
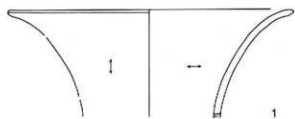
18



19



第28图 SB-85土器实测图(2)



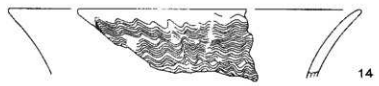
第 29 图 SB-86 土器实测图 (1)



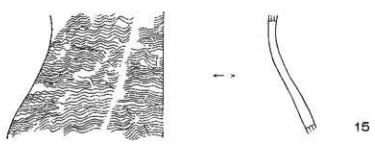
12



13



14



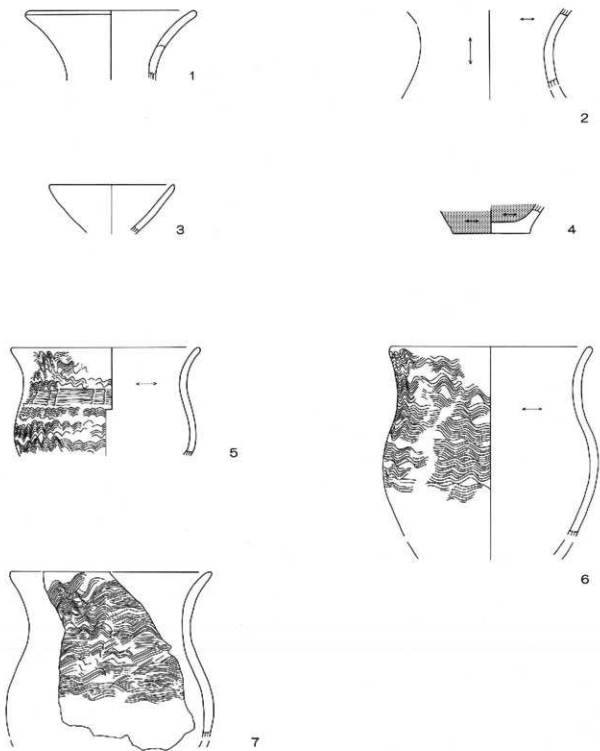
15



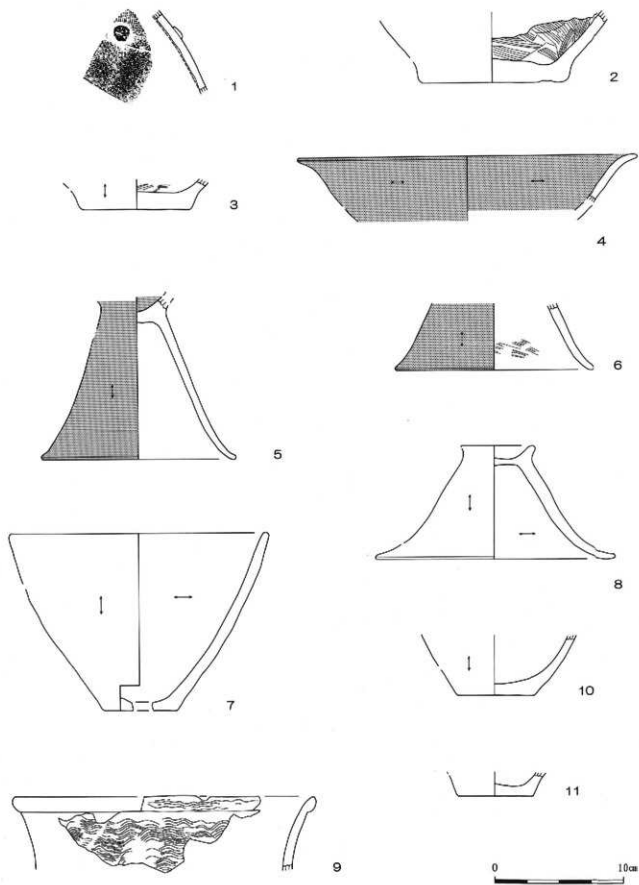
16



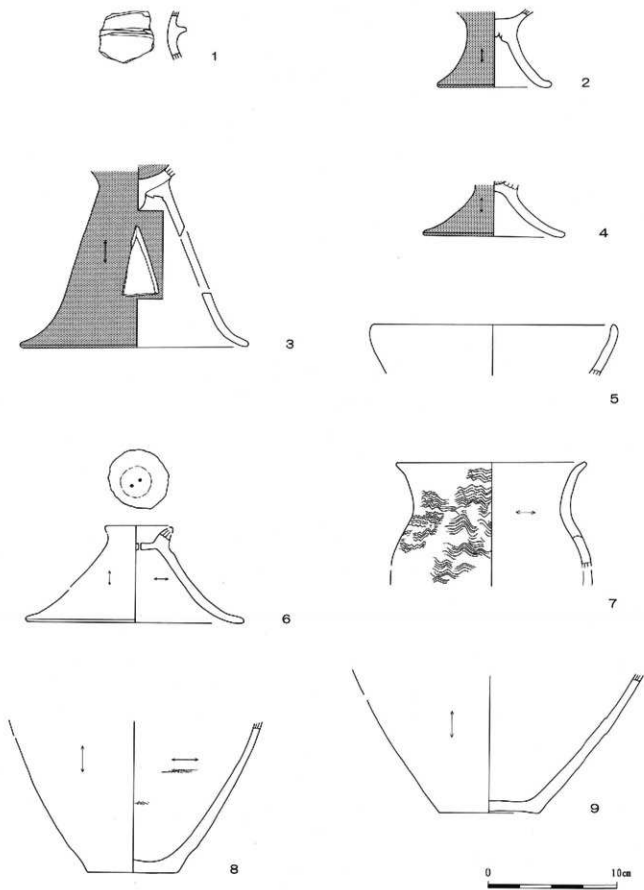
第29图 SB-86土器实测图(2)



第30图 SB-87 土器实测图



第31图 SB-88 土器实测图

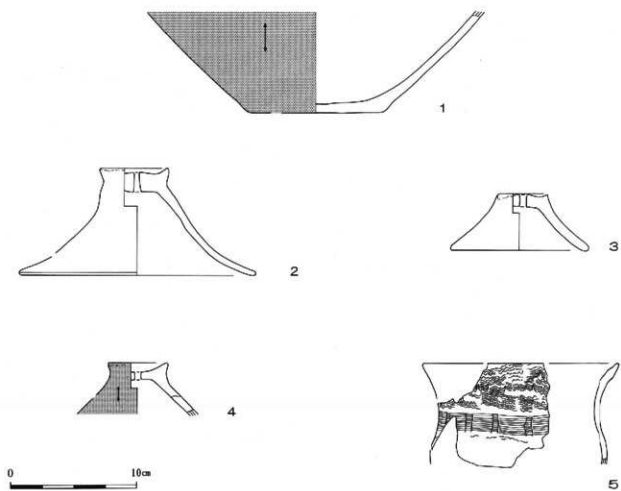


第32图 SB-89土器实测图(1)

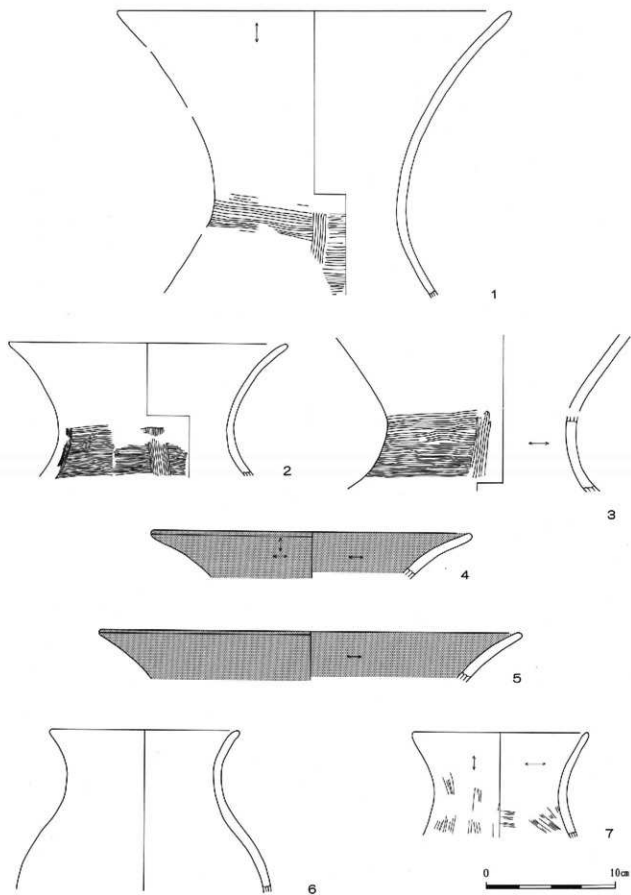




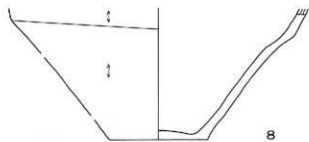
第 32 图 SB-89 土器实测图 (2)



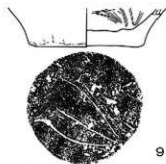
第 33 图 SB-90 土器实测图



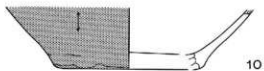
第34图 SB-91 土器实测图(1)



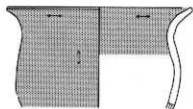
8



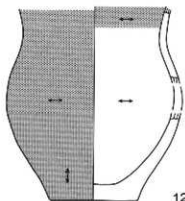
9



10



11



12



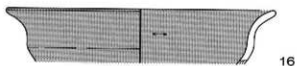
13



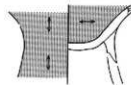
14



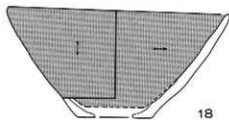
15



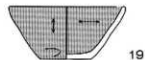
16



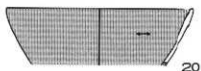
17



18



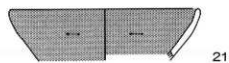
19



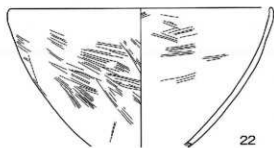
20



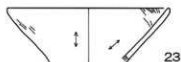
第34图 SB-91土器实测图(2)



21



22



23



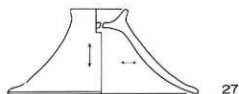
25



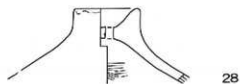
24



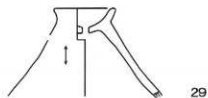
26



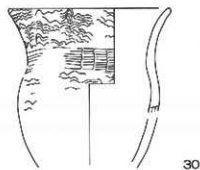
27



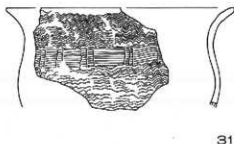
28



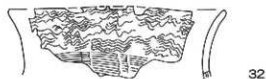
29



30



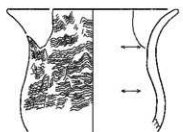
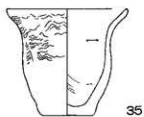
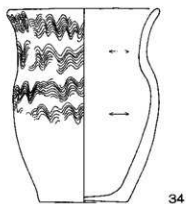
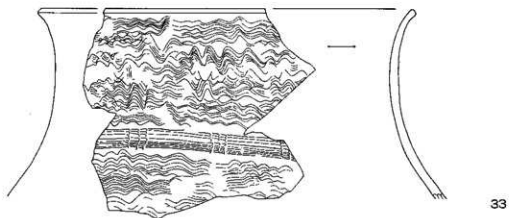
31



32



第34图 SB-91土器实测图(3)



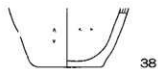
34

35

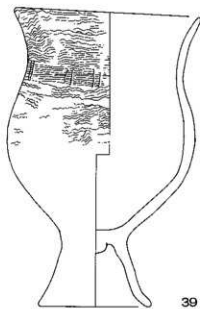
36



37



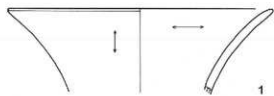
38



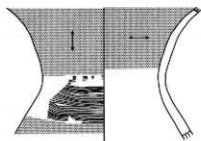
39



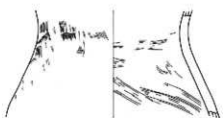
第34图 SB-91 土器实测图(4)



1



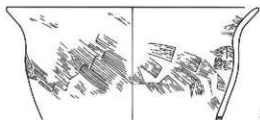
2



3



4



5



6



7



8



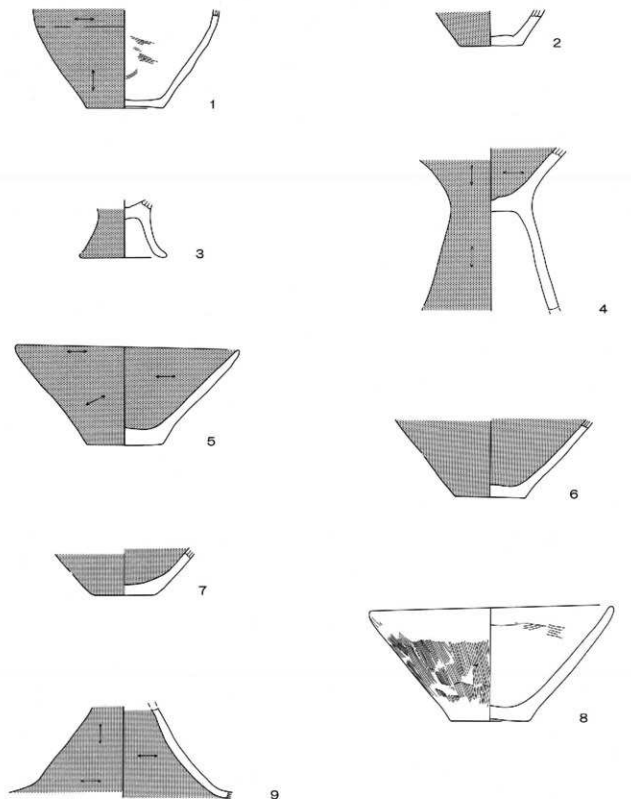
9



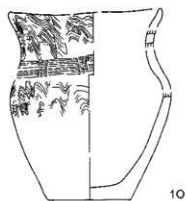
10



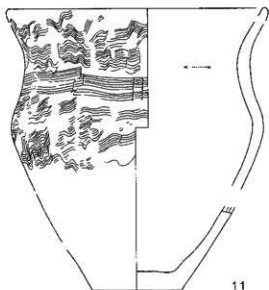
第35图 SB-92土器实测图



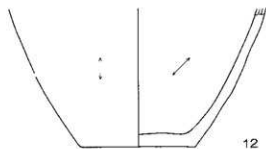
第36图 SB-93 土器实测图(1)



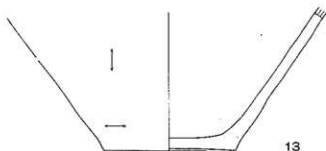
10



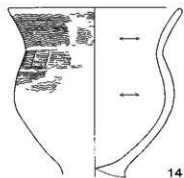
11



12



13



14

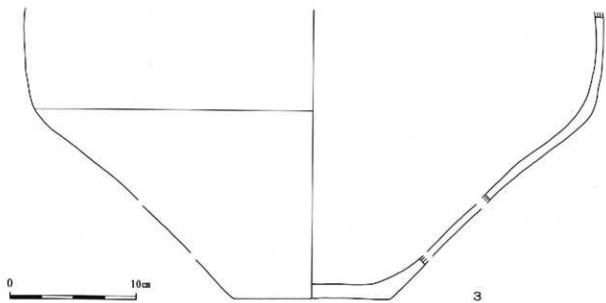
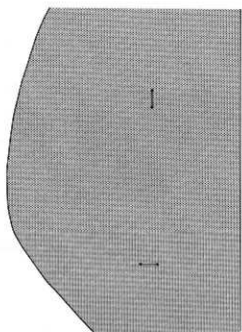
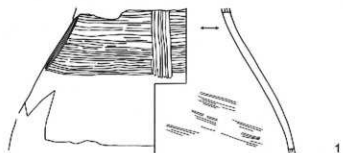


15

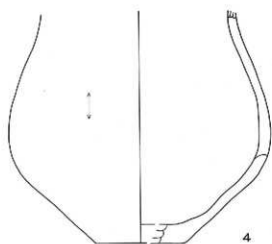


第36图 SB-93 土器实测图(2)

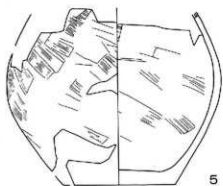




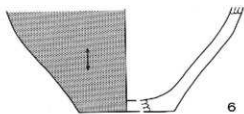
第37图 SB-94 土器实测图(1)



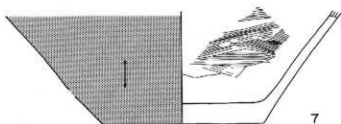
4



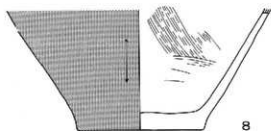
5



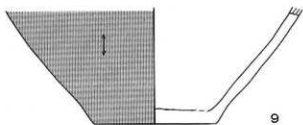
6



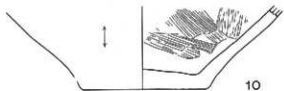
7



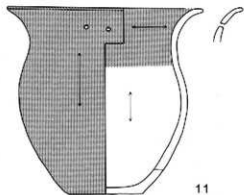
8



9



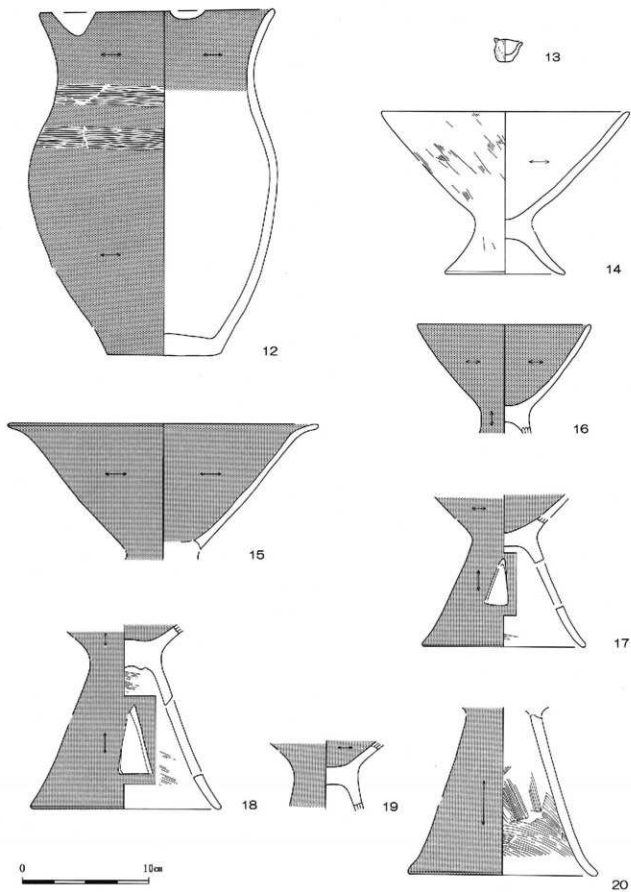
10



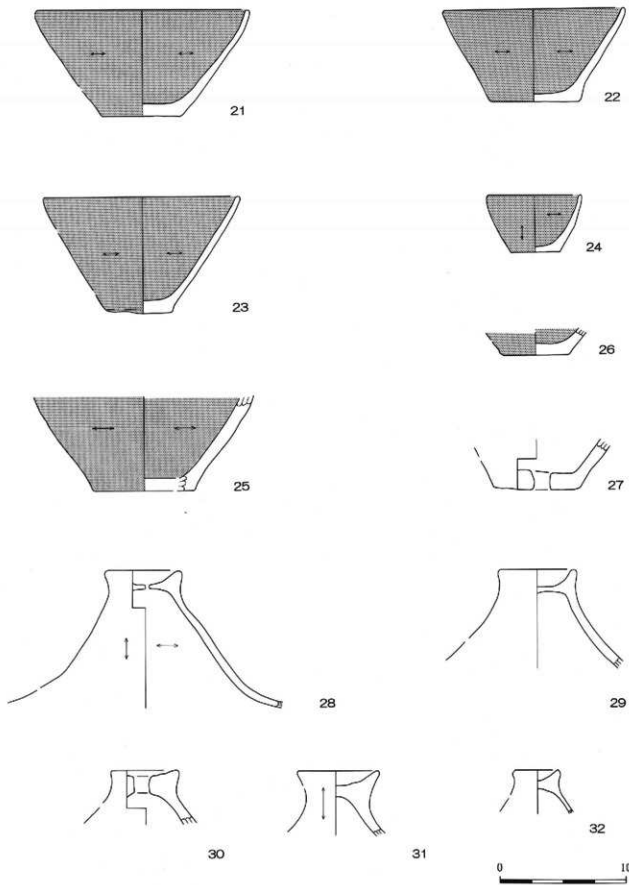
11

0 10cm

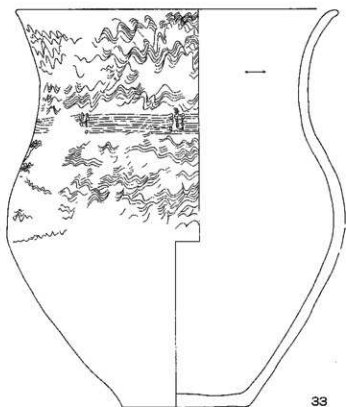
第37图 SB-94 土器实测图(2)



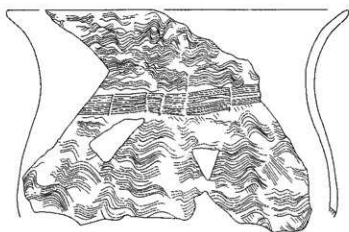
第37图 SB-94 土器实测图(3)



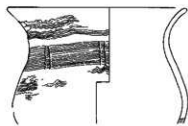
第37图 SB-94 土器实测图(4)



33



34



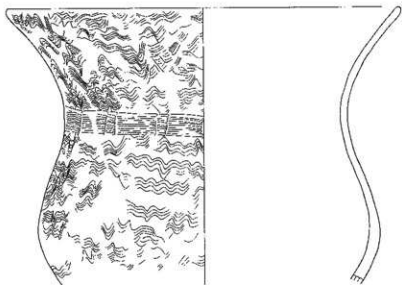
35



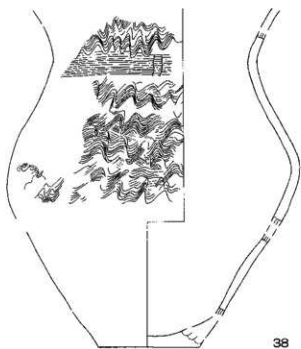
36

0 10cm

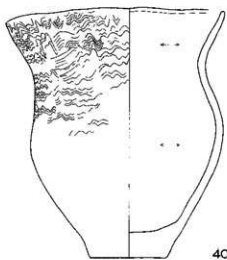
第37图 SB-94 土器实测图(5)



37



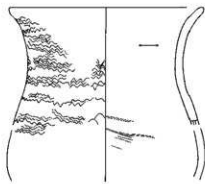
38



40



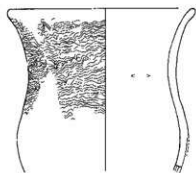
39



41



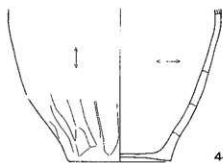
第37图 SB-94 土器实测图(6)



42



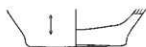
43



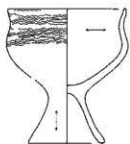
44



45



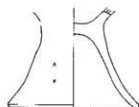
46



47



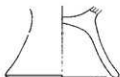
48



49



50



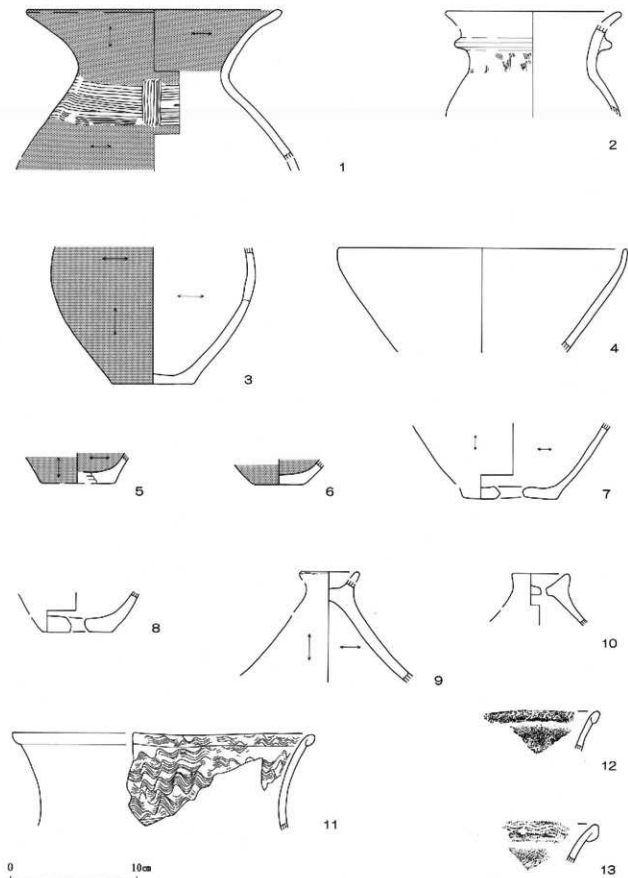
51



52

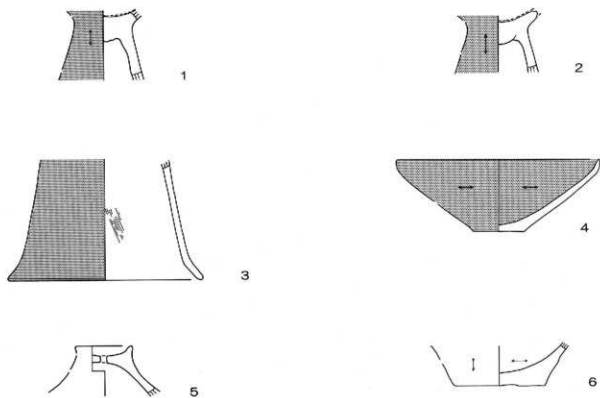


第37图 SB-94 土器实测图(7)

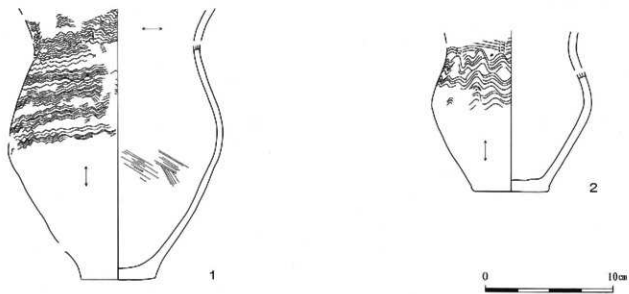


第38图 SB-95土器实测图





第39图 SB-96土器实测图



第40图 SB-97土器实测图



1



2

第 4 1 图 SB-98 土器实测图



1



2



3



4



5



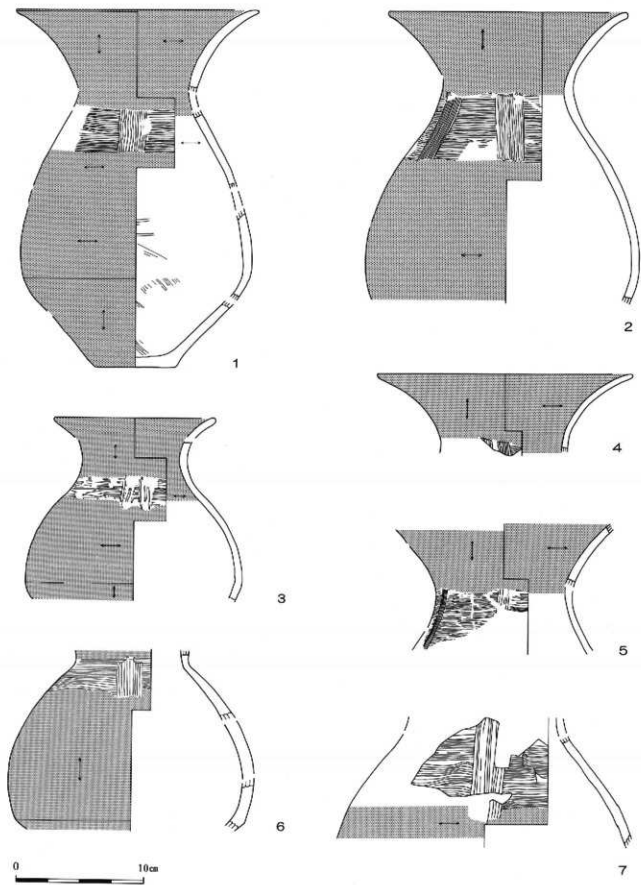
6



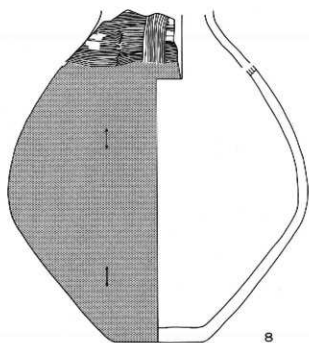
7



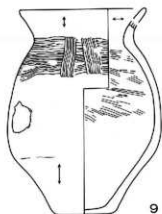
第 4 2 图 SD-06 土器实测图



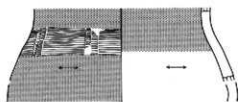
第43图 SE-01土器实测图(1)



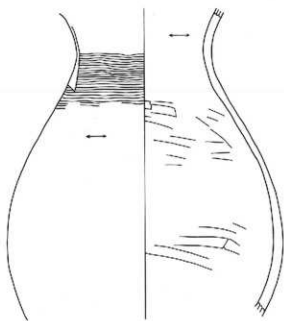
8



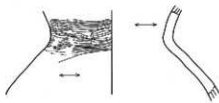
9



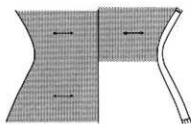
10



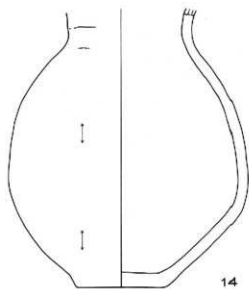
11



12



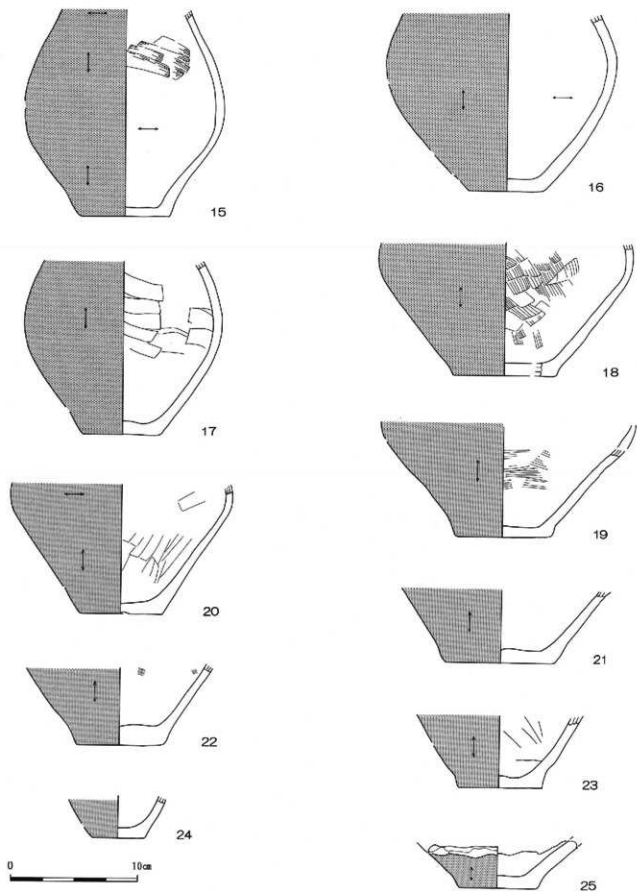
13



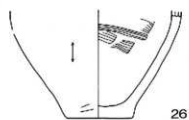
14



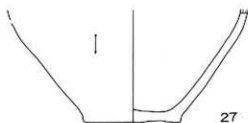
第43图 SE-01 土器实测图(2)



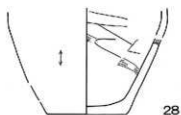
第43图 SE-01 土器实测图(3)



26



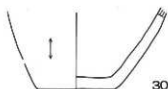
27



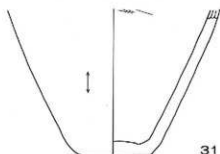
28



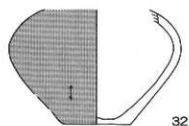
29



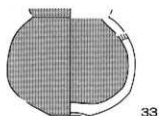
30



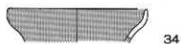
31



32



33



34



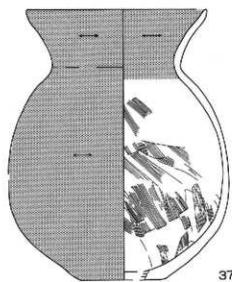
35



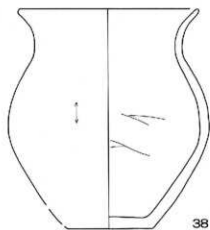
36



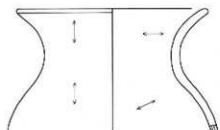
第43图 SE-01 土器实测图(4)



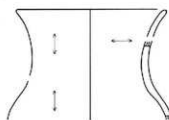
37



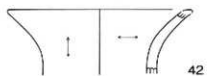
38



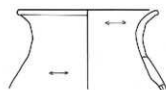
39



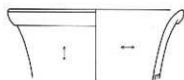
40



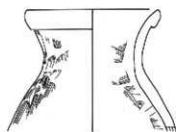
42



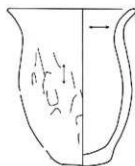
41



44



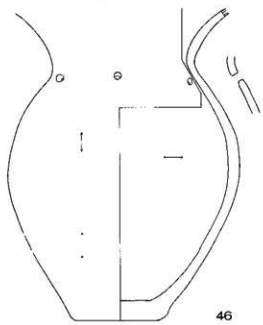
43



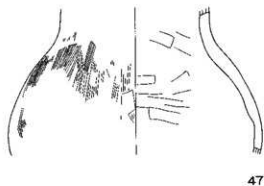
45



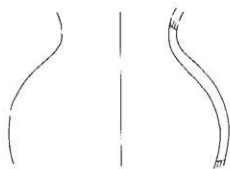
第43图 SE-01 土器实测图(5)



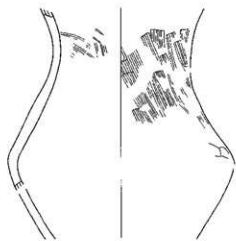
46



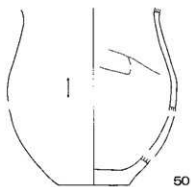
47



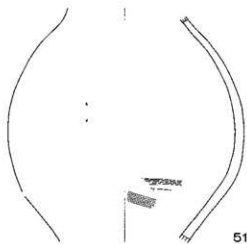
48



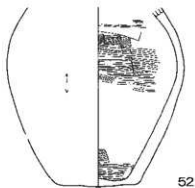
49



50



51

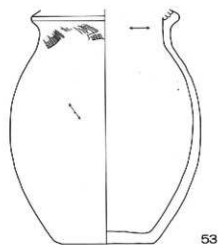


52

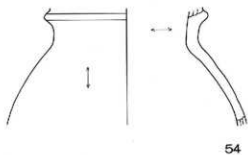


第43图 SE-01 土器实测图(6)





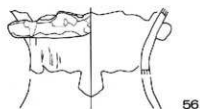
53



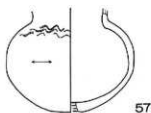
54



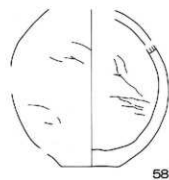
55



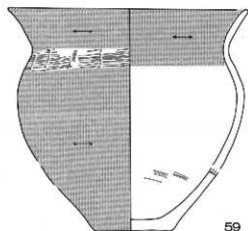
56



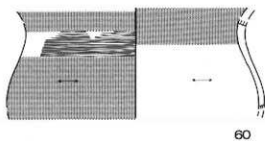
57



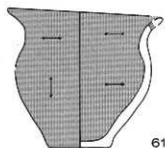
58



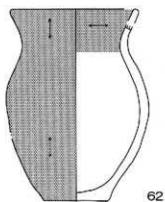
59



60



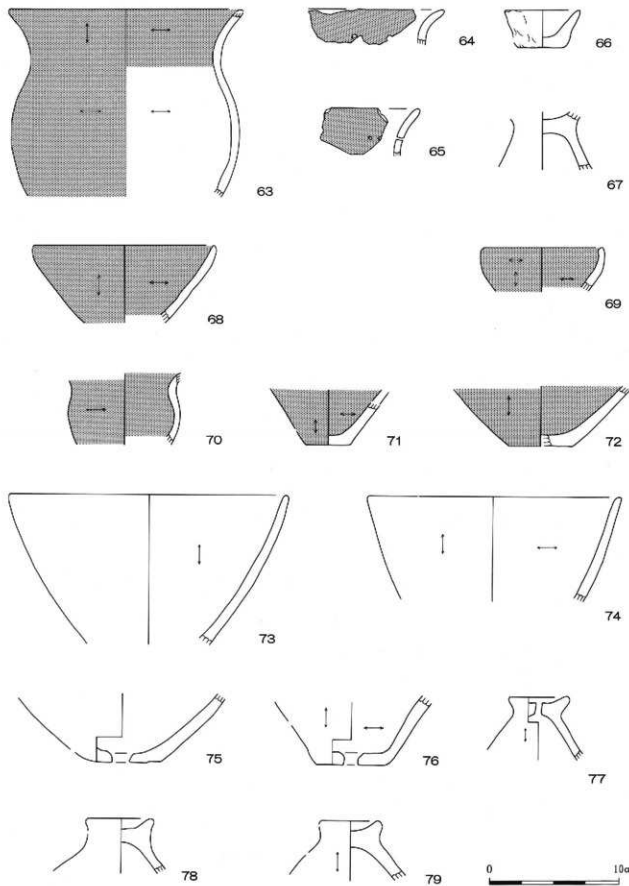
61



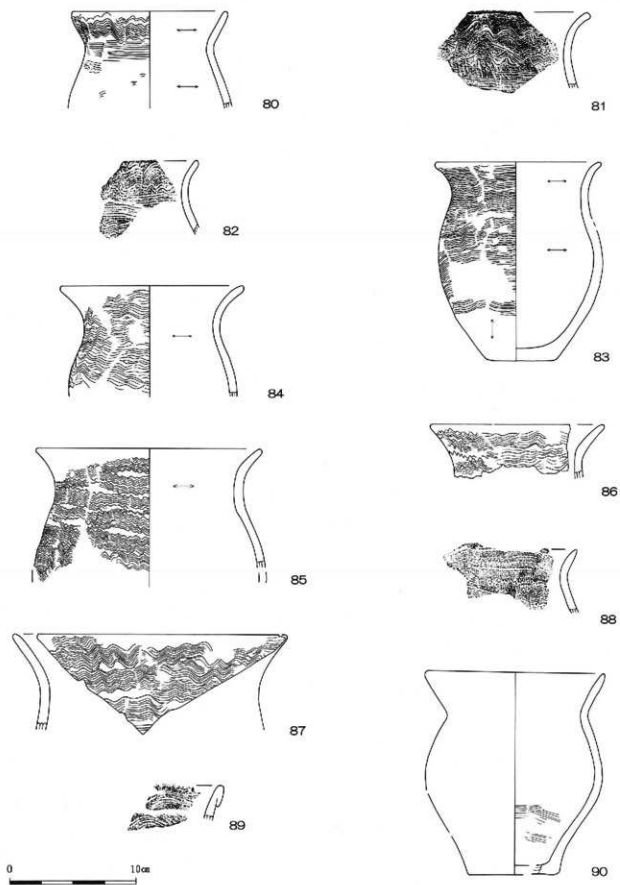
62



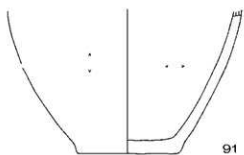
第43图 SE-O1土器实测图(7)



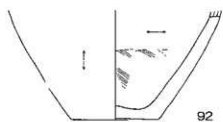
第43图 SE-01 土器实测图(8)



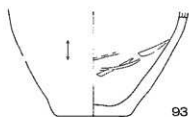
第 43 图 SE-01 土器实测图 (9)



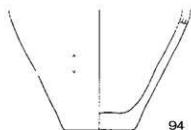
91



92



93



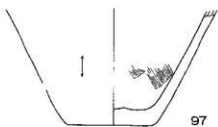
94



95



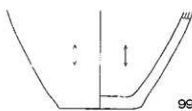
96



97



98



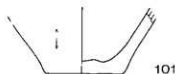
99



100



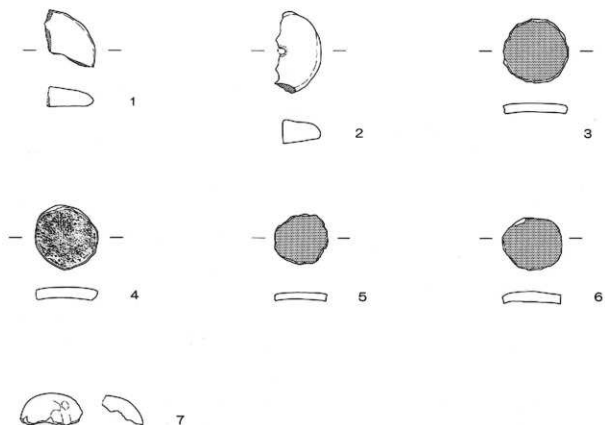
102



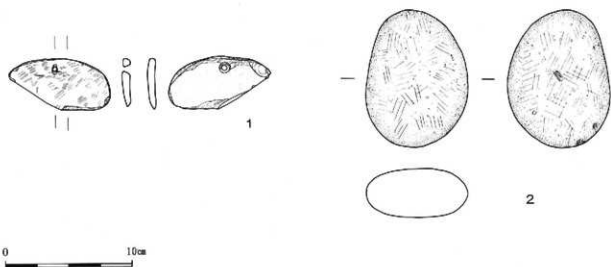
101



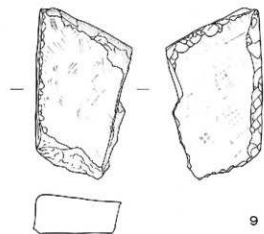
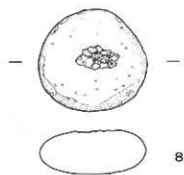
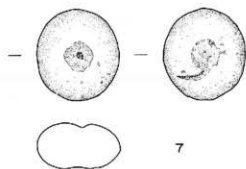
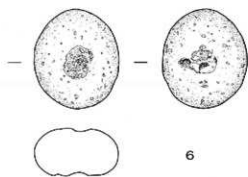
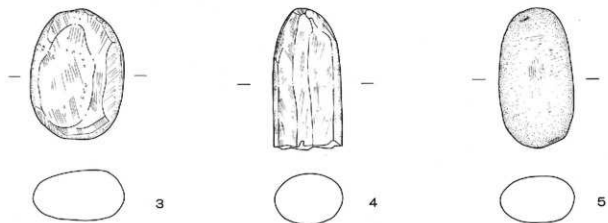
第43图 SE-01土器实测图(10)



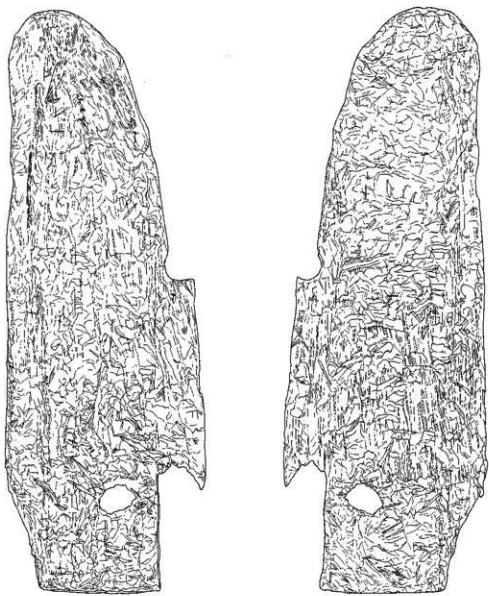
第 4 4 図 紡錘車・土製円盤実測図



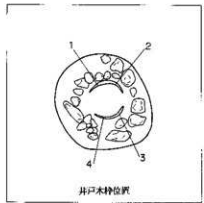
第 4 5 図 石器実測図 (1)



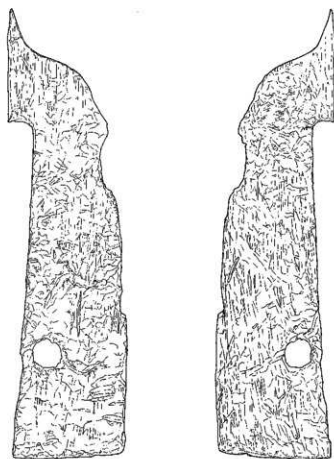
第 4 5 图 石器实测图 (2)



1



第 4 6 图 井戸木棒実測图 (1)

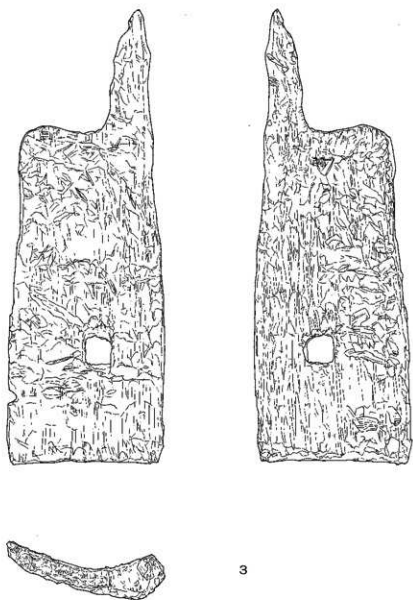


2



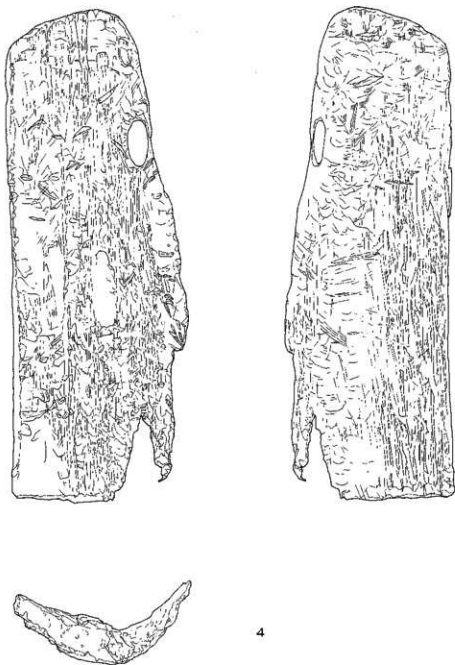
第46圖 井戸木榫実測圖(2)





0 30cm

第46圖 井戸木杵実測図(3)



4

0 30cm

第46图 井戸木柁実測图(4)

器種 図版No	器種 種類	法 残	量 存	器 質	成 形 ・ 形 態 ほ か	整 形 ほ か
SB-84 27図-1	壺 甕生	口径(23.6) 残高 13.4 底径 口縁部一部		胎: 雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 (A)10R4/6 赤	口縁部は大きく朝顔状に開く	(A) 頸部T字文 タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-84 27図-2	壺 甕生	口径(27.0) 残高 16.2 底径 口縁部~頸部		胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 (A)10R5/6 赤	口縁部は大きく朝顔状に開く	(A) 頸部T字文 タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ
SB-84 27図-3	壺 甕生	口径(27.2) 残高 6.7 底径 口縁部1/4		胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤	口縁部に山形突起を持つ	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-84 27図-4	壺 甕生	口径 残高 11.4 底径 頸部一部		胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 7.5YR7/6 橙		(A) T字文 ヨコのヘラミガキ (A) 刷毛調整の後ヘラミガキ
SB-84 27図-5	壺 甕生	口径 残高 20.8 底径 胴部上位		胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR4/4 にぶい赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐		(A) 刷毛調整の後タテのヘラミガキ (A) 刷毛調整
SB-84 27図-6	壺 甕生	口径 残高 10.6 底径 7.3 底~胴部		胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/8 赤 (A)10R4/8 赤	平底	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 刷毛調整
SB-84 27図-7	壺 甕生	口径(18.2) 残高 11.8 底径 口縁~胴部		胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR5/8 明赤褐 (A)2.5YR4/8 赤褐	口径は胴最大径よりやや大きい	(A) 頸部1 止りめの縷状文 縷状波状文 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-84 27図-8	壺 甕生	口径(22.2) 残高 7.5 底径 口縁部1/2		胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR2/2 黒褐 (A)5YR4/4 にぶい赤褐	外反する口縁部	(A) 口縁部縷状波状文 頸部2 止りめの縷状文 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-85 28図-1	壺 甕生	口径 19.2 残高 27.3 底径 口縁~胴部		胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/4 赤褐 (A)2.5YR4/6 赤褐	口縁部が大きく外反し、胴部最大径にくびれがない	(A) 頸部T字文 タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 口縁部赤色塗彩
SB-85 28図-2	壺 甕生	口径 21.1 残高 22.0 底径 口縁~胴部		胎: 雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R5/6 赤 (A)2.5YR5/6 明赤褐	胴部より折れて外反し口縁部に至る	(A) 頸部T字文 タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 口縁部ヨコのヘラミガキ、赤色塗彩 胴部刷毛調整
SB-85 28図-3	壺 甕生	口径 残高 3.5 底径 頸部一部		胎: 微砂粒わずかに含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR7/6 橙 (A)7.5YR6/6 橙	頸部に脚状の突帯を付す	(A) ナデ (A) ナデ
SB-85 28図-4	壺 甕生	口径 残高 6.3 底径 7.5 底部完存		胎: 雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR5/6 にぶい赤褐 (A)2.5YR6/6 明赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ (A) 刷毛調整 内面に付着物
SB-85 28図-5	深鉢 甕生	口径(10.2) 残高 11.9 底径 4.8 口縁~底部		胎: 雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤 2.5YR4/8 赤褐	壺形を呈する	(A) 口縁部から底部までタテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-85 28図-6	高環 甕生	口径 残高 11.9 底径 15.7 脚部はほぼ完		胎: 雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤 5YR6/4にぶい橙	脚部に三角形透窓を4つ持つ	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 環部赤色塗彩 脚部刷毛調整
SB-85 28図-7	高環 甕生	口径 残高 8.1 底径 10.4 脚部3/4		胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤 (A)2.5YR5/8 明赤褐	短い脚部高	(A) 脚部タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 環部は表面が剥落する 脚部ナデ
SB-85 28図-8	鉢 甕生	口径 残高 6.3 底径 4.5 胴~底部		胎: 粗砂粒極を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤 (A)2.5YR5/6 明赤褐	平底	(A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 表面は剥落している 赤色塗彩

第9表 土器観察表(1)

品目番号 図版NO	器種 種類	法 残	量 存	器 質	成 形 ・ 形 態 ほ か	整 形 ほ か
SB-85 28図-9	片口鉢 弥生	口径 器高 底径 口縁2/5次	10.8 5.1 4.7 2	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤	体部は逆「ハ」の字状に開く	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-85 28図-10	瓶 弥生	口径 器高 底径 底部完存	2.7 5.9	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/4 にぶい赤褐 (A)5YR5/4 にぶい赤褐	底部に1孔を穿つ	(A) 底部ヘラケズリ (A)
SB-85 28図-11	蓋 弥生	直径 残高 柄径 柄部	5.2 7.5	胎:雲母、微砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR4/1 褐灰6/6 橙 (A)7.5YR4/1 褐灰6/6 橙		(A) タテのヘラミガキ (A) ヘラケズリ 刷毛調整 ヘラミガキ
SB-85 28図-12	甕 弥生	口径 器高 底径 胴部1/2次	10.7 13.8 4.7 1	胎:石英、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR3/2 黒褐 (A)5YR4/3 にぶい赤褐	口唇部が受け口状を呈する	(A) 櫛描波状文 剥落が著しい (A) ヨコのヘラミガキ
SB-85 28図-13	甕 弥生	口径 残高 底径 口縁～胴部	14.6 10.8 11.8	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR3/6 暗赤褐 (A)2.5YR3/3 暗赤褐	口縁部は長く緩やかに外反する	(A) 櫛描波状文を上から施す (A) ヨコのヘラミガキ
SB-85 28図-14	甕 弥生	口径(14.2) 残高 底径 口縁～胴部	11.8	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR3/3 暗赤褐 (A)7.5YR5/2 灰褐	口縁部は胴部より緩やかに長く外反する	(A) 櫛描波状文 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-85 28図-15	甕 弥生	口径(21.0) 残高 底径 口縁～胴部	13.2	胎:石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/2 灰褐 4/6赤褐 (A)5YR4/6 赤褐	口縁部は緩やかに外反する	(A) 口縁部、胴部櫛描波状文 頸部櫛描波状文 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-85 28図-16	甕 弥生	口径(9.8) 残高 底径 口縁～胴部	6.5	胎:雲母、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/2 褐灰 2/1黒褐 (A)5YR4/2 褐灰	小型で口縁部の外反は小さい	(A) 口縁部、胴部櫛描波状文 頸部櫛描波状文 ヘラミガキ
SB-85 28図-17	甕 弥生	口径(21.2) 残高 底径 口縁部一部	7.0	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/4 にぶい赤褐 (A)5YR4/6 赤褐	口縁部先端を外側へ折り返す	(A) 口縁部櫛描波状文 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-85 28図-18	甕 弥生	口径 残高 底径 口縁部一部	3.1	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR7/6 橙 (A)7.5YR7/6 橙	口縁部先端を外側へ折り返す	(A) 櫛描波状文 (A) ヘラミガキ
SB-85 28図-19	甕 弥生	口径 残高 底径 底部ほぼ完	2.2 4.3	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR4/4 にぶい赤褐 (A)5YR4/2 灰褐	平底	(A) 胴部タテのヘラミガキ (A) ヘラケズリ ナデ
SB-86 29図-1	壺 弥生	口径(21.9) 残高 底径 口縁～頸部	8.6	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR5/4 にぶい赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐	口縁部は大きく外反する	(A) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ
SB-86 29図-2	壺 弥生	口径 残高 底径 胴～底部	9.9 7.9	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/6 赤褐 (A)5YR4/6 赤褐		(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 刷毛調整 ナデ
SB-86 29図-3	壺 弥生	口径 残高 底径 頸部一部	4.6	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR5/4 にぶい赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐	頸部に頸状の突帯を付す	(A) タテのヘラミガキ (A) ミガキ ナデ
SB-86 29図-4	深鉢 弥生	口径(17.1) 残高 底径 口縁～頸部	6.8	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤	頸部に2孔を穿つ	(A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-86 29図-5	高杯 弥生	口径(30.5) 残高 柄径 口縁部一部	5.0	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5R4/6赤 (A)7.5R4/6赤	縁を持ち外反する口縁部に至る	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩

第10表 土器観察表(2)

器種 図版NO	器種 種類	法 規	量 存	器 質	成 形 ・ 形 態 ほ か	整 形 形 態 ほ か
SB-86 29図-6	高环 弥生	口径 残高 底径 口径部 接合部	5.8	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/6 赤 (H)10R4/6		(A) 环部ヨコ、脚部タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (H) 环部ヨコのヘラミガキ、赤色塗彩
SB-86 29図-7	高环 弥生	口径 残高 底径(16.5) 脚部下位	6.7	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/6 赤 (H)2.5YR5/6 明赤褐	脚部に三角形透窓を4つ持つ	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (H) 脚部ナデ
SB-86 29図-8	高环 弥生	口径 残高 底径 口径部 接合部	5.1	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/6 赤 (H)10R4/6 赤 2.5YR4/6赤褐		(A) ヘラミガキ 赤色塗彩 (H) ヘラミガキ 环部赤色塗彩
SB-86 29図-9	鉢 弥生	口径 残高 底径 口径部 接合部	13.8 6.7 4.7 ほぼ完存	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/6 赤 (H)10R4/6 赤	体部は逆「ハ」の字状に開く	(A) 底部まで赤色塗彩 塗彩部分の剥落が多い (H) 赤色塗彩 塗彩部分の剥落が多い
SB-86 29図 -10	鉢 弥生	口径 残高 底径 口径部	3.2 6.6	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR4/6 赤褐 (H)2.5YR4/6 赤褐	上げ底ぎみの平底	(A) ヘラミガキ 赤色塗彩 (H) ヘラミガキ 赤色塗彩
SB-86 29図 -11	蓋 弥生	口径(3.0) 残高 底径 口径部 のみ	2.8 6.0	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR4/3 におい赤褐 (H)2.5YR3/2 暗赤褐	小型の蓋	(A) ナデ (H) ミニチュアか
SB-86 29図 -12	甕 弥生	口径 残高 底径 口径部 脚部	11.2 6.0	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR3/3 におい赤褐 (H)5YR3/2 暗赤褐	口縁部は外反する	(A) 櫛溝波状文を施した後、頸部にT字文を施す (H) ヨコのヘラミガキ
SB-86 29図 -13	甕 弥生	口径(14.0) 残高 底径 口径部 脚部	6.8	胎:雲母、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/4 におい赤褐 (H)7.5YR6/4R+橙5/2 灰褐	口縁部は大きく緩やかに外反する	(A) 櫛溝波状文を上から下へ施す 頸部に櫛溝状文を施す (H) ヨコのヘラミガキ
SB-86 29図 -14	甕 弥生	口径(28.0) 残高 底径 口径部 一部	5.5	胎:石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR5/3R+褐 3/1黒褐 (H)7.5YR5/3R+褐 3/1黒褐	外反する口縁部	(A) 櫛溝波状文を上から下へ施す (H) ヨコのヘラミガキ
SB-86 29図 -15	甕 弥生	口径 残高 底径 口径部 脚部	9.5	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/2 灰褐 (H)5YR5/1 褐灰		(A) 櫛溝波状文 (H) ヨコのヘラミガキ
SB-86 29図 -16	甕 弥生	口径 残高 底径 口径部 一部	4.0	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR5/6 明赤褐 (H)2.5YR4/6 赤褐	口縁部先端を折り返す	(A) ケズリ ナデ (H) ナデ ミガキ
SB-87 30図-1	壺 弥生	口径(13.0) 残高 底径 口径部 一部	5.5	胎:石英、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/6 赤褐 (H)5YR4/6 赤褐	外反する口縁部	(A) 口縁部ヨコナデ (H)
SB-87 30図-2	壺 弥生	口径 残高 底径 口径部 頸部	7.1	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR6/4 におい橙 (H)5YR5/6 明赤褐	頸部は緩やかにすばまる	(A) タテのヘラミガキ (H) 口縁部ヨコのヘラミガキ
SB-87 30図-3	鉢 弥生	口径(10.0) 残高 底径 口径部	4.0	胎:雲母、微砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/6 赤褐 (H)5YR5/4 におい赤褐	体部は逆「ハ」の字状に開く	(A) ヘラケズリ ナデ (H) ヘラケズリ ナデ
SB-87 30図-4	鉢 弥生	口径 残高 底径 口径部	2.1 6.1	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR4/4 におい赤褐 (H)2.5YR4/4 におい赤褐	平底	(A) ヘラミガキ 赤色塗彩 (H) ヘラミガキ 赤色塗彩
SB-87 30図-5	甕 弥生	口径(15.0) 残高 底径 口径部 脚部	8.9	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/4R+赤褐 5/1褐灰 (H)5YR5/4 におい赤褐	口縁部は大きく緩やかに外反する	(A) 頸部2連止めの櫛溝状文 櫛溝波状文 (H) ヨコのヘラミガキ

第 1 1 表 土器観察表 ( 3 )

器種 図版NO	器種 種類	法 残	庫 存	器 質	成 形 ・ 形 態 ほ か	整 形 ほ か
SB-87 30図-6	壺 弥生	口径(16.0) 残高 17.0 底径 口径~胴部	胎 色: 胎 色: (A)7.5YR5/4C 暗赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐	石英、礫、粗砂粒を含む 良好	口径は胴部最大径より小さい	(A) 櫛溝波状文を上から下へ施す (A) ヨコのヘラミガキ
SB-87 30図-7	壺 弥生	口径(15.6) 残高 14.0 底径 口径~胴部	胎 色: 胎 色: (A)7.5YR4/3 褐 (A)7.5YR4/3 褐	雲母、粗砂粒を含む 良好	口径は胴部最大径より小さい	(A) 櫛溝波状文 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-88 31図-1	壺 弥生	口径 残高 7.4 底径 胴部一部	胎 色: 胎 色: (A)10R4/6 赤 (A)10YR6/3にぶい黄褐	石英、粗砂粒を含む 良好		(A) T字文 ボタン状貼付文 タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 剥落が著しい
SB-88 31図-2	壺 弥生	口径 残高 5.6 底径 11.0	胎 色: 胎 色: (A)5YR4/6 赤褐 (A)5YR4/6 赤褐	石英、雲母、粗砂粒を含む 良好	平底	(A) 刷毛調整 ヘラケズリ (A) 刷毛調整
SB-88 31図-3	壺 弥生	口径 残高 2.4 底径 8.6	胎 色: 胎 色: (A)2.5YR3/6 暗赤褐 (A)2.5YR3/6 暗赤褐	石英、雲母、粗砂粒を含む 良好	平底	(A) ヘラミガキ (A) 刷毛調整
SB-88 31図-4	高環 弥生	口径(26.8) 残高 5.1 底径 口径部一部	胎 色: 胎 色: (A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤	石英、雲母、粗砂粒を含む 良好	ゆるかに外反する	(A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗装 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗装
SB-88 31図-5	高環 弥生	口径 残高 13.0 底径 15.3	胎 色: 胎 色: (A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤 5YR5/6橙	雲母、粗砂粒を含む 良好	脚部はラッパ状に開く	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗装 (A) 坏部赤色塗装 脚部ヨコのヘラナデ
SB-88 31図-6	高環 弥生	口径 残高 5.3 底径 (15.5) 脚部一帯	胎 色: 胎 色: (A)10R4/6 赤 (A)2.5YR5/6 明赤褐	雲母、粗砂粒を含む 良好		(A) タテのヘラミガキ 赤色塗装 (A) 刷毛調整 ナデ
SB-88 31図-7	甌 弥生	口径 器高 20.0 14.1 底径 5.9 口径~底部	胎 色: 胎 色: (A)2.5YR4/6 赤褐 (A)2.5YR4/6 赤褐	石英、雲母、粗砂粒を含む 良好	体部はやや丸みを持つ 底部に1孔を穿つ	(A) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ が胎上器
SB-88 31図-8	蓋 弥生	直径 器高 5.5 9.0 (18.9) 縁部3/4欠	胎 色: 胎 色: (A)5YR4/6 赤褐 (A)7.5YR3/3 暗褐	雲母、粗砂粒を含む 良好	爪部より開き、外反する胴部 に至る	(A) タテのヘラミガキ (A) ヘラケズリの後ミガキ
SB-88 31図-9	壺 弥生	口径(24.0) 残高 5.8 底径 口径部一部	胎 色: 胎 色: (A)7.5YR4/3 褐 (A)7.5YR4/3 褐	石英、雲母、粗砂粒を含む 良好	口縁部先端は折り返す	(A) 粗い櫛溝波状文 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-88 31図-10	壺 弥生	口径 残高 4.8 底径 6.0	胎 色: 胎 色: (A)10YR4/1褐灰 (A)10YR4/2灰黄褐	石英、雲母、粗砂粒を含む 良好	平底	(A) タテのヘラミガキ (A) ナデ
SB-88 31図-11	壺 弥生	口径 残高 1.9 底径 5.9	胎 色: 胎 色: (A)10R3/1 暗赤灰 (A)10R4/4 赤褐	雲母、粗砂粒を含む 良好	平底	(A) ミガキ (A) ミガキ
SB-89 32図-1	壺 弥生	口径 残高 3.8 底径 頸部一部	胎 色: 胎 色: (A)5YR3/1 黒褐 (A)5YR3/1 黒褐	粗砂粒を含む 良好	頸部に鐮状の突起を付す	(A) ナデ (A) ミガキ
SB-89 32図-2	台付 陳鉢 弥生	口径 残高 6.0 底径 8.8	胎 色: 胎 色: (A)2.5YR4/6 赤褐 (A)5YR3/4 暗赤褐	石英、雲母、粗砂粒を含む 良好	接合部より外反して裾部に至る 脚部短い	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 脚部ヘラケズリ 刷毛調整
SB-89 32図-3	高環 弥生	口径 残高 14.4 底径 17.5	胎 色: 胎 色: (A)2.5YR4/8 赤褐 (A)7.5YR5/4 赤褐	石英、雲母、粗砂粒を含む 良好	脚部に三角形の透窓を4つ有する	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ナデ 坏部赤色塗彩 坏部の表面は剥落している

第12表 土器観察表(4)

器種 分類	器種 種類	法 残	量 存	器 質	成形・形態ほか	整 形 ほ か
SB-89 32図-4	高环 弥生	口径 残高 底径 器高 器径 脚部	4.1 10.8	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/6 赤褐 (A)5YR4/8 赤褐	脚高が低く、裾部に向かって大きく開く	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 刷毛調整の後ナデ 坯部赤色塗彩
SB-89 32図-5	鉢 弥生	口径(19.4) 残高 底径 口縁部	4.0	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 (A)10YR1/4にぶい黄褐色	口縁部がやや内灣し、体部は逆「ハ」の字状に開く	(A) 不明 (A) 不明
SB-89 32図-6	蓋 弥生	抓径(5.2) 器高(7.7) 器径(16.8) 抓～裾部		胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR3/2 黒褐 (A)5YR3/1 黒褐	天井部に2孔を穿つ 抓部から裾部にかけて外反して大きく開く	(A) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ
SB-89 32図-7	壺 弥生	口径(14.8) 残高 底径 口縁～胴部	9.8	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10YR4/3にぶい黄褐色 (A)5YR5/4にぶい赤褐	口径は胴最大径より小さい	(A) 櫛描波状文を施す (A) ヘラケズリ ヨコのヘラミガキ
SB-89 32図-8	壺 弥生	口径 残高 底径 胴～底部	12.1 7.0	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/3にぶい赤褐 (A)5YR3/2 暗赤褐	胴部は直線的に開く 平底	(A) タテのヘラミガキ (A) 刷毛調整の後ヨコのヘラミガキ
SB-89 32図-9	壺 弥生	口径 残高 底径 胴～底部	10.9 7.9	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR4/6 赤褐 (A)2.5YR3/1 暗赤灰	上げ底ぎみの底部	(A) タテのヘラミガキ (A) ヘラミガキ
SB-89 32図-10	壺 弥生	口径 残高 底径 胴～底部	8.0 4.6	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/6 赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ (A) ヘラケズリ ナデ
SB-89 32図-11	壺 弥生	口径 残高 底径 頸部	4.0	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR2/2 黒褐 (A)N2/黒		(A) 頸部準状文 櫛描波状文 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-89 32図-12	台付 弥生	口径(13.0) 残高 器径 器径 口縁～胴部	13.1	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR3/3 暗褐 (A)5YR5/3にぶい赤褐	胴部は強く張り、口縁部は大きく開く 台付と思われる	(A) 頸部に等連止めの櫛状文 粗い櫛描波状文 胴下半部タテのヘラミガキ ヨコのヘラミガキ
SB-90 33図-1	壺 弥生	口径 残高 底径 胴～底部	8.0 10.4	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR5/8 明赤褐 (A)5YR4/6 赤褐	平底	(A) ヘラケズリの後タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 潤滑 和胎土器
SB-90 33図-2	蓋 弥生	抓径 器高 器径 器径 抓～裾部	5.3 8.5 18.4	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/4にぶい赤褐 (A)5YR4/6 赤褐	天井部に1孔を穿つ	(A) (A) ヘラケズリ ヘラミガキ
SB-90 33図-3	蓋 弥生	抓径 器高 器径 器径 器径 完存	4.0 4.5 10.4	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR5/4にぶい褐色 (A)7.5YR5/4にぶい褐色	天井部に1孔を穿つ	(A) ナデ (A) ナデ ケズリ
SB-90 33図-4	蓋 弥生	抓径 残高 器径 器径 器径	4.7 4.1	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/3にぶい赤褐 (A)7.5YR3/3 暗褐	天井部に1孔を穿つ	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ナデ
SB-90 33図-5	壺 弥生	口径(15.2) 残高 底径 口縁部	8.0	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR3/3 暗褐 (A)7.5YR3/3 暗褐	口縁部は大きく外反する	(A) 頸部2連止めの櫛状文 口縁部、胴部に櫛描波状文 (A) 刷毛調整の後ヘラミガキ
SB-91 34図-1	壺 弥生	口径 底径 口縁～頸部	31.0 27.8	胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR6/6 橙 5/1褐灰 (A)5YR6/6 橙	口縁部は大きく長く開く	(A) タテのヘラミガキ 頸部T字文 (A) 赤彩を施していると思われる が表面が荒れていて不明
SB-91 34図-2	壺 弥生	口径(22.0) 残高 底径 口縁～頸部	10.5	胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR5/4にぶい褐色 (A)7.5YR5/4にぶい褐色	口縁部は大きく長く開く	(A) ヨコのヘラミガキ 頸部T字文 (A) 刷毛調整の後ヨコのヘラミガキ

第13表 土器観察表(5)

目録番号	器種分類	法残	量存	器	質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-91 34図-3	壺 弥生	口径 残高 底径 頸部2/3	12.2 3.7	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/8 橙 10YR4/1 灰 (A)5YR5/6 明赤褐			(A) 頸部にT字文 タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ
SB-91 34図-4	壺 弥生	口径(25.6) 残高 底径 口縁部一部	(25.6) 3.7	胎: 粗砂粒をわずかに含む 焼: 良好 色: (A)10R5/6 赤 (A)10R4/6 赤		口縁部は外反する	(A) タテのヘラミガキ 口縁端部ヨコのミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのミガキ 赤色塗彩
SB-91 34図-5	壺 弥生	口径(33.4) 残高 底径 口縁部一部	(33.4) 3.9	胎: 細砂粒を多く含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 (A)2.5YR4/6 赤褐		口縁部は外反する	(A) ヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-91 34図-6	壺 弥生	口径(15.0) 残高 底径 口縁~胴部	(15.0) 12.8	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 (A)5YR4/2 灰		丸みのある胴部より長い口縁部へ緩やかに外反する	(A) ナデ (A) ナデ
SB-91 34図-7	壺 弥生	口径(14.0) 残高 底径 口縁部1/4	(14.0) 8.3	胎: 石英、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)2.5YR6/6 橙		頸部より口縁部まで緩く外反する	(A) 刷毛調整の後タテのヘラケズリ ヘラミガキ (A) 刷毛調整の後ヨコのヘラミガキ
SB-91 34図-8	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	10.5 7.4	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR5/4 にぶい赤褐 (A)2.5YR5/4 にぶい赤褐		胴下半部が若干くびれている	(A) タテのヘラミガキ (A) ヘラケズリ ナデ
SB-91 34図-9	壺 弥生	口径 残高 底径 底部完存	3.1 9.2	胎: 粗砂粒をわずかに含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐		平底	(A) ヘラケズリ (A) 刷毛調整
SB-91 34図-10	壺 弥生	口径 残高 底径 底部1/2	4.9 11.8	胎: 白色砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR6/6 橙 (A)2.5YR4/1 赤灰		平底	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 刷毛調整 ナデ
SB-91 34図-11	深鉢 弥生	口径 残高 底径 口縁~胴部	14.6 8.0	胎: 石英、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5R4/8 赤 (A)7.5R4/6 赤		壺型を呈する	(A) 口縁部ヨコの、胴部タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 口縁部ヨコのヘラミガキ、赤色塗彩
SB-91 34図-12	深鉢 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	15.5 7.0	胎: 雲母、細砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R3/4 暗赤 (A)10R3/4 暗赤		平底で、胴部に丸みを持ち、頸部から口縁へ向かって外反する	(A) 胴部ヨコの、底部近くはタテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 刷毛調整の後ヨコのヘラミガキ 口縁部赤色塗彩
SB-91 34図-13	ミニチュア 弥生	口径 残高 底径 底部完存	6.8 3.1 3.5	胎: 雲母、白色微砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10YR6/3 にぶい黄橙 (A)10YR6/3 にぶい黄橙		鉢型を呈する 手づくね	(A) ナデ 指頭痕 (A) ナデ 指頭痕
SB-91 34図-14	ミニチュア 弥生	口径 残高 底径 体~底部	5.4 2.5	胎: 細砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR6/4 にぶい橙 (A)10YR7/4 にぶい黄橙		壺型を呈する 手づくね	(A) ナデ 指頭痕 (A) ナデ
SB-91 34図-15	ミニチュア 弥生	口径 残高 底径 底部完存	2.5 2.4 1.4	胎: 白色砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR5/8 明赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐		高環型を呈する 手づくね	(A) ナデ (A) ナデ
SB-91 34図-16	高環 弥生	口径(21.3) 残高 底径 口縁部一部	(21.3) 4.3	胎: 粗砂粒を多く含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤		坏部に段を持ち、屈折して口縁部が外反する	(A) ヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-91 34図-17	高環 弥生	口径 残高 底径 接合部	6.3	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5R4/6 赤 (A)7.5R4/6 赤		坏部を脚部にはめ込んで接合している	(A) タテのミガキ 赤色塗彩 (A) 坏部ヨコのミガキ、赤色塗彩 脚部ヘラケズリ、ナデ
SB-91 34図-18	鉢 弥生	口径 残高 底径 口縁一部欠	17.5 8.7 5.8	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R5/8 赤 (A)10R5/8 赤		逆「ハ」の字状に開く体部 焼成後底部に1孔を穿つ	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 表面の剥落が著しい

第14表 土器観察表(6)



出土層 図版No	器種 種類	法残	量存	器	質	成形・形態ほか	整形 ほ か
SB-91 34図 -19	鉢 甕生	口径(9.4) 底径4.2 底径4.0 口縁~底部	残高4.7 残高4.6	胎:粗砂粒を含む 焼色:(A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤		体部は逆「ハ」の字状に開く 小型の鉢	(A) タテのヘラミガキ 底部近く に指頭痕 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-91 34図 -20	鉢 甕生	口径(14.6) 残高4.5 底径 口縁部~一部		胎:粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)10R5/6 赤 (A)10R5/6 赤		体部は直線的に開く	(A) ヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヘラミガキ 赤色塗彩
SB-91 34図 -21	鉢 甕生	口径(15.2) 残高4.1 底径 口縁部~一部	残高4.1	胎:粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)10R4/4 赤褐 (A)10R4/4 赤褐		口縁部は内湾する	(A) ヨコのミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのミガキ 赤色塗彩 表面の剥落が著しい
SB-91 34図 -22	鉢 甕生	口径(19.8) 残高11.1 底径 口縁~体部		胎:粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐		体部は丸みを持って開く	(A) 刷毛ケズリ ヘラミガキ (A) ヨコの刷毛ケズリの後ヘラ ミガキ
SB-91 34図 -23	鉢 甕生	口径(13.0) 残高4.4 底径 口縁部~一部		胎:粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐		体部は直線的に開く	(A) 刷毛調整の後ヘラミガキ (A) 刷毛調整の後ヘラミガキ 無彩
SB-91 34図 -24	鉢 甕生	口径 残高4.2 底径(5.0) 底部1/2		胎:細砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤		平底 体部は丸みを持って開 く	(A) 胴部はタテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 胴部ヘラケズリの後ヨコの ヘラミガキ 赤色塗彩
SB-91 34図 -25	瓶 甕生	口径 残高5.0 底径7.0 底部1/2		胎:粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐		底部に1孔を穿つ	(A) タテの刷毛目 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-91 34図 -26	瓶 甕生	口径 残高5.5 底径4.3 底部完存		胎:粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)7.5YR6/4 ぶい橙 (A)5YR6/6 橙		底部に1孔を穿つ	(A) 刷毛調整 ヘラケズリの後 ヘラミガキ (A) 刷毛調整 ヘラケズリの後 ヘラミガキ
SB-91 34図 -27	蓋 甕生	直径4.4 器高6.8 直径(5.0) 胴~船部		胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)2.5YR4/6 赤褐 (A)7.5YR5/4ぶい橙 2/1黒		天井部に1孔を穿つ	(A) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ
SB-91 34図 -28	蓋 甕生	直径5.2 器高6.0 直径 胴~体部		胎:石英、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)5YR5/4 ぶい赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐		天井部に1孔を穿つ	(A) ヘラケズリ ナデ (A) 刷毛調整 ヨコのヘラミガ キ
SB-91 34図 -29	蓋 甕生	直径4.6 器高7.0 直径 胴~体部		胎:粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)5YR6/6 橙 (A)5YR4/8 赤褐		天井部に1孔を穿つ	(A) タテのヘラミガキ (A) ヘラケズリ ナデ
SB-91 34図 -30	甕 甕生	口径13.0 残高12.8 底径 口縁~胴部		胎:雲母、粗砂粒を含む 焼色:(A)7.5YR5/4 ぶい橙 (A)7.5YR5/2 灰褐		口径は胴最大径より大きい	(A) 頸部3連止めの縞状文 口縁、胴部縞波状文 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-91 34図 -31	甕 甕生	口径(18.0) 残高7.9 底径 口縁~胴部		胎:石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)7.5YR6/6 橙 6/1灰褐 (A)7.5YR6/6 橙 6/1灰褐		口径は胴最大径より大きい	(A) 頸部2連止め、3連止めの 縞状文 縞波状文 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-91 34図 -32	甕 甕生	口径(17.0) 残高5.3 底径 口縁部~一部		胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼色:(A)2.5YR4/1 赤灰 (A)7.5YR5/2 灰褐			(A) 頸部2連止めの縞状文 縞波状文 (A) 刷毛調整の後ヨコのヘラミ ガキ
SB-91 34図 -33	甕 甕生	口径(30.0) 残高15.1 底径 口縁~胴部		胎:石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼色:(A)5YR6/6 橙 (A)5YR6/6 橙 7/4にぶい橙		口縁部は小さく開く	(A) 頸部3連止めの縞状文 縞波状文 (A) ヨコのヘラミガキ
SB-91 34図 -34	甕 甕生	口径11.6 器高15.3 底径7.0 完存		胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼色:(A)2.5YR3/4 暗赤褐 (A)2.5YR2/2 極暗赤褐		口径と胴最大径はほぼ同じで 胴最大径は器高の中心にある	(A) 縞波状文 (A) ヨコのヘラミガキ

第15表 土器観察表(7)

器種 器種NO	器種 種類	法残 形状	景存 形状	器 質	成形・形態ほか	整形 形状ほか
SB-91 34回 -35	壺 弥生	口径(9.6) 残高 8.5 底径 4.0 口縁~底部	胎:雲母、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR6/3 にぶい褐 (A)7.5YR4/1 褐灰 6/2灰褐	胎:雲母、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR6/3 にぶい褐 (A)7.5YR4/1 褐灰 6/2灰褐	小型 口径は胴最大径より大きい 胴は強りがない	(A)粗い櫛溝波状文 (A)刷毛調整 ヨコのヘラミガキ
SB-91 34回 -36	壺 弥生	口径(13.6) 残高 9.8 底径 口縁~胴部	胎:石英、雲母、礫、粗砂粒 焼:良好 色:(A)10YR6/4 にぶい黄橙 (A)10YR7/4 にぶい黄橙	胎:石英、雲母、礫、粗砂粒 焼:良好 色:(A)10YR6/4 にぶい黄橙 (A)10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部は長く大きく開く	(A)櫛溝波状文 (A)ヨコのヘラミガキ
SB-91 34回 -37	壺 弥生	口径(14.8) 残高 3.5 底径 口縁部	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR3/3 暗褐 (A)7.5YR6/3 にぶい褐	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR3/3 暗褐 (A)7.5YR6/3 にぶい褐	口唇部に刻みが入る	(A)斜めの櫛溝直線文を左から 右へ施す (A)
SB-91 34回 -38	壺 弥生	口径 残高 4.7 底径 5.2 底部完	胎:粗砂粒をわずかに含む 焼:良好 色:(A)7.5YR6/3 にぶい褐 (A)7.5YR6/4 にぶい橙	胎:粗砂粒をわずかに含む 焼:良好 色:(A)7.5YR6/3 にぶい褐 (A)7.5YR6/4 にぶい橙	平底	(A)胴部ヘラケズリの後タテの ヘラミガキ 底部ヘラケズリ (A)胴部ヘラミガキ
SB-91 34回 -39	台付 壺 弥生	口径 14.2 残高 23.0 底径 8.6 口縁~胴部	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR3/2 暗赤褐 (A)5YR5/4 にぶい赤褐	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR3/2 暗赤褐 (A)5YR5/4 にぶい赤褐	台を付す	(A)頸部2連止め櫛状文 口 縁、胴部上位に櫛溝波状文 (A)刷毛調整の後ヨコのヘラミ ガキ
SB-92 35回 -1	壺 弥生	口径(20.8) 残高 6.8 底径 口縁部一部	胎:石英、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 3/1黒褐 (A)5YR5/6 明赤褐 3/1黒褐	胎:石英、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 3/1黒褐 (A)5YR5/6 明赤褐 3/1黒褐	大きく開く口縁部	(A)タテのヘラミガキ (A)ヨコのヘラミガキ
SB-92 35回 -2	壺 弥生	口径 残高 11.0 底径 頸部一部	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/84 2.5YR5/6 明赤褐 (A)10R4/84 2.5YR5/6 明赤褐	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/84 2.5YR5/6 明赤褐 (A)10R4/84 2.5YR5/6 明赤褐		(A)頸部櫛溝直線文 タテのヘ ラミガキ 赤色塗彩 (A)ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-92 35回 -3	壺 弥生	口径 残高 8.3 底径 頸部一部	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR6/6 橙 (A)5YR6/6 橙	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR6/6 橙 (A)5YR6/6 橙	頸部で緩やかにすぼまる	(A)刷毛調整の後ヘラミガキ (A)刷毛ナデ
SB-92 35回 -4	高坏 弥生	口径(21.8) 残高 4.5 底径 口縁部一部	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R3/6 暗赤 (A)10R3/6 暗赤	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R3/6 暗赤 (A)10R3/6 暗赤	口縁端部は短く外反する	(A)ヘラミガキ 赤色塗彩 (A)口縁部ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-92 35回 -5	壺 弥生	口径(19.8) 残高 9.0 底径 口縁~胴部	胎:礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR6/6 橙 (A)5YR3/1 黒褐	胎:礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR6/6 橙 (A)5YR3/1 黒褐		(A)刷毛調整 (A)刷毛調整 一部赤色塗彩
SB-92 35回 -6	壺 弥生	口径 残高 5.5 底径 口縁部一部	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/6 赤褐 (A)5YR6/2 灰褐	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/6 赤褐 (A)5YR6/2 灰褐	口縁端部は折り返す	(A)上から下へ櫛溝波状文の後 頸部に直線文 (A)
SB-92 35回 -7	壺 弥生	口径 残高 5.0 底径 口縁部一部	胎:石英、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR3/4 暗赤褐 (A)5YR4/4 にぶい赤褐	胎:石英、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR3/4 暗赤褐 (A)5YR4/4 にぶい赤褐	外反する口縁部	(A)櫛溝波状文 (A)
SB-92 35回 -8	壺 弥生	口径 残高 7.6 底径 口縁部一部	胎:石英、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR4/6 赤褐 (A)5YR6/4 にぶい橙	胎:石英、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR4/6 赤褐 (A)5YR6/4 にぶい橙		(A)櫛溝波状文 (A)
SB-92 35回 -9	壺 弥生	口径 残高 3.4 底径 5.0 底部完	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR5/8 明赤褐 (A)5YR6/6 橙	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR5/8 明赤褐 (A)5YR6/6 橙	平底	(A)タテのヘラミガキ (A)ナデ
SB-92 35回 -10	壺 弥生	口径 残高 4.0 底径 8.0 底部完	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR4/6 赤褐 (A)5YR5/3 にぶい赤褐	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR4/6 赤褐 (A)5YR5/3 にぶい赤褐	平底	(A)ヘラミガキ (A)ヘラケズリ、ナデ
SB-93 36回 -1	壺 弥生	口径 残高 7.8 底径 6.0 胴~底部	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR3/4 暗赤褐 (A)5YR4/4 にぶい赤褐	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR3/4 暗赤褐 (A)5YR4/4 にぶい赤褐	上げ底ぎみの底部	(A)胴部上位ヨコの、下位タテ のヘラミガキ 赤色塗彩 (A)刷毛調整

第 16 表 土器観察表 (8)

出土層 図版NO	器種 種類	法残 痕	保存	器 質	成形・形態ほか	整形 ほか
SB-93	壺	口径 残高 底径	2.8 5.2 5.2	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/6 赤 (M)5YR6/4 にぶい橙	平底	(A)ヘラミガキ 赤色塗彩 (M)
36図-2	甕生	口径 残高 底径	4.2 6.4	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR3/6 暗赤褐 (M)2.5YR3/1 暗赤灰	小型の台付	(A)ヘラミガキ 赤色塗彩 (M)ヘラケズリ、ナデ
SB-93	台付 深鉢	口径 残高 底径	12.6	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R3/6 暗赤 (M)2.5YR4/4 にぶい赤褐	胎部は逆「ハ」の字状に開く	(A)タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (M)胎部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部刷毛調整、ナデ
36図-3	甕生	口径 残高 底径	17.0 5.2 6.0	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R4/6 赤 (M)10R4/6 赤	平底	(A)口縁部ヨコの、体部斜位の ヘラミガキ 赤色塗彩 (M)ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 底部剥落
SB-93	鉢	口径 残高 底径	6.1 5.6	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR5/6 明赤褐 (M)10R4/8 赤	平底	(A)タテのヘラミガキ 赤色塗 彩 体部下位から底部表面剥 落 (M)赤色塗彩 底部表面剥落
36図-5	甕生	口径 残高 底径	3.3 4.6	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR3/4 暗赤褐 (M)10R4/6 赤	平底	(A)ヘラミガキ 赤色塗彩 (M)ヘラミガキ 赤色塗彩
SB-93	鉢	口径 残高 底径	19.0 9.3 6.2	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 (M)5YR5/6 明赤褐	胎部は逆「ハ」の字状に開く	(A)刷毛調整 (M)刷毛調整 ナデ
36図-8	甕生	口径 残高 底径	7.2	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR4/4 にぶい赤褐 (M)2.5YR4/4 にぶい赤褐	大きく開く	(A)赤色塗彩 (M)ヘラケズリの後ヨコのヘラ ミガキ 赤色塗彩
SB-93	蓋	口径 残高 底径	12.2 15.6 8.6	胎:雲母、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/6赤褐 4/4にぶい 脚部1/4 灰	口径と脚最大径はほぼ同じ 脚最大径は上位にある	(A)頸部3止め止の縷状文 帯縮波状文 (M)ヨコのヘラミガキ
36図 -10	甕生	口径 残高 底径	20.8 22.5 7.0	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/4 にぶい赤褐 (M)2.5YR5/6 明赤褐	口径と脚最大径はほぼ同じ 脚最大径は上位にある	(A)頸部2止め止の縷状文 帯縮波状文を施す (M)ヨコのヘラミガキ
SB-93	壺	口径 残高 底径	11.1 9.0	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/6 赤褐 (M)5YR3/2 暗赤褐	平底	(A)タテのヘラミガキ (M)斜位のヘラミガキ 内面に付着物
36図 -12	甕生	口径 残高 底径	11.0 10.4	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR4/6 赤褐 (M)2.5YR4/4 にぶい赤褐	上げ底ぎみの底部	(A)タテ、ヨコのヘラミガキ (M)ナデ ヘラミガキ 鈔胎土器
SB-93	壺	口径 残高 底径	13.8 13.5	胎:雲母、白色砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR5/6 明赤褐 (M)2.5YR3/1 暗赤灰	口縁部は脚部より折れて大き く外反する	(A)頸部等止め止の縷状文 帯縮波状文 (M)ヨコのヘラミガキ
36図 -14	台付 壺	口径 残高 底径	8.0 (9.8)	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/6 赤褐 (M)5YR3/4 暗赤褐	胎部に向かって「ハ」の字状 に開く脚部	(A) (M)体部ヘラミガキ
SB-93	台付 深鉢	口径 残高 底径	11.4	胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR5/6 明褐 (M)7.5YR5/6 明褐		(A)頸部T字文 (M)刷毛調整
37図-1	甕生	口径 残高 底径	25.7	胎:石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR6/6 橙 6/4にぶい (M)7.5YR6/6 橙	胴下半部に最大径を有する	(A)タテのヘラミガキ、ヨコの ヘラミガキ 赤色塗彩 (M)刷毛調整 剥落
37図-2	甕生	口径 残高 底径				

第17表 土器観察表(9)

器種 器名	器種 器名	法残 器名	器 器名	質 質	成形・形態ほか	整 形 ほ か
SB-94 37図-3	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	胎 色	胎:石莖、礫、粗砂粒を含む 良好 色:(A)5YR4/3灰赤褐 2/1黒褐 (A)5YR4/3灰赤褐 3/1黒褐	胴下半部には若下のくびれがある	(A) ミガキ (A) ヘラケズリ
SB-94 37図-4	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	胎 色	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 良好 色:(A)2.5YR4/1 黄灰 (A)5YR5/4 にぶい赤褐	胴下半部が強く張る	(A) 刷毛調整の後タテのヘラミガキ (A) 刷毛調整 ナデ
SB-94 37図-5	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	胎 色	胎:粗砂粒を含む 良好 色:(A)5YR5/4 にぶい赤褐 (A)5YR6/6 櫻	丸みを持った胴部	(A) 刷毛調整 (A) 刷毛調整
SB-94 37図-6	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	胎 色	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 良好 色:(A)10R5/6 赤 (A)10YR6/3 にぶい黄橙		(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 刷毛調整
SB-94 37図-7	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	胎 色	胎:石莖、粗砂粒を含む 良好 色:(A)10R4/6 赤 (A)2.5YR4/8 赤褐	平底	(A) 胴部ミガキ 赤色塗彩 底部ヘラケズリ (A) 胴部刷毛調整 底部ヘラケズリ
SB-94 37図-8	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	胎 色	胎:石莖、粗砂粒を含む 良好 色:(A)10R5/8 赤 (A)2.5YR5/6 明赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 刷毛調整
SB-94 37図-9	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	胎 色	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 良好 色:(A)10R5/6 赤 (A)5YR6/6 櫻	平底	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 剥落が著しい
SB-94 37図-10	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	胎 色	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 良好 色:(A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/4 にぶい赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ (A) 刷毛調整
SB-94 37図-11	深鉢 弥生	口径 器高 底径 ほぼ完存	胎 色	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 良好 色:(A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤	頸部に2連の孔が向かい合って2組ある	(A) タテのミガキ 赤色塗彩 (A) 口縁部ヨコのミガキ、赤色塗彩 胴部タテのミガキ
SB-94 37図-12	深鉢 弥生	口径 器高 底径 胴部	胎 色	胎:雲母、粗砂粒を含む 良好 色:(A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤	壺型を呈する	(A) 頸部2本の横状文、ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 口縁部赤色塗彩
SB-94 37図-13	ミニチュア 弥生	口径 器高 底径 完存	胎 色	胎:雲母、粗砂粒を含む 良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐	手づくね	(A) (A)
SB-94 37図-14	高環 弥生	口径(19.6) 器高 底径 口径~脚部	胎 色	胎:雲母、粗砂粒を含む 良好 色:(A)5YR5/4 にぶい赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐	環部は直線的に閉き、脚部高は短い	(A) 刷毛調整の後ナデ (A) 環部刷毛調整の後ヨコのヘラミガキ 脚部刷毛調整 ナデ
SB-94 37図-15	高環 弥生	口径(24.4) 残高 底径 環部	胎 色	胎:粗砂粒を含む 良好 色:(A)10R4/8 赤 (A)10R4/8 赤	罎状口縁	(A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-94 37図-16	高環 弥生	口径 器高 底径 環~接合部	胎 色	胎:石莖、粗砂粒を含む 良好 色:(A)10R5/6 赤 (A)10R5/6 赤 2.5YR4/2灰赤	環部が碗形を呈する	(A) 環部ヨコの、接合部タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 環部ヨコのヘラミガキ、赤色塗彩
SB-94 37図-17	高環 弥生	口径 残高 底径 接合~脚部	胎 色	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 良好 色:(A)10R4/8 赤 (A)5YR5/4 にぶい赤褐	環部に3角形の透意が4つある	(A) 環部ヨコの、脚部タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 刷毛調整 環部表面赤色塗彩、剥落
SB-94 37図-18	高環 弥生	口径 残高 底径 脚部	胎 色	胎:石莖、粗砂粒を含む 良好 色:(A)10R5/8 赤 (A)5YR7/4灰赤 10R5/8赤	環部に3角形の透意が4つある 脚部が長い	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 刷毛調整 環部赤色塗彩

第18表 土器観察表(10)

器種 種類 (図版No)	器種 種類	法 残	保 存	器 質	成 形 ・ 形 態 ほ か	整 形 ほ か
SB-94 37図 -19	高環 甕生	口径 残高 底径 接合部	5.5	胎: 礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/8 赤 (B)10R4/8 赤 5YR4/6赤褐		(A) ヘラミガキ 赤色塗彩 (B) 胴部ナデ 坏部ヨコのヘラミガキ、赤色塗彩
SB-94 37図 -20	高環 甕生	口径 残高 底径 接合部 脚部	12.7 15.0	胎: 礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R5/8 赤 (B)5YR5/6 明赤褐 4/2灰褐	脚高が長い	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (B) 胴毛調整
SB-94 37図 -21	鉢 甕生	口径(16.8) 器高 底径 口縁~底部	8.5 6.4	胎: 石英、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5R4/4にぶい赤 (B)10R5/6 赤	体部は逆「ハ」の字状に開く	(A) ヘラケズリの後ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (B) ヘラケズリの後ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-94 37図 -22	鉢 甕生	口径 器高 底径 底部一部欠	14.5 7.5 7.0	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/8 赤 (B)10R4/8 赤	体部は逆「ハ」の字状に開く	(A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (B) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-94 37図 -23	鉢 甕生	口径 器高 底径 口縁~底部	15.6 9.3 5.4	胎: 石英、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR5/6 明赤褐 (B)10R4/8 赤	体部は逆「ハ」の字状に直線的に開く	(A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (B) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-94 37図 -24	鉢 甕生	口径 器高 底径 完存	7.5 4.6 4.0	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤 (B)10R4/6 赤	小型の鉢	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (B) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-94 37図 -25	鉢 甕生	口径 残高 底径 底~体部	7.5 8.0	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR6/6 橙 (B)10R5/6 赤	平底	(A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (B) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-94 37図 -26	鉢 甕生	口径 残高 底径	2.1 5.2	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R5/8 赤 (B)10R3/6 暗赤	平底	(A) ヘラミガキ 赤色塗彩 (B) ヘラミガキ 赤色塗彩
SB-94 37図 -27	甕 甕生	口径 残高 底径 脚~底部	4.0 7.8	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR4/4 褐 (B)7.5YR4/4 褐	底部に1孔を穿つ	(A) ナデ (B) ヘラケズリ ナデ
SB-94 37図 -28	蓋 甕生	抓径 残高 底径 接合部 筋部欠	6.1 11.0	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR5/4 にぶい褐 (B)5YR6/6 橙	天井部に1孔を穿つ	(A) タテのヘラミガキ (B) ヨコのヘラミガキ
SB-94 37図 -29	蓋 甕生	抓径 残高 底径 筋~体部	6.2 7.9	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR6/4 にぶい褐 (B)7.5YR5/4 にぶい褐	抓部より開く	(A) (B)
SB-94 37図 -30	蓋 甕生	抓径 残高 底径 接合部 抓部	5.4 4.3	胎: 雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR6/6 橙 (B)5YR6/6 橙	天井部に1孔を穿つ	(A) (B) 外面に付着物
SB-94 37図 -31	蓋 甕生	抓径(6.8) 残高 底径 接合部 抓部	5.1	胎: 雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR3/4 暗赤褐 (B)5YR5/4 にぶい赤褐		(A) タテのヘラミガキ (B) ヘラケズリ
SB-94 37図 -32	蓋 甕生	抓径 残高 底径 接合部 抓部	3.8 3.5	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR5/4 にぶい赤褐 (B)5YR4/6 赤褐	小型の蓋	(A) ヘラケズリ ナデ (B) ナデ
SB-94 37図 -33	甕 甕生	口径 器高 底径 ほぼ完存	25.2 31.7 10.0	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 (B)5YR5/4 にぶい赤褐	口縁部は長く緩く外反し、口径は胴最大径より小さい。胴は張り、中位で最大径をとる	(A) 頸部2止め紐が8分割する 腰状文 帯指波状文 (B) 口縁部ヨコミガキ
SB-94 37図 -34	甕 甕生	口径(27.0) 残高 底径 口縁~胴部	16.5	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR5/3にぶい褐 4/1褐灰 (B)7.5YR5/4 にぶい褐	口縁部は長く外反する	(A) 頸部腰状文 帯指波状文 (B) 胴毛調整の後ヨコのヘラミガキ

第 19 表 土器観察表 ( 11 )

品目番号 図版NO	器種 種類	法 様	量 存	器 質	成 形 ・ 形 態 ほ か	装 形 ほ か
SB-94 37図 -35	甕 弥生	口径 残高 底径 口縁→胴部	13.8 9.3 10.1 口縁→胴部	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/3 にぶい赤褐 (A)5YR4/3 にぶい赤褐	口縁部は短く外反する	(A) 頸部2連止めの襷状文 襷描波状文 (B) 刷毛調整の後ヘラミガキが 施されたと思われる
SB-94 37図 -36	甕 弥生	口径(2.6.0) 残高 底径 口縁→胴部	10.1 10.1 10.1 口縁→胴部	胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10YR4/1褐灰 (A)7.5YR4/1 褐灰	口縁部は緩やかに外反する	(A) 頸部2連止めの襷状文 襷描波状文 (B) ヨコのヘラミガキ
SB-94 37図 -37	甕 弥生	口径(31.0) 残高 底径 口縁→胴部	22.1 22.1 22.1 口縁→胴部	胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐	口縁部は長く大きく外反し、 胴部は強く張る	(A) 頸部2連止めの襷状文 襷描波状文 (B)
SB-94 37図 -38	甕 弥生	口径 残高 底径 口縁→胴部	27.0 7.8 7.8 頸→底部	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/4 にぶい赤褐 (A)5YR5/4 にぶい赤褐	胴部は張りがある	(A) 頸部2連止めの襷状文 襷描波状文 (B) 刷毛調整、ヘラケズリの後 ヘラミガキ
SB-94 37図 -39	甕 弥生	口径(11.0) 残高 底径 口縁部1/4	5.6 5.6 5.6 口縁部1/4	胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/4 にぶい赤褐 (A)5YR6/4 にぶい橙	外反する口縁部	(A) 頸部2連止めの襷状文 襷描波状文 (B)
SB-94 37図 -40	甕 弥生	口径 残高 底径 完存	16.8 19.7 6.0 完存	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR3/2 暗赤褐 (A)5YR3/4 暗赤褐	口縁部は長く緩く外反する 口径は胴最大径より大きく、 胴最大径は中位にある	(A) 口縁→胴部上位襷描波状文 襷描波状文 (B) ヘラケズリの後ヨコのヘラ ミガキ
SB-94 37図 -41	甕 弥生	口径(15.4) 残高 底径 口縁→胴部	13.8 13.8 6.0 口縁→胴部	胎:石英、雲母、礫、粗砂粒 焼:良好 色:(A)5YR4/3 にぶい赤褐 (A)5YR4/3 にぶい赤褐	口縁部は長く反りが小さい	(A) 襷描波状文 (B) 刷毛調整の後ヨコのヘラミ ガキ
SB-94 37図 -42	甕 弥生	口径(14.4) 残高 底径 口縁→胴部	13.2 13.2 6.0 口縁→胴部	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/6 赤褐 (A)5YR4/3 にぶい赤褐	口径は胴最大径より大きい	(A) 襷描波状文 (B) ヨコのヘラミガキ
SB-94 37図 -43	甕 弥生	口径(23.0) 残高 底径 口縁部一部	7.7 7.7 7.7 口縁部一部	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 (A)5YR4/6 赤褐	口縁部を外側に折り返す	(A) 襷描波状文 (B) ヨコのヘラミガキ
SB-94 37図 -44	甕 弥生	口径 残高 底径 胴→底部	12.2 8.2 8.2 胴→底部	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/6 赤褐 (A)7.5YR4/2 灰褐	上げ底ぎみの底部	(A) ヘラケズリの後タテのヘラ ミガキ (B) ヘラケズリの後ヨコのヘラ ミガキ
SB-94 37図 -45	甕 弥生	口径 残高 底径 胴→底部	7.2 7.5 7.5 胴→底部	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/2 灰褐	平底	(A) タテのヘラミガキ (B) ヘラケズリの後ヘラミガキ
SB-94 37図 -46	甕 弥生	口径 残高 底径 底部	3.0 8.0 8.0 底部	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR7/6 橙 (A)10YR7/3 にぶい黄橙	平底	(A) タテのヘラミガキ (B) ヨコのヘラミガキ ナデ
SB-94 37図 -47	台付 甕 弥生	口径(9.2) 残高 底径 口縁→胴部	10.7 10.7 6.0 口縁→胴部	胎:雲母、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR6/3 にぶい褐 (A)2.5Y3/1黒褐	浅い体部に台を付す	(A) 体部襷描波状文 胴部タテのヘラミガキ (B) ヨコのヘラミガキ
SB-94 37図 -48	台付 甕 弥生	口径 残高 底径 脚部	6.5 8.4 8.4 脚部	胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐	短く「ハ」の字状に開く脚部	(A) タテのヘラミガキ (B) 体部ヘラミガキ 脚部ヘラケズリ
SB-94 37図 -49	台付 甕 弥生	口径 残高 底径 脚部	7.9 10.4 10.4 脚部	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR3/4 暗赤褐 (A)2.5YR4/6 赤褐	短く「ハ」の字状に開く脚部	(A) ヘラミガキ (B) 体部ヘラミガキ 脚部ヘラケズリ ナデ
SB-94 37図 -50	台付 甕 弥生	口径 残高 底径 脚部	6.8 8.8 8.8 脚部	胎:石英、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR6/6 橙 (A)5YR5/6 明赤褐	短く、開きの小さい脚部	(A) ヘラミガキ (B) 体部ヘラミガキ 脚部ヘラケズリ

第20表 土器観察表(12)

器種 器名	器種 分類	法 規	量 存	器 質	成 形 ・ 形 態 ほ か	整 形 ほ か
SB-94 37図 -51	台付 甕 弥生	口径 残高 底径 脚部1/2	5.6 8.8 2.2	胎: 礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR6/6 橙 (A)7.5YR6/8	短く「ハ」の字状に開く脚部	(A) ヘラケズリの後ヘラミガキ (B) 体部ヘラミガキ 脚部ヘラケズリ ナデ
SB-94 37図 -52	台付 甕 弥生	口径 残高 底径 脚部	5.8 8.4	胎: 石英、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR5/8 明褐 (A)2.5YR5/8	短く「ハ」の字状に開く脚部	(A) ヘラミガキ (B) 体部ヘラミガキ 脚部ヘラケズリ ナデ
SB-95 38図-1	壺 弥生	口径 残高 底径 口縁～胴部	19.8 12.9 6.4	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤 2.5YR5/6 暗褐	口縁は短く、胴部より屈曲して外反する口縁は小さい	(A) 頸部T字文 口縁部タテの、胴上半部ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (B) 口縁部ヨコのヘラミガキ、赤色塗彩
SB-95 38図-2	壺 弥生	口径 残高 底径 頸部	8.4	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 (A)5YR5/6 明赤褐	頸部に蹄状の突帯を付す	(A) 刷毛調整 (B) ケズリ ミガキ
SB-95 38図-3	壺 弥生	口径 残高 底径 胴～底部	10.9 6.4	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)5YR6/6 橙	丸みのある胴部	(A) ヨコ及びタテのヘラミガキ 赤色塗彩 (B) ヨコのヘラミガキ
SB-95 38図-4	鉢 弥生	口径 残高 底径 口縁～体部	23.0 8.3 11.5	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/4 におい橙 (A)5YR5/6 明赤褐	体部は逆「ハ」の字状に開く 口縁部は小さく内湾する	(A) ヘラケズリ ヘラミガキ (B) ヘラケズリ ヘラミガキ
SB-95 38図-5	鉢 弥生	口径 残高 底径 胴部	2.4 (6.2)	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR5/8 明赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (B) ヘラミガキ 赤色塗彩
SB-95 38図-6	鉢 弥生	口径 残高 底径 底部	1.9 (4.0)	胎: 雲母、微砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR4/6 赤褐 (A)2.5YR4/6 赤褐	平底	(A) ミガキ 赤色塗彩 (B) ミガキ 赤色塗彩
SB-95 38図-7	甕 弥生	口径 残高 底径 底部	6.2 7.4	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR5/4 におい赤褐 (A)5YR5/4 におい赤褐	底部に1孔を穿つ	(A) ヘラケズリの後ヨコのヘラミガキ (B) ヘラケズリの後タテのヘラミガキ
SB-95 38図-8	甕 弥生	口径 残高 底径 底部	3.3 5.5	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR4/1 褐灰 (A)5YR5/6 明赤褐	底部に1孔を穿つ	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ
SB-95 38図-9	蓋 弥生	口径 残高 底径 爪部	4.8 8.8	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR3/1 黒褐 (A)7.5YR3/1 黒褐		(A) ケズリの後タテのミガキ (B) ケズリの後ヨコのミガキ
SB-95 38図 -10	蓋 弥生	口径 残高 底径 爪部	4.4 4.1	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/4 におい橙 (A)5YR6/4 におい橙 3/1黒褐	天井部に1孔を穿つ	(A) ヘラケズリ ヘラミガキ (B) 刷毛調整 ヘラミガキ
SB-95 38図 -11	甕 弥生	口径(24.0) 残高 底径 口縁部一部	7.8	胎: 雲母、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 5/22灰褐 (A)5YR6/6 橙	口縁部を折り返している	(A) 櫛溝波状文 (B) ヨコのヘラミガキ
SB-95 38図 -12	甕 弥生	口径 残高 底径 口縁部一部	3.2	胎: 礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/8 橙 (A)5YR6/8 橙	口縁部を折り返している	(A) 櫛溝波状文 (B) ヨコのミガキ
SB-95 38図 -13	甕 弥生	口径 残高 底径 口縁部一部	3.0	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR6/4 におい橙 (A)7.5YR6/4 におい橙	口縁部を折り返している	(A) 櫛溝波状文 (B) ミガキ
SB-96 39図-1	高环 弥生	口径 残高 底径 接合～脚部	5.6	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤 (A)2.5YR4/6 赤褐		(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (B) ナデ 環部表面剥落

第 2 1 表 土器観察表 ( 1 3 )

出土集 図版NO	器種 種類	法 残	量 存	器 質	成 形 ・ 形 態 ほ か	整 形 ほ か
SB-96 39図-2	高坏 弥生	口径 残高 底径 接合—脚部	4.5	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤褐 (A)5YR4/8 赤褐		(K) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ナデ 坏部表面剥落
SB-96 39図-3	高坏 弥生	口径 残高 底径 接合—脚部	9.5 15.5	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤褐 (A)5YR7/4 にぶい橙	脚部は開き小さく、先端で折れて基部に至る	(K) ヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 刷毛調整
SB-96 39図-4	鉢 弥生	口径(16.0) 器高 底径 口縁—底部	5.7 4.0	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/4 赤褐 (A)10R4/6 赤	体部は逆「ハ」の字状に開口縁部で折れて直立する	(K) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-96 39図-5	蓋 弥生	抓径 残高 接合 抓部	(4.4) 3.7	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR4/4 にぶい赤褐 (A)5YR5/4 にぶい赤褐	天井部に1孔を穿つ	(K) (A)
SB-96 39図-6	甕 弥生	口径 残高 底径 口縁—底部	3.2 7.1	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR3/6 暗赤褐 (A)2.5YR4/6 赤褐	平底	(K) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ
SB-97 40図-1	甕 弥生	口径 残高 底径 頸—底部	21.6 6.0	胎: 雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10YR4/1褐灰 (A)10YR4/3にぶい黄褐	胴部は強く張る	(K) 櫛描波状文 胴下半部タテのヘラミガキ (A) 刷毛調整の後ヨコのヘラミガキ
SB-97 40図-2	甕 弥生	口径 残高 底径 頸—底部	12.7 5.8	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR6/4 にぶい橙 (A)7.5YR6/6 橙	胴部は強く張る	(K) 頸部? 連止めの櫛状文 櫛描波状文を上から下へ施す 胴下半部タテのヘラミガキ (A) ヘラケズリの後ナデ
SB-98 41図-1	蓋 弥生	抓径 残高 接合 抓部	(3.9) 5.2	胎: 石英、雲母、微砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤 (A)10R3/6 暗赤	天井部に1孔を穿つ	(K) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SB-98 41図-2	甕 弥生	口径 残高 底径 底部	2.0 6.2	胎: 石英、雲母、微砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR2/1 黒褐 (A)7.5YR3/1 黒褐	平底	(K) (A) 黒色を呈する
SD-06 42図-1	甕 弥生	口径(31.0) 残高 底径 口縁部—部	3.7	胎: 石英、雲母、微砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 (A)5YR6/6 橙	外反する口縁部	(K) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩
SD-06 42図-2	甕 弥生	口径 残高 底径 底部	5.0 5.2	胎: 雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR5/6 明赤褐 4/1褐灰 (A)7.5YR5/4 にぶい褐	底部に1孔を穿つ	(K) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ
SD-06 42図-3	蓋 弥生	抓径 残高 接合 抓部	6.0 2.7	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR4/6 赤褐 (A)5YR5/3 にぶい赤褐		(K) (A)
SD-06 42図-4	蓋 弥生	抓径 残高 接合 抓部	(4.2) 2.0	胎: 石英、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 (A)5YR5/6 明赤褐	天井部に1孔を穿つ	(K) (A)
SD-06 42図-5	甕 弥生	口径(9.2) 残高 底径 口縁部—部	2.5	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10YR6/3にぶい黄橙 (A)10YR3/2黒褐		(K) 櫛描波状文 (A)
SD-06 42図-6	甕 弥生	口径 残高 底径 口縁部—部	2.9	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐	口縁部を折り返している	(K) (A)
SD-06 42図-7	甕 弥生	口径 残高 底径 底部—部	4.6 (6.2)	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR5/4 にぶい橙 (A)7.5YR5/4 にぶい橙	平底	(K) (A)

第22表 土器観察表(14)



調査年度	器種	法残	量存	器	質	成形	整	か	出土
NO	種類					形	形		地点
						態	態		
SE-01	壺	口径(19.1) 残高(28.5) 底径 6.2 口縁~底部		胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)10R4/6 赤 (A)10R4/6赤 10YR7/4R黄緑		口縁部は外反する	(A) 頸部T字文 口縁、胴下部タテの類、胴上半部ヨコのヘラミガキ、赤色 (A) 胴毛調整の後ヨコのヘラミガキ 口縁部赤色塗彩		上半部
43図-1	甕生								
SE-01	壺	口径(18.6) 残高 23.0 底径 口縁~胴部		胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)10R4/6 赤 (A)10R4/6赤 2.5YR5/6橙		口縁は短く小さく外反する 胴下半部にくびれがない	(A) 頸部T字文 口縁部タテの、胴部ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 口縁部ヨコのヘラミガキ、赤色塗彩		木枠外
43図-2	甕生								
SE-01	壺	口径(12.8) 残高 14.6 底径 口縁~胴部		胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)5YR5/4 ぶい赤褐 (A)5YR5/4 ぶい赤褐			(A) 頸部T字文 口縁部タテの、胴部ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 口縁部赤色塗彩		井戸底
43図-3	甕生								
SE-01	壺	口径(20.0) 残高 6.3 底径 口縁部一部		胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐		大きく開く口縁	(A) 頸部T字文 タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩		上半部
43図-4	甕生								
SE-01	壺	口径 9.8 残高 4.4 底径 頸部一部		胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)10R3/6 暗赤 (A)10R3/6 暗赤			(A) 頸部T字文 タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 口縁部赤色塗彩		下半部 上部
43図-5	甕生								
SE-01	壺	口径 12.5 残高 頸部~胴部		胎:粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)5YR4/4 ぶい赤褐 (A)5YR4/3 ぶい赤褐			(A) 頸部T字文 タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ナデ 胴毛調整		井戸底
43図-6	甕生								
SE-01	壺	口径 10.5 残高 頸部一部		胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)2.5YR4/6 赤褐 (A)5YR6/6 橙			(A) 頸部T字文 ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 胴毛調整		上半部
43図-7	甕生								
SE-01	壺	口径 26.4 残高 8.0 底径 頸部~底部		胎:雲母、礫、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)2.5YR4/6 赤褐 (A)2.5YR5/1 赤灰		胴部は下半部に最大径をもつ	(A) 頸部T字文 タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヘラケズリ ナデ 外面に付着物		下半部
43図-8	甕生								
SE-01	壺	口径 9.8 残高 16.3 底径 4.4 ほぼ完存		胎:粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)5YR6/4 ぶい橙 (A)7.5YR6/6 橙		口縁部は短く胴下半部に鋭いくびれをもつ	(A) 頸部T字文 タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 口縁部ヨコヘラミガキ 胴部胴毛調整 胴部に焼成後1孔を穿つ		井戸底
43図-9	甕生								
SE-01	壺	口径 6.0 残高 底径 頸部1/4		胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐			(A) 頸部3進止めの帯状文様 胴部ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 口縁部赤色塗彩 16と同一胴体の可能性あり		上半部
43図-10	甕生								
SE-01	壺	口径 24.7 残高 底径 頸部~胴部		胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)5YR6/6 橙 (A)5YR6/6 橙		いちじく形を呈する	(A) ヘラミガキ 頸部帯状直線文 (A) 胴毛調整 ヘラケズリ		上半部
43図-11	甕生								
SE-01	壺	口径 6.6 残高 底径 頸部一部		胎:石英、雲母、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)5YR4/4 ぶい赤褐 (A)5YR4/4 ぶい赤褐			(A) 頸部直線帯状文 ヨコのヘラミガキ (A) 口縁部ヨコのヘラミガキ		井戸底
43図-12	甕生								
SE-01	壺	口径 9.0 残高 底径 頸部~胴部		胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 5/2R赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐			(A) ヘラケズリの後ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヘラケズリの後ヨコのヘラミガキ 口縁部赤色塗彩		上半部
43図-13	甕生								
SE-01	壺	口径 22.1 残高 7.2 底径 頸部~胴部		胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)5YR5/4 ぶい赤褐 (A)5YR5/4 ぶい赤褐		胴部は下半部に最大径をもつ	(A) タテのヘラミガキ (A) ナデ		下半部 上部
43図-14	甕生								
SE-01	壺	口径 16.5 残高 7.0 底径 胴~底部		胎:石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)5YR6/4 ぶい橙 (A)5YR6/4 ぶい橙			(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 胴毛調整 ヨコのヘラミガキ 内外面に付着物		上半部
43図-15	甕生								
SE-01	壺	口径 14.1 残高 6.0 底径 胴~底部		胎:石英、礫、粗砂粒を含む 焼色:良好 色:(A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐			(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 10と同一胴体の可能性あり		上半部
43図-16	甕生								

第23表 土器観察表(15)

出土層 図版No.	器種 種類	法残 類	量 存	器 質	成形・形態ほか	整 形 ほ か	出 地 上 点
SE-01 43図 -17	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	13.8 6.4	胎:石莖、雲母、粗砂粒並 焼色: (A)2.5YR4/6 赤褐 (A)5YR5/4 におい赤褐	甕形を呈する	(A) タテのヘラミガキ 赤色焼彩 (B) 刷毛調整 外面に付着物	下半部 の上部
SE-01 43図 -18	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	11.5 (8.0)	胎:石莖、礫、粗砂粒を含む 焼色: (A)10R4/8 赤 褐 (A)5YR6/6	平底	(A) タテのヘラミガキ 赤色焼彩 (B) 刷毛調整	上半部
SE-01 43図 -19	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	9.0 6.8	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 焼色: (A)5YR5/3 におい赤褐 (A)7.5YR6/3 におい褐	平底 胴下半部は若干 くびれている	(A) タテのヘラミガキ 赤色焼彩 (B) 刷毛調整	井戸底
SE-01 43図 -20	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	10.4 6.4	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼色: (A)5YR4/6 赤褐 (A)5YR4/4 におい赤褐	平底	(A) 赤色焼彩 (B) 刷毛調整 ナデ ヘラケズリ	井戸底
SE-01 43図 -21	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	5.8 9.0	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 焼色: (A)5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ 赤色焼彩 (B) ヘラケズリ	上半部
SE-01 43図 -22	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	6.2 6.4	胎:石莖、雲母、微砂粒を含む 焼色: (A)10R3/6 暗赤 (A)5YR5/4 におい赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ 赤色焼彩 (B) ヘラケズリ 刷毛調整	井戸底
SE-01 43図 -23	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	5.8 6.4	胎:粗砂粒を含む 焼色: (A)5YR3/6 暗赤褐 (A)5YR4/6 赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ 赤色焼彩 (B) 刷毛調整 ヘラケズリ	木枠外
SE-01 43図 -24	壺 弥生	口径 残高 底径 底部	3.4 4.0	胎:雲母、粗砂粒を含む 焼色: (A)10R4/6 赤 (A)5YR4/4 におい赤褐	小型の壺	(A) ヘラミガキ 赤色焼彩 (B) ナデ	上半部
SE-01 43図 -25	壺 弥生	口径 残高 底径 底部	3.3 6.0	胎:粗砂粒を含む 焼色: (A)5YR4/4 におい赤褐 (A)5YR6/4 におい褐	平底で胴下半部 は外反している 割れ口を粗く研 磨している	(A) タテのヘラミガキ 赤色焼彩 (B) 刷毛調整	井戸底
SE-01 43図 -26	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	8.6 5.2	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 焼色: (A)7.5YR6/6 橙 (A)7.5YR6/3 におい褐		(A) ヘラケズリの後ヘラミガキ (B) 刷毛調整 ヘラケズリ	下半部 の上部
SE-01 43図 -27	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	8.9 7.6	胎:石莖、礫、粗砂粒を含む 焼色: (A)7.5YR5/4 におい赤褐 (A)7.5YR6/3 におい褐	平底	(A) 胴部から底部までよく磨かれて いる(タテのミガキ) (B) ナデ	下半部
SE-01 43図 -28	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	8.5 6.0	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 焼色: (A)5YR2/1 黒褐 (A)5YR5/4 におい赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ (B) ヘラケズリ、刷毛調整 外面に煤が付着	井戸中
SE-01 43図 -29	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	5.1 7.4	胎:石莖、雲母、礫、粗砂粒並 焼色: (A)7.5YR5/4 におい褐 (A)5YR4/1 褐灰	平底	(A) タテのヘラミガキ(胴~底部) (B) ヨコのヘラミガキ	上半部
SE-01 43図 -30	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	6.1 6.0	胎:粗砂粒を含む 焼色: (A)7.5YR5/3 におい褐 (A)5YR4/4 におい赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ (B) ヘラミガキ 刷毛調整	井戸底
SE-01 43図 -31	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	11.6 5.6	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 焼色: (A)5YR5/4 におい赤褐 (A)7.5YR5/4 におい褐	平底	(A) タテのヘラミガキ (B) 刷毛調整 ナデ	井戸底
SE-01 43図 -32	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	9.1 4.8	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 焼色: (A)10R4/3 赤褐 (A)7.5YR5/2 灰褐	体部は扁平で、 胴に張りがある	(A) タテのヘラミガキ 赤色焼彩 (B) 刷毛調整 ヘラケズリ	井戸底

第24表 土器観察表(16)

目録番号 図版No	器種 種類	法 規	量 存	器 質	成形・形態ほか	装 形 ほ か	出 土 点
SE-01 43図 -33	壺 甕生	口径 残高 底径 胴～底部	6.5 3.0	胎: 細砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10YR7/2にぶい黄褐色 (A)10YR7/2にぶい黄褐色	体部は扁平で、 上げ底の底部 小型の壺	(A) ヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 刷毛ナデ 赤色塗彩	井戸底
SE-01 43図 -34	壺 甕生	口径(10.8) 残高 底径 口縁部一部	2.7	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤	口縁部先端が屈 折して立つ	(A) ヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヘラミガキ 赤色塗彩	井戸底
SE-01 43図 -35	壺 甕生	口径 残高 底径 頸部一部	3.7	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒 焼: 良好 色: (A)5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐		(A) 頸部ヘラ描き羽状文 (A) 刷毛調整	下半部 の上部
SE-01 43図 -36	壺 甕生	口径 残高 底径 口縁部一部	2.4	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR4/1 褐灰 (A)5YR4/1 褐灰	口縁部先端が屈 折して立つ	(A) ヘラ描き沈文 櫛描波状文 (A)	井戸底
SE-01 43図 -37	壺 甕生	口径(14.2) 器高 底径 口縁～底部	21.6 7.0	胎: 石英、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R5/6 赤 (A)10R5/6 赤 5YR6/6 橙	胴部下半部に最大 径をもつ	(A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 口縁部ヨコのヘラミガキ、赤色 塗彩 刷毛調整	下半部
SE-01 43図 -38	壺 甕生	口径(14.0) 器高 底径 口縁～底部	17.5 6.8	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR3/2 暗赤褐 (A)5YR3/4 にぶい赤褐	壺形を呈する	(A) タテのヘラミガキ (A) ナデ	井戸底
SE-01 43図 -39	壺 甕生	口径(15.0) 残高 底径 口縁～胴部	9.7	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR5/3にぶい黒 N2/黒 (A)N2/黒		(A) 刷毛調整の後タテのヘラミガキ (A) 口縁部ヨコのヘラミガキ 胴部斜位のヘラミガキ	井戸底
SE-01 43図 -40	壺 甕生	口径(11.6) 残高 底径 口縁部一部	8.8	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR5/4 にぶい赤褐 (A)5YR5/4 にぶい赤褐		(A) タテのヘラミガキ (A) 口縁部ヨコのヘラミガキ 胴部ヘラケズリ	井戸底
SE-01 43図 -41	壺 甕生	口径(11.0) 残高 底径 口縁部一部	6.3	胎: 石英、金雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR4/3 にぶい赤褐 (A)5YR4/6 赤褐	粘土結核み上げ	(A) ヨコのヘラミガキ (A) 口縁部ヨコのヘラミガキ 胴部ナデ	井戸底
SE-01 43図 -42	壺 甕生	口径(14.8) 残高 底径 口縁部一部	5.2	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒 焼: 良好 色: (A)5YR5/4 にぶい赤褐 (A)5YR5/4 にぶい赤褐	大きく開く口縁 部	(A) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ	下半部 の上部
SE-01 43図 -43	壺 甕生	口径(10.8) 残高 底径 口縁～胴部	9.8	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒 焼: 良好 色: (A)10YR7/4にぶい黄褐色 (A)7.5YR6/6 橙	口縁部は折り返 す	(A) 刷毛調整 (A) 刷毛調整	下半部 の上部
SE-01 43図 -44	壺 甕生	口径(14.0) 残高 底径 口縁部一部	5.7	胎: 雲母、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/4 にぶい橙 (A)5YR6/4 にぶい橙	口縁部は折り返 す	(A) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ	上半部
SE-01 43図 -45	壺 甕生	口径 器高 底径 口縁～底部	10.2 12.4 4.0	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒 焼: 良好 色: (A)7.5YR5/3にぶい褐 4/1褐灰 (A)7.5YR5/3にぶい褐 4/1褐灰	壺形を呈する	(A) ヘラケズリの後タテのヘラミガ キ (A) ヨコのヘラミガキ ナデ 両面に赤彩を施していた可能性あり	下半部
SE-01 43図 -46	壺 甕生	口径 残高 底径 頸～底部	25.0 7.6	胎: 石英、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 (A)5YR6/6 橙	頸部に6か所の 孔が穿たれてい ると思われる	(A) タテのヘラミガキ (A) 刷毛調整の後ヨコのヘラミガキ 外面に付着物	上半部
SE-01 43図 -47	壺 甕生	口径 残高 底径 胴部一部	11.5	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/4 にぶい橙 (A)5YR6/6 橙		(A) 刷毛調整 (A) 刷毛調整 ヘラケズリ	上半部
SE-01 43図 -48	壺 甕生	口径 残高 底径 胴部一部	12.2	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR4/3 にぶい赤褐 (A)5YR5/4 にぶい赤褐		(A) ヘラケズリの後ミガキ (A) ナデ	井戸底

第25表 土器観察表(17)

土器 図式NO	器種 種類	法 残	量 存	器 質	成形・形態ほか	整 形 ほ か	出 土 点
SE-01 43図 -49	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~胴部	15.8 15.8	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/4 におい橙 (A)5YR6/4 におい橙	胴部はそろばん玉状に屈曲する	(A) 刷毛調整 ヘラケズリ (A) 刷毛調整	上半部
SE-01 43図 -50	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	14.1 14.1 5.6	胎: 雲母、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR5/4 におい赤褐 (A)5YR5/4 におい赤褐		(A) タテのヘラミガキ (A) ケズリ ナデ	下半部 の上部
SE-01 43図 -51	壺 弥生	口径 残高 底径 胴部2/3	17.8	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR5/4 におい褐 (A)7.5YR5/4 におい褐	胴部の最大径は下部にある	(A) タテのヘラミガキ (A) 刷毛調整 ナデ	井戸底 木枠外
SE-01 43図 -52	壺 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	14.3 14.3 6.6	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10YR4/1褐灰 (A)10YR4/1褐灰	胴部の最大径は上部にある	(A) タテのヘラミガキ (A) 刷毛調整 ナデ	上半部
SE-01 43図 -53	壺 弥生	口径 残高 底径 頸~底部	18.6 18.6 7.2	胎: 石英、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR5/3 におい褐 2/1黒 (A)7.5YR5/3 におい褐	頸部に鐮状の突起を持つ	(A) 斜位のヘラミガキ 頸部刷毛調整 (A) 頸部ヨコのヘラミガキ 胴部ナデ	井戸底
SE-01 43図 -54	壺 弥生	口径 残高 底径 頸~胴部	9.2	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR4/3 におい赤褐 (A)2.5YR4/3 におい赤褐	頸部に鐮状の突起を持つ	(A) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ	井戸底
SE-01 43図 -55	壺 弥生	口径 残高 底径 頸部一部	3.0	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR4/6 赤褐 (A)5YR3/6 暗赤褐	頸部に鐮状の突起を持つ	(A) ヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ	井戸底
SE-01 43図 -56	壺 弥生	口径 残高 底径 胴部一部	8.0	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR6/6 橙 4/1褐灰 (A)5YR6/6 橙	頸部に鐮状の突起を持つ	(A) 刷毛調整 (A) ヘラミガキ	上半部
SE-01 43図 -57	壺 弥生	口径 残高 底径 頸~底部	8.3	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)5YR5/6 明赤褐 R3/暗灰 (A)5YR5/6 明赤褐	小型の壺	(A) 櫛掻波状文 ヨコのヘラミガキ (A) ナデ	下半部
SE-01 43図 -58	壺 弥生	口径 残高 底径 頸~底部	12.7 12.7 4.4	胎: 石英、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5YR4/3 褐 (A)7.5YR5/3 褐	丸みのある体部	(A) ヘラケズリ (A) ヘラケズリ ナデ	下半部 の上部
SE-01 43図 -59	深鉢 弥生	口径 器高 底径 口縁~底部	18.4 17.6 6.0	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)7.5R3/3暗赤褐 (A)7.5R2/1赤黒	壺形を呈する	(A) 頸部に等速止めの櫛状文 ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 口縁部ヨコのヘラミガキ、赤色 塗彩 ヘラケズリ 刷毛調整	井戸底
SE-01 43図 -60	深鉢 弥生	口径 残高 底径 胴部一部	9.7	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/4 赤褐 (A)10R4/4 赤褐 2.5YR5/4赤黒		(A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 頸部に櫛掻波状文 (A) 口縁部赤色塗彩 ヨコのヘラミ ガキ 内外面に付着物	上半部
SE-01 43図 -61	深鉢 弥生	口径(12.4) 器高 底径 口縁~底部	10.3 10.3 4.7	胎: 石英、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/4 赤褐 (A)10R4/4 赤褐	壺形を呈する	(A) 口縁部ヨコの、体部タテのヘラ ミガキ 赤色塗彩 (A) ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 内面に付着物	上半部
SE-01 43図 -62	深鉢 弥生	口径(10.0) 器高 底径 口縁~底部	15.3 15.3 5.0	胎: 石英、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R5/6 赤 (A)10R5/6 赤 5YR6/6橙		(A) タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A) 口縁部ヨコのヘラミガキ、赤色 塗彩 胴部ナデ	下半部
SE-01 43図 -63	深鉢 弥生	口径(18.6) 残高 底径 口縁~胴部	14.9	胎: 石英、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)2.5YR4/6 赤褐 (A)2.5YR4/6 赤褐	壺形を呈する	(A) 口縁部タテの、体部ヨコのヘラ ミガキ 赤色塗彩 (A) 口縁部赤色塗彩 ヨコのヘラミガキ	上半部
SE-01 43図 -64	深鉢 弥生	口径 残高 底径 口縁部一部	2.8	胎: 雲母、礫、粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (A)10R4/4 赤褐 (A)10R4/4 赤褐	口縁部に2孔を穿つ	(A) ヘラミガキ 赤色塗彩 (A) ヘラミガキ 赤色塗彩	上半部

第26表 土器観察表(18)

土器 図版NO	器種 種類	法 式	寸 法	器 質	成形・形態ほか	装 飾 形 式	出 土 地 点
SE-01 4389 -65	深鉢 弥生	口徑残高底径 3.2 口縁部	胎色: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)2.5YR5/4 におい赤褐 (A)2.5YR5/4 におい赤褐	口縁部に2孔を穿つ	(K)ヘラミガキ 赤色塗彩痕 (A)ヘラミガキ 赤色塗彩痕	下半部 の上部	
SE-01 4390 -66	ミニ テア 弥生	口徑(6.0)残高(3.0)底径(3.6)口縁~底部	胎色: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)7.5YR5/4 におい褐 (A)7.5YR5/4 におい褐	鉢形を呈する 手づくね	(K)ナデ (A)ナデ	上半部	
SE-01 4391 -67	高坏 弥生	口徑残高底径 4.6 胴部	胎色: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)5YR5/4 におい赤褐 (A)5YR5/4 におい赤褐		(K)ヘラミガキ (A)坏部ヘラミガキ 胴部ナデ	上半部	
SE-01 4392 -68	鉢 弥生	口徑残高底径 14.0 6.2 口縁~体部	胎色: 雲母、粗砂粒を含む 良好 色: (K)10R4/8 赤 (A)10R4/8 赤	体部は逆「ハ」の 字状に開く	(K)タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A)ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 剥落が著しい	下半部 の上部	
SE-01 4393 -69	鉢 弥生	口徑残高底径 (9.2) 3.5 口縁部	胎色: 石英、雲母、粗砂粒を含む 良好 色: (K)10R3/4 暗赤 (A)10R3/4 暗赤	口縁は内湾する	(K)口縁部ヨコの、体部タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A)ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩	木枠外	
SE-01 4394 -70	鉢 弥生	口徑残高底径 5.8 胴部	胎色: 石英、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)5YR6/6 橙	小型の鉢	(K)ヘラミガキ 赤色塗彩 (A)ヘラミガキ 赤色塗彩	上半部	
SE-01 4395 -71	鉢 弥生	口徑残高底径 4.5 3.4	胎色: 粗砂粒を含む 良好 色: (K)10R4/6 赤 (A)10R5/6 赤	平底	(K)タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A)ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩	上半部	
SE-01 4396 -72	鉢 弥生	口徑残高底径 4.8 1/2	胎色: 石英、雲母、粗砂粒を含む 良好 色: (K)10R4/6 赤 (A)10R4/6 赤	体部は逆「ハ」の 字状に開く	(K)タテのヘラミガキ 赤色塗彩 (A)ヨコのヘラミガキ 赤色塗彩 底部は剥落している	下半部 の上部	
SE-01 4397 -73	鉢 弥生	口徑(22.0)残高(12.0)底径口縁~体部	胎色: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)5YR5/4 におい赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐	体部は逆「ハ」の 字状に開く	(K)ヘラミガキ (A)タテのヘラミガキ	下半部 の上部	
SE-01 4398 -74	鉢 弥生	口徑(20.0)残高(8.3)底径口縁~体部	胎色: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)2.5YR5/6 明赤褐 (A)2.5YR5/6 明赤褐	体部は逆「ハ」の 字状に開く	(K)タテのヘラミガキ (A)ヨコのヘラミガキ	下半部 の上部	
SE-01 4399 -75	瓶 弥生	口徑残高底径 5.5 6.0 胴~底部	胎色: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)5YR6/6 橙 (A)5YR6/6 橙	底部に1孔を穿つ	(K)ヘラミガキ (A)ヘラミガキ 内外面に付着物	上半部	
SE-01 4400 -76	瓶 弥生	口徑残高底径 5.6 5.6 胴~底部	胎色: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐	底部に1孔を穿つ	(K)タテのヘラミガキ (A)ヘラケズリの後ヨコのヘラミガキ	上半部	
SE-01 4401 -77	蓋 弥生	抓径残高底径 4.8 5.0 胴~体部	胎色: 石英、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)7.5YR4/3 褐 4/1褐灰 (A)7.5YR4/3 褐	天井部に1孔を穿つ	(K)タテの粗いヘラミガキ (A)	上半部	
SE-01 4402 -78	蓋 弥生	抓径残高底径 (5.4) 4.3 胴~体部	胎色: 石英、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (K)10YR6/4 におい黄橙 (A)10YR6/4 におい黄橙		(K) (A)	上半部	
SE-01 4403 -79	蓋 弥生	抓径残高底径 (4.9) 4.7 胴~体部	胎色: 石英、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)7.5YR6/4 におい褐 (A)7.5YR5/4 におい褐		(K)ヘラミガキ (A)	上半部	
SE-01 4404 -80	壺 弥生	口徑(12.4)残高(7.7)底径口縁~胴部	胎色: 石英、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)7.5YR4/2 灰褐 3/2黒褐 (A)7.5YR3/2 黒褐	口縁部は短く屈曲する	(K)頸部鐘状文 胴部鐘状文 (A)ヨコのヘラミガキ	井戸底	

第27表 土器観察表(19)

土器 図記号	器種 種類	法 残	量 存	器 質	成形・形態ほか	整 形 ほ か	出 土 点
43Ⅳ-81	甕 甕生	口径 残高 底径 口縁部一部	6.0	胎:石莖、雲母を含む 焼:良好 色:(A)0YR5/2灰黄褐 (A)7.5YR5/4 ぶい褐	口脣部に取り かたが施される	(A) 4条1組の櫛描波状文を下から 上へ施す 頸部2連止めの櫛状文 (A) ヨコのヘラミガキ	下半部 の上部
43Ⅳ-82	甕 甕生	口径 残高 底径 口縁部一部	5.7	胎:石莖、雲母、礫、粗砂粒 焼:良好 色:(A)10YR5/4にぶい黄褐 (A)10YR3/1黒褐	外反する口縁部	(A) 櫛描波状文 頸部櫛状文 (A) ヨコのヘラミガキ	上半部
43Ⅳ-83	甕 甕生	口径 残高 底径 口縁部一部	13.0 15.7 5.3 ほぼ完存	胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R5/6 赤 (A)7.5YR4/3 褐	口縁部は短く大 きく外反する割 最大径は器高の 中位にある	(A) 櫛描波状文を下から上へ施す (A) ヘラケズリの後ヨコのヘラミガ キ	下半部
43Ⅳ-84	甕 甕生	口径(14.6) 残高 底径 口縁部	14.6 8.9	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR4/3 にぶい赤褐 (A)5YR4/6 赤褐	口縁部は大きく 外反する	(A) 櫛描波状文 (A) ヨコのヘラミガキ	上半部
43Ⅳ-85	甕 甕生	口径(17.8) 残高 底径 口縁部	17.8 10.7 5.3 口縁部	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR2/2 黒褐 (A)5YR4/4 にぶい赤褐	口縁部は大きく 外反する粘土粒 積み上げ	(A) 櫛描波状文 (A) ヨコのヘラミガキ	下半部 の上部 上半部
43Ⅳ-86	甕 甕生	口径(13.6) 残高 底径 口縁部一部	13.6 4.2	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR5/4 にぶい赤褐 (A)5YR4/2 灰褐	外反する口縁部	(A) 櫛描波状文 (A)	上半部
43Ⅳ-87	甕 甕生	口径(21.4) 残高 底径 口縁部一部	21.4 7.6	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)7.5YR4/3 褐 (A)5YR5/4 にぶい赤褐	外反する口縁部	(A) 櫛描波状文 頸部櫛状文 (A) ヨコのヘラミガキ	上半部
43Ⅳ-88	甕 甕生	口径 残高 底径 口縁部一部	5.1	胎:石莖、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10YR3/1黒褐 2/1黒 (A)10YR2/1黒	短い口縁部	(A) 櫛描波状文 (A) ヨコの精緻なヘラミガキ	下半部
43Ⅳ-89	甕 甕生	口径 残高 底径 口縁部一部	2.8	胎:石莖、雲母、礫、粗砂粒 焼:良好 色:(A)5YR6/8 橙 4/1 褐灰 (A)5YR6/8 橙	折り返し口縁	(A) 櫛描波状文 (A)	上半部
43Ⅳ-90	甕 甕生	口径 残高 底径 口縁部一部	14.0 15.9 7.2	胎:石莖、雲母、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)10R3/6 暗赤 (A)5YR5/4 にぶい赤褐		(A) 口縁部ヨコナデ (A) ナデ 刷毛調整 熱を受けて胴下半部が剥落している 煤が外面に付着している	井戸底
43Ⅳ-91	甕 甕生	口径 残高 底径 胴部	11.5 8.0	胎:石莖、雲母、礫、粗砂粒 焼:良好 色:(A)5YR5/4 にぶい赤褐 (A)5YR5/4 にぶい赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ 内面に付着物	上半部
43Ⅳ-92	甕 甕生	口径 残高 底径 胴部	8.7 7.0	胎:石莖、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR6/4 にぶい橙 (A)5YR6/4 にぶい橙	平底	(A) ヘラケズリの後タテのヘラミガ キ (A) 刷毛調整の後ヨコのヘラミガキ 内面に付着物	上半部
43Ⅳ-93	甕 甕生	口径 残高 底径 胴部	8.3 6.0	胎:石莖、礫、能産、粗砂粒 焼:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ (A) ヘラケズリ 刷毛調整 ヘラミ ガキ 内面に付着物	上半部
43Ⅳ-94	甕 甕生	口径 残高 底径 胴部	8.8 5.6	胎:石莖、礫、粗砂粒を含む 焼:良好 色:(A)5YR6/6 橙 (A)5YR6/6 橙	平底	(A) ナデ (A) ヘラケズリの後タテのヘラミガ キ 内面に付着物	下半部 の上部
43Ⅳ-95	甕 甕生	口径 残高 底径 胴部	6.3 7.0	胎:石莖、雲母、礫、粗砂粒 焼:良好 色:(A)5YR5/6 明赤褐 (A)5YR5/6 明赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ (A) ヘラケズリ 刷毛調整	下半部 の上部
43Ⅳ-96	甕 甕生	口径 残高 底径 胴部	6.3 5.2	胎:石莖、雲母、礫、粗砂粒 焼:良好 色:(A)7.5YR6/4にぶい橙 4/1褐灰 (A)7.5YR4/1 褐灰	平底	(A) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ	下半部

第2/8表 土器観察表(20)

出土遺構 図版NO	器種 種類	法 残	量 存	器 質	成形・形態ほか	整 形 ほ か	出 地 点
SE-01 43図 -97	甕 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	9.3 7.4	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 良好 色: (A)5YR5/4 におい赤褐 (A)5YR5/4 明赤褐	平底	(A) ヘラケズリの後タテのヘラミガキ (B) 刷毛調整 内外面に付着物	上半部
SE-01 43図 -98	甕 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	6.8 7.4	胎: 石英、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)5YR6/4 におい橙 (A)5YR5/6 明赤褐	平底	(A) ヘラケズリの後タテのヘラミガキ (B) ナデ 内面に付着物	下半部 の上部
SE-01 43図 -99	甕 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	7.8 6.4	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 良好 色: (A)5YR3/6 暗赤褐 (A)5YR3/2 暗赤褐	平底	(B) タテのヘラミガキ (A) タテのヘラミガキ	井戸底
SE-01 43図 -100	甕 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	6.6 6.4	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒を含む 良好 色: (A)5YR5/6 暗赤褐 (A)5YR5/6 暗赤褐	平底	(A) タテのヘラミガキ (B) ヘラケズリ 刷毛調整 ヘラミガキ	上半部
SE-01 43図 -101	甕 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	5.3 6.3	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 良好 色: (A)5YR6/6 橙 (A)10YR6/4 におい黄橙	平底	(A) タテのヘラミガキ (B) ヘラケズリ 外面に付着物	下半部 の上部
SE-01 43図 -102	甕 弥生	口径 残高 底径 胴~底部	5.0 6.5	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 良好 色: (A)2.5YR3/3 暗赤褐 (A)2.5YR2/1 赤黒	平底	(A) タテのヘラミガキ (A) ヨコのヘラミガキ	井戸底

第 29 表 土器観察表 (21)

出土遺構 図版 NO	器種 種類	法 残	量 存	均 等	成形・形態ほか	整 形 ・ 調 整 ほ か
SB-96 44図-1	紡錘車 弥生	直径 厚さ 重量 胴~底部	(7.4) 1.6 24.7 1/4	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 良好 色: (A)5YR5/6 明赤褐 (B)5YR5/6 明赤褐		(A) 輪 (B) 輪
SE-01 44図-2	紡錘車 弥生	直径 厚さ 重量 胴~底部	(6.0) 1.9 36.1 1/2	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 良好 色: (A)10YR5/4 におい黄褐 (B)10YR5/4 におい黄褐		(A) ナデ (B) ナデ
SB-85 44図-3	土製円盤 弥生	直径 厚さ 重量 ほぼ完存	5.1 0.7 23.9	胎: 粗砂粒を含む 良好 色: (A)10R4/6 赤 (B)2.5YR5/6 明赤褐		(A) 赤色塗彩 (B) 刷毛調整 土器片を再加工したものである
SB-86 44図-4	土製円盤 弥生	直径 厚さ 重量 ほぼ完存	4.9 0.9 27.4	胎: 粗砂粒を含む 良好 色: (A)5YR4/6 赤褐 (B)2.5YR5/6 明赤褐		(A) 輪描文 (B) 輪 土器片を再加工したものである
SB-88 44図-5	土製円盤 弥生	直径 厚さ 重量 ほぼ完存	4.0 0.5 12.5	胎: 粗砂粒を含む 良好 色: (A)10R4/6 赤 (B)2.5YR5/4 におい赤褐		(A) 赤色塗彩 (B) 刷毛調整 土器片を再加工したものである
SB-88 44図-6	土製円盤 弥生	直径 厚さ 重量 ほぼ完存	4.6 0.8 20.4	胎: 石英、雲母、粗砂粒を含む 良好 色: (A)7.5YR4/6 赤 (B)2.5YR5/6 明赤褐		(A) 赤色塗彩 (B) 刷毛調整 土器片を再加工したものである
SB-95 44図-7	不明 弥生	横 縦 重量 一部	5.0 2.5 20.5	胎: 粗砂粒を含む 良好 色: (A)7.5YR6/3 におい褐 (B)5YR6/6 橙		(A) ケズリ、ナデ (B) 工具による波形文等

第 30 表 紡錘車・土製円盤観察表

図版No.	出土層	種類	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	材質	備考
45図-1	SB-95	石包丁	8.1	4.3	0.6	25.1	流紋岩	一方から1孔が穿たれる
45図-2	SB-91	すり石	11.0	8.1	3.9	529.0	角閃石安山岩	
45図-3	SB-93	すり石	10.4	7.5	4.0	464.0	輝石安山岩	ほぼ全面に長軸に斜めの擦痕あり
45図-4	SE-01	すり石	11.2	5.4	3.9	354.0	輝石安山岩	欠損 ほぼ全面に長軸に斜めあるいは多方向の擦痕あり
45図-5	SB-95	擦、敲石	11.2	5.9	3.7	419.0	輝石安山岩	擦痕の方向は多方向
45図-6	SB-85	凹石	7.9	6.7	3.7	250.0	輝石安山岩	両面に凹みあり
45図-7	SB-91	凹石	7.3	6.6	3.6	198.0	輝石安山岩	両面に凹みあり
45図-8	SB-91	凹石	8.6	8.1	3.5	339.0	輝石安山岩	打撃による凹痕あり
45図-9	SB-87	砥石	13.7	7.5	3.1	462.0	輝石安山岩	砥面は3面で、滑らか多方向に砥かれる

第31表 石器観察表

図版No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	材質	備考
46図-1	137.0	47.0	4.8	ナラ	底辺から22cmの所に径約8cmの孔が穿たれている 底辺から75cmの所にも孔が穿たれていたと思われる
46図-2	107.0	27.0	6.0	ナラ	底辺から24cmの所に径約8cmの孔が穿たれている
46図-3	109.0	38.0	8.0	ナラ	底辺から27cmの所に径約8cmの孔が穿たれている
46図-4	117.0	38.0	9.0	ナラ	底辺から85cmの所に径約12cmの孔が穿たれている

第32表 井戸木杵観察表



写 真 图 版



下町田遺跡V調査地区全域（上が南）



下町田遺跡I～V調査地区（上が北）



SB-84 (南東より)



SB-85 炉 (南より)



SB-84 炉 (南より)



SB-85 土器出土状況 (北より)



SB-84 炭化物出土状況 (西より)



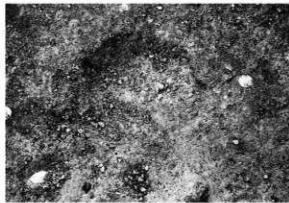
SB-85 土器出土状況 (北より)



SB-85 (南より)



SB-86 (南より)



SB-86 炉2 (南より)



SB-86 炭化物出土状況 (南より)



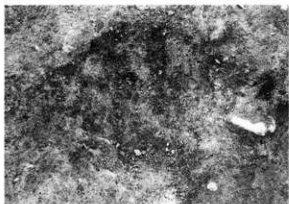
SB-86 炉3 (南より)



SB-87 (南東より)



SB-86 P15 (北より)



SB-87 炉 (南より)



SB-86 土器出土状況 (東より)



SB-88 (南より)



SB-88 炉2 (東より)



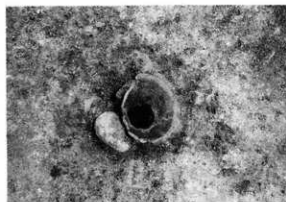
SB-89 炉3 (南より)



SB-89 (南より)



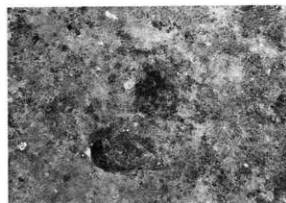
SB-89 P8 (北より)



SB-89 炉1 (南より)



SB-89 西南コーナー (北より)



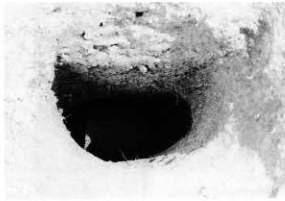
SB-89 炉2 (西より)



SB-89 Po-1, Po-2 (西より)



SB-89 Po-4 (南より)



SB-91 P1 (南より)



SB-90 (南より)



SB-91 Po1 (北より)



SB-90 炉 (南より)



SB-91 P02, Po3, Po8 (東より)



SB-91 (南より)



SB-91 石出土状況 (南より)



SB-92 (西より)



SB-93 Pol, P02 (南より)



SB-92 炉 (東より)



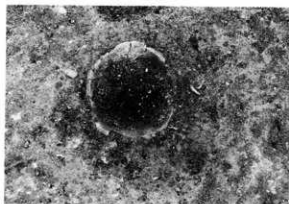
SB-93 石出土状況 (西より)



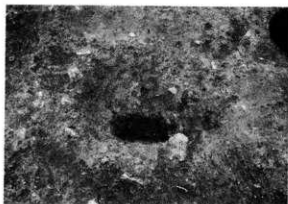
SB-93 (南より)



SB-94 (南より)



SB-93 炉 (南より)



SB-94 炉 (南より)